

学際基礎科目・人文科学系			
哲学思想史 a		佐野 好則	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ>西洋古代中世の哲学思想史を概観する。			
<到達目標> 各哲学者の思想を他の哲学者の思想との関連に注目して理解する。神学の背景としての哲学の重要性を認識する。			
<授業の概要>講義とディスカッションを通して、各哲学者の思想の特徴や相互の関連性を検討する。			
<履修条件>学部 1, 2 年を主な対象学年とする。			
<授業計画> 第 1 回 哲学の始まり：ヘシオドスの神話的思考からミレトス派の哲学的思考への発展を考察する。 文献：ヘシオドス『神統記』、アリストテレス『形而上学』（授業内にテキスト配布） 第 2 回 タレス、アナクシマンドロス、アナクシメネス：ミレトス派の自然哲学を考察する。 文献：タレス断片、アナクシメネス断片、アナクシメネス断片(授業内にテキスト配布) 第 3 回 ピタゴラス派、ヘラクレイトス、パルメニデス：ミレトス派自然哲学の展開を考察する。 文献：ピタゴラス派断片、ヘラクレイトス断片、パルメニデス断片(授業内にテキスト配布) 第 4 回 エムペドクレス、アナクサゴラス、原子論：パルメニデスの影響下の自然哲学の展開を考察する。 文献：エムペドクレス断片、アナクサゴラス断片、原子論断片(授業内にテキスト配布) 第 5 回 ソフィスト達とソクラテス：人間を中心とするソクラテスの哲学とその背景を考察する。 文献：作者不明『両論』、プラトン『ソクラテスの弁明』『ゴルギアス』（授業内にテキスト配布） 第 6 回 プラトン(1)：イデア論の基盤を哲学諸派との関連に注目して考察する。 文献：プラトン『メノン』、『パイドン』、『国家』（授業内にテキスト配布） 第 7 回 プラトン(2)：イデア論の展開を考察する。 文献：プラトン『パルメニデス』、『ティマイオス』（授業内にテキスト配布） 第 8 回 アリストテレス(1)：実体論の基盤をプラトンの哲学との関連に注目して考察する。 文献：アリストテレス『形而上学』（授業内にテキスト配布） 第 9 回 アリストテレス(2)：実体論の展開、倫理学を考察する。 文献：アリストテレス『政治学』、『ニコマコス倫理学』（授業内にテキスト配布） 第 1 0 回 ストア派、エピクロス派：ヘレニズム哲学における新しい傾向の哲学諸派を考察する。 文献：ストア派断片、エピクロス『メノイケウス宛の手紙』（授業内にテキスト配布） 第 1 1 回 プロティノス：ローマ時代におけるプラトン派哲学の展開を考察する。 文献：プロティノス『エンネアデス』（授業内にテキスト配布） 第 1 2 回 アウグスティヌス(1)：新プラトン主義の影響を中心に考察する。 文献：アウグスティヌス『告白』、『教師論』（授業内にテキスト配布） 第 1 3 回 アウグスティヌス(2)：哲学的諸概念の神学的応用を考察する。 文献：アウグスティヌス『告白』、『神の国』（授業内にテキスト配布） 第 1 4 回 アンセルムス、トマス・アキナス：スコラ哲学における哲学諸派の受容を考察する。 文献：アンセルムス『モノロギオン』、トマス・アキナス『神学大全』（授業内にテキスト配布） 第 1 5 回 総括			
<準備学習等の指示>各哲学者による著作の抜粋を読み、内容について検討しておくことが予習として課される。			
<テキスト>テキストとなる各哲学者の著作の抜粋を毎回配布する。			
<参考書・参考資料等>以下のような概説書を授業と並行して各自読むことを推奨する。 納富信留『ギリシア哲学史』筑摩書房、2021 年 熊野純彦『西洋哲学史、古代から中世へ』岩波新書、2006 年			
<学生に対する評価（方法・基準）>出席が 2/3 に満たない者は評価の対象としない。評価は授業でのディスカッションへの参加とレポート提出により、各哲学者の思想の理解、および相互の関連性の理解の到達度を基準とする。 評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～⑤の内容を重視する。			

学際基礎科目・人文科学系			
哲学思想史 b		佐野 好則	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ>西洋近世・現代の哲学思想史を概観する。			
<到達目標> 各哲学者の思想を他の哲学者の思想との関連に注目して理解する。神学の背景としての哲学の重要性を認識する。			
<授業の概要>講義とディスカッションを通して、各哲学者の思想の特徴や相互の関連性を検討する。			
<履修条件>学部1, 2年を主な対象学年とする。			
<授業計画> 第1回 デカルト(1): スコラ学の伝統との関連について考察する。 文献:『方法序説』(授業内にテキスト配布) 第2回 デカルト(2): 神の無限と人間の有限について考察する。 文献:『省察』(授業内にテキスト配布) 第3回 イギリス経験論(1): ロックの経験論哲学について考察する。 文献:『人間知性論』(授業内にテキスト配布) 第4回 イギリス経験論(2): ヒュームにおける経験論哲学の展開について考察する。 文献:『人性論』(授業内にテキスト配布) 第5回 カント(1): 批判主義について考察する。 文献:『純粋理性批判』(授業内にテキスト配布) 第6回 カント(2): 道徳論について考察する。 文献:『実践理性批判』(授業内にテキスト配布) 第7回 ヘーゲル(1): 歴史哲学について考察する。 文献:『精神現象学』(1)(授業内にテキスト配布) 第8回 ヘーゲル(2): 客観的精神について考察する。 文献:『精神現象学』(2)(授業内にテキスト配布) 第9回 キルケゴール(1): 実存主義について考察する。 文献:『恐れとおののき』(授業内にテキスト配布) 第10回 キルケゴール(2): 絶望と信仰について考察する。 文献:『不安の概念』(授業内にテキスト配布) 第11回 ニーチェ(1): ディオニュソスの/アポロンのについて考察する。 文献:『悲劇の誕生』(授業内にテキスト配布) 第12回 ニーチェ(2): 永遠回帰について考察する。 文献:『ツァラトゥストラはこう言った』(授業内にテキスト配布) 第13回 ハイデガー(1): 存在への問いについて考察する。 文献:『哲学とは何か』(授業内にテキスト配布) 第14回 ハイデガー(2): 解釈学的現象学について考察する。 文献:『存在と時間』(授業内にテキスト配布) 第15回 総括			
<準備学習等の指示>各哲学者による著作の抜粋を読み、内容について検討しておくことが予習として課される。			
<テキスト>テキストとなる各哲学者の著作の抜粋を毎回配布する。			
<参考書・参考資料等> 小嶋潤『西洋思想上のキリスト教』刀水書房、1992年 熊野純彦『西洋哲学史、近代から現代へ』岩波新書、2006年			
<学生に対する評価(方法・基準)>出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。評価は授業でのディスカッションへの参加とレポート提出により、各哲学者の思想の理解、および相互の関連性の理解の到達度を基準とする。 評価にあたっては、共通評価指標(1)の①～⑤の内容を重視する。			

学際基礎科目・人文科学系			
キリスト教と世界史 b		小宮 正安	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞いわゆる「西洋クラシック音楽」を文化史的な視点から捉えることを通じて、中世から現代にいたるヨーロッパの歴史を俯瞰しながら、キリスト教文化の変遷やヨーロッパの文化の特質を学びます。			
＜到達目標＞音楽社会史・音楽文化史的な視点から、キリスト教文化の変遷やヨーロッパの文化の特質を学び、知識を深めることができます。			
＜授業の概要＞中世から現代にいたるいわゆる「西洋クラシック音楽」の変遷を文化史的に辿りながら、それぞれの時代における宗教観や社会観について、芸術史、科学史、社会史等の視点も織り交ぜつつ、ヨーロッパの社会や文化の奥底に渦巻くものを学んでゆきます。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 イントロダクション・概論 第2回 中世の身体観とグレゴリオ聖歌の興隆（～15世紀） 第3回 ルネッサンスのパラダイム転換と音楽の変容①（16世紀前半） 第4回 ルネッサンスのパラダイム転換と音楽の変容②（16世紀後半） 第5回 バロックの「揺り戻し」と複雑化する音楽①（17世紀前半） 第6回 バロックの「揺り戻し」と複雑化する音楽②（17世紀後半） 第7回 ロココと啓蒙主義が音楽にもたらしたもの①（18世紀前半） 第8回 ロココと啓蒙主義が音楽にもたらしたもの②（18世紀後半） 第9回 市民社会の到来と音楽の神格化①（1800～1825） 第10回 市民社会の到来と音楽の神格化②（1825～1850） 第11回 市民社会の成熟と拡大する音楽①（1850～1875） 第12回 市民社会の成熟と拡大する音楽②（1875～1900） 第13回 ヨーロッパの危機と音楽の新時代①（20世紀前半） 第14回 ヨーロッパの危機と音楽の新時代②（20世紀後半） 第15回 総論・まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 授業内で指示した内容を予習してきてください。			
＜テキスト＞ 『名曲誕生 時代が生んだクラシック音楽』小宮正安著（山川出版社）			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で教員が指示します。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度、レポートや試験を総合的に見ながら、特に次の3点（講義の内容や教師のコメントを理解しているか、発表やレポートは論理的か、主体的に考えられるか）に基づき評価します。			

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目選択換算			
キリスト教と芸術 1 美術史 a		真下 弥生	＜担当形態＞ 単独
前期・2 単位		＜登録条件＞なし	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 美術／造形芸術表現を多角的に鑑賞・分析する。			
＜到達目標＞ 受講生は、美術／造形芸術表現を、自身の目や視覚以外の感覚、これまでの経験や未知の可能性をも動員して、多角的・批判的に分析する視点を培うことを目標とする。			
＜授業の概要＞美術（主に視覚を用いて鑑賞する造形芸術表現）における多角的な分析方法を、実習を交えながら学ぶ。キリスト教に関わる美術作品のみならず、他宗教、非宗教の作品も幅広く比較しながら、広い視野で作品に向き合い、さまざまな角度から検討する。			
＜履修条件＞ 高等学校課程の歴史（世界史、日本史、他）の学習経験があることが望ましいが、未履修者も歓迎する。			
＜授業計画＞ （予定。受講生の関心に合わせて変更する可能性がある） 第1回 オリエンテーション、デモンストレーション：多角的に作品を見るということ 第2回 「美術」とは何か、その特徴と多様性 第3回 美術表現の分析 1・絵画／二次元作品を元に：構図—まず観察すること 第4回 美術表現の分析 2：主題 第5回 美術表現の分析 3：歴史的背景・コンテキスト 第6回 美術表現の分析 4：素材 第7回 美術表現の分析 5：総合演習 第8回 彫刻／三次元作品 1 第9回 彫刻 2 第10回 建築 1 第11回 建築 2 第12回 工芸：応用美術 第13回 非西欧圏の美術 第14回 現代美術 第15回 まとめ 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 好奇心と柔軟な思考をもって、授業に臨んでほしい。美術館やギャラリーに積極的に足を運び、芸術表現に親しむことを勧める。また、授業を通して、学問的誠実性（academic integrity）の姿勢を培うことを期待する。			
＜テキスト＞ なし（講義ではスライドを映写し、プリントを配布する）			
＜参考書・参考資料等＞ 講義内で紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞学期末試験（50％）、美術展のレポート（50％）を総合して評価する。 試験は、共通評価指標（1）①②の習得を確認し、美術展レポートは、共通評価指標③の演習、いわば作品や展覧会から受けた印象および踏み込んだ分析を行い、かつそれを自分の言葉で記述しているか、共通評価指標（1）④⑤に基づいて評価する。 出席が全体の 2/3 に満たない場合は、評価の対象としない。			

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目選択換算			
キリスト教と芸術 1 美術史 b		真下 弥生	＜担当形態＞ 単独
後期・2 単位		＜登録条件＞前期 a の履修を前提とするが、未履修者も可	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ キリスト教文化と美術／造形芸術表現の相互の関わりを探究する。			
＜到達目標＞ 受講生は、キリスト教に関わる文化の諸相を、美術／造形芸術表現を注意深く分析・検討することを通して、探究する姿勢の涵養を目標とする。			
＜授業の概要＞ 前期で学んだ美術／造形芸術表現の分析手法を基盤に、キリスト教世界の文化、その底流に流れる精神のありようを探る。日本をはじめとする、非欧米圏におけるキリスト教に関わる美術作品や、伝統的な美術表現の枠を更新・横断する現代美術も取り上げ、現代社会におけるキリスト教の姿をも検討する。			
＜履修条件＞ 前期 a の履修を前提とした内容となるが、未履修者は相談に応じる。 また、高等学校課程の歴史（世界史、日本史、他）の学習経験があるとよいが、未履修者も歓迎する。			
＜授業計画＞ 第 1 回 オリエンテーション、デモンストレーション：複眼的にキリスト教美術を見る（前期復習） 第 2 回 キリスト教美術の特徴・他の宗教美術との比較、キリスト教美術の持つ「問題」 第 3 回 キリスト教美術の時間軸概説 1：主に西洋美術・礼拝堂建築の流れ 第 4 回 キリスト教美術の時間軸概説 2 第 5 回 キリスト教美術の時間軸概説 3 第 6 回 キリスト教美術の時間軸概説 4 第 7 回 キリスト教美術の時間軸概説：日本 第 8 回 物語とキリスト教美術 1：「物語」とは何か、旧約聖書 1 第 9 回 物語とキリスト教美術 2：旧約聖書 2 第 1 0 回 物語とキリスト教美術 3：新約聖書 1 第 1 1 回 物語とキリスト教美術 4：新約聖書 2 第 1 2 回 物語とキリスト教美術 5：聖人伝説 第 1 3 回 現代社会とキリスト教美術 1 第 1 4 回 現代社会とキリスト教美術 2 第 1 5 回 まとめ 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 好奇心と柔軟な思考をもって、授業に臨んでほしい。美術館やギャラリーに積極的に足を運び、芸術表現に親しむことを勧める。また、授業を通して、学問的誠実性（academic integrity）の姿勢を培うことを期待する。			
＜テキスト＞ なし（講義ではスライドを映写し、プリントを配布する）			
＜参考書・参考資料等＞ 講義内で紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞学期末試験（50％）、美術展のレポート（50％）を総合して評価する。 試験は、共通評価指標（1）①②の習得を確認し、美術展レポート（前期と異なり、後期は展覧会を指定する）は、共通評価指標③の演習、いわば作品や展覧会から受けた印象および踏み込んだ分析を行い、かつそれを自分の言葉で記述しているか、共通評価指標（1）④⑤に基づいて評価する。 出席が全体の 2/3 に満たない場合は、評価の対象としない。			

学際基礎科目・社会科学系			
法と人権 1 法学概論		三浦 基生	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 人権に関する様々な思想と法学上の論点を文献購読を通して学びます。			
＜到達目標＞ 1. 現代の法とそれを支える歴史的な背景・思想を理解する。 2. 現代社会の諸問題の法的側面を理解するための基礎知識を体得する。 3. 以上を踏まえ、牧師・教師が直面しうる問題の法的側面を指摘することができるようになる。			
＜授業の概要＞ 「法と人権」に関する文献・判例を読みながら法学とその背後にある考え方を学んでいきます。特に受講生が関心を持ちやすい判例や論点から法学の基礎的な問題を考えます。			
＜履修条件＞ 特になし。（予習以外の事前知識がない前提で講義をしますので、用語について疑問がある際は遠慮なく質問してください。）			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション／法とそれ以外のルールの違い、社会における法の役割について学ぶ 第2回 歴史と理論（1）／ローマ法・教会法の歴史と人権 第3回 歴史と理論（2）／自然法論と法実証主義 第4回 歴史と理論（3）／現代人権論と「動物の権利」論 第5回 コメント返し・ディスカッション回（第2回～第4回分） 第6回 憲法／権力分立と権利の保障 第7回 刑法 第8回 民法（1）／物権と債権 第9回 民法（2）／家族法 第10回 コメント返し・ディスカッション回（第6回～10回分） 第11回 情報（1）／個人情報の取扱について 第12回 情報（2）／知的財産権について 第13回 宗教と法／政教分離、宗教法人、墓地埋葬 第14回 コメント返し・ディスカッション回（第12回～第14回分） 第15回 遵法責務／なぜ法に従うべきなのか？ ※講義の内容や順番は受講生の希望や関心に応じて変更することがあります。			
＜準備学習等の指示＞ 毎回文献を読むことに加え、普段から新聞・テレビなどでニュースを見るようにしてください。 授業の前半は教員による解説ですが、後半は学生の皆さんに興味のある文献 or 判例を選んでもらい簡単な報告を分担してもらいます。（初回の授業で相談します。）			
＜テキスト＞ 教科書指定はありません。使用する文献は授業の中で教員が紹介します。			
＜参考書・参考資料等＞ 森島豊『人権思想とキリスト教 日本の教会の使命と課題』（教文館、2016）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 文献報告50％ 期末レポート50％ ※評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～⑤の内容による。			

学際基礎科目・社会科学系			
法と人権 2 日本国憲法		三浦 基生	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> 日本国憲法		
<授業のテーマ> 日本国憲法に関する基本的な知識を学んでいきます。			
<到達目標> 1. 日本国憲法についての基本的な知識を習得する。 2. 現代社会の諸問題について憲法上の論点と関連付けることができる。 3. 以上を踏まえ、自分なりの考えを述べることができる。			
<授業の概要> 日本国憲法に関連する歴史的背景や関連する代表的な思想について学んでいきます。			
<履修条件> 特になし。（予習以外の事前知識がない前提で講義をしますので、用語について疑問がある際は遠慮なく質問してください。）			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション／憲法と立憲主義 第2回 歴史（1）大日本帝国憲法の制定過程と特徴 第3回 歴史（2）日本国憲法の制定過程の経緯 第4回 歴史（3）日本国憲法の制定過程の論点（八月革命説とノモス主権論） 第5回 憲法を支える諸原理 第6回 権力分立（1）政治制度（国会・改正・財政） 第7回 権力分立（2）政治制度（内閣・地方自治） 第8回 権力分立（3）司法 第9回 権利保障（1）国籍・外国人・法人 第10回 権利保障（2）法の下での平等と適正な手続への権利 第11回 権利保障（3）精神的自由Ⅰ（思想・良心の自由、信教の自由と政教分離） 第12回 権利保障（4）精神的自由Ⅱ（表現の自由、学問の自由） 第13回 権利保障（5）経済的自由 第14回 権利保障（6）社会的諸権利（家族、生存権、教育、労働、幸福追求権） 第15回 まとめ ※内容や講義の順番は受講生の希望や関心に応じて変更することがあります。			
<準備学習等の指示> 毎回テキストの指定箇所を読むことに加え、普段から新聞・テレビなどでニュースを見るようにしてください。 授業の前半は教員による解説ですが、後半は学生の皆さんに興味のある文献 or 判例を選んでもらい簡単な報告を分担してもらいます。（初回の授業で相談します。）			
<テキスト> 斎藤一久・堀口悟郎（編）『図録 日本国憲法（第二版）』（弘文堂，2021）			
<参考書・参考資料等> 森島豊『人権思想とキリスト教 日本の教会の使命と課題』（教文館，2016） 樋口陽一『憲法（第四版）』（勁草書房，2021） ※第三版（創文社，2007）でも可。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 文献報告50％ 期末レポート50％ ※評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～⑤の内容による。			

学際基礎科目・社会科学系			
ドイツの歴史と教会 a		佐藤 真一	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞通年履修が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 古代末期から中世末期のドイツの歴史的発展と密接に関連するドイツ教会史について学ぶ。			
＜到達目標＞①時代背景との関連で教会の歩みを理解する。②各時代の教会の課題と特徴について理解する。 ③歴史的考察方法を身につける。			
＜授業の概要＞古代末期のゲルマン民族の社会と宗教について触れたあと、中世ドイツの国家と社会と関連づけながら教会史を考察する。			
＜履修条件＞ なし			
＜授業計画＞ 第1回 「ドイツを旅する」。今年度扱う時代のドイツの風景・画像（250ほど）をスクリーンで見る。 第2回 「ゲルマン民族」。ゲルマン民族の社会と固有の宗教、大移動について学ぶ。 第3回 「フランク王国の台頭」。西欧世界の形成に重要な役割を果たしたフランク族の発展を他のゲルマン諸族との対比を通じて考察する。 第4回 『『ドイツ人の使徒』ボニファティウス』。ドイツの地の伝道活動に従事し殉教した人物の足跡をたどる。 第5回 「カール大帝とヨーロッパ」。カール大帝のもとで古典古代の文化、ゲルマン民族の精神、キリスト教が融合し、ヨーロッパが形成される。カール大帝によるキリスト教の奨励、保護について学ぶ。 第6回 「カロリング・ルネサンスとアルクイン」。カール大帝の宮廷での学芸復興について学ぶ。 第7回 「オットー大帝における『国家と教会』」。大帝のもとでの帝国教会体制を考察する。 第8回 「ドイツにおける修道制」。中世の精神生活に大きな意義をもった修道制の由来とドイツにおける展開をたどる。とくに、ドイツにおける「ベネディクト会則」の受容について学ぶ。 第9回 「叙任権闘争」。中世世界は、皇帝権と教皇権という二つの中心の協調と闘争の舞台であった。中世前半の前者の優位に対する挑戦を意味する教皇グレゴリウス7世の皇帝ハインリヒ4世との闘いを学ぶ。 第10回 「十字軍の時代」。11世紀末から13世紀後半に試みられた聖地奪還の大遠征とその性格を概観する。あわせてドイツ騎士団の成立についても学ぶ。 第11回 「ロマネスクとゴシック」。教会堂建築の歴史において12、13世紀のロマネスク様式とゴシック様式は輝かしい発展を遂げた。ドイツ各地の大聖堂を見ながら、その特徴を学ぶ。 第12回 「中世都市の成立と市民意識」。12世紀いらい数多く成立する都市はゲルマン的な誓約団体思想とキリスト教的な神の平和思想に基づき、市民意識を養成した。リューベックなどに即してそれを考察する。 第13回 「中世社会における貧困」。アッシジのフランチェスコに見られるような「キリストの貧者」や「使徒的生活」の理念がドイツの教会・修道院改革のなかでどのような展開をしていくのかを考察する。 第14回 「教皇制の盛衰と公会議制」。教皇インノケンティウス3世のもとで絶頂期に達した教皇制も、14世紀以降衰退に向かい、教皇もその決定に服すべきであるとする公会議至上説が台頭する。その経過を学ぶ。 第15回 「中世末の教会/まとめ」。14、15世紀の教会・修道院の墮落とそれに対する改革の動きと人文主義運動。フスの活動、民衆の敬虔について学ぶ。			
＜準備学習等の指示＞あらかじめドイツ史の概説書、例えば坂井榮八郎著『ドイツ史10講』（岩波新書）を読んでおくこと。毎回配布されるプリントをよく読み復習しておくこと。			
＜テキスト＞『最新世界史図説 タペストリー 十九訂版』（帝国書院）を各自で購入し、毎回持参すること。			
＜参考書・参考資料等＞授業のなかでそのつど回覧する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞3分の2以上の出席が前提。授業への積極的参加、レポート、作文。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。			

学際基礎科目・社会科学系			
ドイツの歴史と教会 b		佐藤 真一	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件>通年履修が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 16 世紀前半のルターの宗教改革から 20 世紀に至るドイツの教会史を時代背景との関連で学ぶ。			
<到達目標>①近代ドイツの国家・社会・文化との関連で教会の歩みを理解する。②各時代の教会の課題と特徴について理解する。③歴史的考察方法を身につける。			
<授業の概要>近代ドイツ史とキリスト教との関連を展望する。宗教改革の展開、三十年戦争、プロイセンの台頭、ナポレオン戦争、「自由と統一」を求める動き、工業化と社会問題、ビスマルクと「文化闘争」、ヴィルヘルム 2 世時代の「福音主義社会会議」の活動、第一次世界大戦下での国粋主義とキリスト教、ナチスドイツと教会闘争、戦後社会とキリスト教について考察する。			
<履修条件> なし			
<授業計画> 第 1 回 「ルター。ヴィッテンベルクへの道」。宗教改革者ルターの生涯とその時代を展望する。 第 2 回 「ヴォルムス帝国議会のルター」。自らの信仰の立場を堅持する宣言をし、帝国追放刑に処せられる経過を学ぶ。 第 3 回 「ルターと農民戦争」。ルターの改革は国民各層の支持を受けるが、農民たちも当初はルターの支持者であった。その後ミュンツァーに率いられた中部ドイツの運動は過激化する。ルターの対応を考察する。 第 4 回 「プファルツ選帝侯国と改革派」。ドイツのプロテスタンティズムはルター派が主流であるが、改革派の立場に立ったフリードリヒ 3 世の歩みと「ハイデルベルク信仰問答」の意義について学ぶ。 第 5 回 「三十年戦争」。宗派対立から生じた最大規模の宗教戦争の経過をたどり、その終結にあたってルター派、改革派のカトリックとの同権が認められたヴェストファーレン条約について学ぶ。 第 6 回 「大選帝侯から軍人王へ——プロイセンの台頭」。ブランデンブルク・プロイセンの興隆に貢献した君主たち。ユグノーの受け入れを進めた大選帝侯と敬虔主義に共感した軍人王の足跡をたどる。 第 7 回 「フリードリヒ大王と啓蒙専制政治」。プロイセンをヨーロッパの強国の地位に高めたフリードリヒ大王の治績（オーストリア継承戦争と七年戦争）と寛容政策について考察する。 第 8 回 「ナポレオン戦争と国民意識」。ナポレオンのドイツ支配のなか近代化が進められたとともに、国民意識が芽生えていった。プロイセン改革、解放戦争、ウィーン会議とウィーン体制の推移について学ぶ。 第 9 回 「ヴィヒェルンと社会問題」。ドイツの工業化の進展に伴って大都市では労働者の境遇をめぐる社会問題が大きな問題となった。こうした現状にたいする教会の側からの救済事業（内国伝道）について学ぶ。 第 1 0 回 「ビスマルクと『文化闘争』」。ドイツ統一の指導者であるビスマルクは、国家と教会を切り離すことに努め、国家の一層の統合のためカトリック教会との闘いを推し進めた。この闘争の経過を展望する。 第 1 1 回 「ヴィルヘルム 2 世時代の『新航路』と社会問題」。ビスマルクの辞任後、世界政策へと転じていった皇帝は、内政面でははじめ労働者保護の政策を進めた。そうしたなかで発足した福音主義社会会議を考察する。 第 1 2 回 「第一次世界大戦と国粋主義」。防衛戦争としてドイツ国民の大多数が感激をもって受けとめた戦争はやがて戦争目的論争を引き起こし、ルターを引き合いにだす国粋的な動きも現れてくる。その経過をたどる。 第 1 3 回 「ヴァイマル共和国の行方」。左右両翼から攻撃を受け、もろくも崩壊する共和国。教会は民主主義に対応しえたであろうか。この点を考察する。 第 1 4 回 「ナチスドイツとキリスト教」。ヒトラー独裁下のドイツ教会闘争について学ぶ。 第 1 5 回 「東西ドイツと統一ドイツにおけるキリスト教／まとめ」。			
<準備学習等の指示>あらかじめドイツ史の概説書、例えば坂井榮八郎著『ドイツ史 1 0 講』（岩波新書）を読んでおくこと。毎回配布されるプリントをよく読み復習しておくこと。			
<テキスト>『最新世界史図説 タペストリー 十九訂版』（帝国書院）を各自で購入し、毎回持参すること。			
<参考書・参考資料等>授業のなかでそのつど回覧する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>3 分の 2 以上の出席が前提。授業への積極的参加、レポート、作文。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。			

学際基礎科目・自然科学系			
生命の理解とバイオエシックス a		上遠 岳彦	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞a, b, 通年の登録が望ましい	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 生物学が解き明かす生命の成り立ちと、被造物の多様性			
＜到達目標＞ 1. 自己の身体の生物学的な構造と働きについて理解する。 2. 人間以外の被造物との関わりの中で生かされている存在として、生態学の視点で人間を捉えることができるようになる。			
＜授業の概要＞ 1. 科学とはどのような営みなのか 2. 細胞や遺伝子の働きなど、生命を支えるメカニズムを学ぶ。 3. 多様な生態系の働きを学び、実際の動植物の観察を通して理解を深める。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 科学とはなにか 1 宗教と科学の相剋の歴史 第2回 科学とはなにか 2 仮説と検証。実験の計画と実施 第3回 科学とはなにか 3 人間の営みとしての科学の限界 第4回 生物と無生物 -生命をどう理解するか- コロナウイルスの生き方を理解する 第5回 体を作る細胞と遺伝子の働き 1 生物の体は細胞の集まりである 第6回 体を作る細胞と遺伝子の働き 2 基本的な細胞のはたらきと免疫、ワクチンの仕組み 第7回 体を作る細胞と遺伝子の働き 3 遺伝子とは何か 第8回 体を作る細胞と遺伝子の働き 4 遺伝の仕組み 第9回 遺伝の仕組みと生物の進化 第10回 身近な生物の世界-野外観察(天候等により変更の場合あり) 第11回 バイオエシックスとは何か 第12回 バイオエシックスと私たちの関わり 第13回 多様な被造物の世界 1 食物連鎖 第14回 生物多様性と被造物の世界 2 共に関わり命をつなぐ生物多様性 第15回 総括とディスカッション 定期試験に代えてレポートを提出する			
＜準備学習等の指示＞ これまでの教育課程で生物学を学んでいない人は、中学・高校教科書レベルの生物学の教科書などで事前学習をすると、理解の助けになる。			
＜テキスト＞ 授業と関連する印刷物を配布し、テキストとする。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業内容に合わせて参考となる書籍を紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業内での積極的貢献(30%)、授業内での小テスト(20% 到達目標の1に対応)、及び、最終レポート(50% 到達目標の2に対応)で、総合的に評価する。評価にあたっては、共通評価指標 (1) の①②④⑤の内容を重視する。			

学際基礎科目・自然科学系			
生命の理解とバイオエシックス b		上遠 岳彦	＜担当形態＞ 単独
後期・2 単位		＜登録条件＞特になし	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ バイオテクノロジーや環境問題の理解と、社会における生物学、バイオエシックス			
＜到達目標＞ 1. バイオテクノロジーと、その技術について理解する。 2. バイオテクノロジーの社会の中での意義と問題点を理解し、バイオエシックスの観点から再考する。 3. 自分自身が直面する問題として、科学技術の発展と環境問題を考える。			
＜授業の概要＞ 1. 遺伝子の働きなど、生物のメカニズムの知識を元に、バイオテクノロジーを理解する。 2. バイオテクノロジーや生態学の知識を元に、バイオエシックスと環境問題の理解を深める。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 バイオテクノロジーとは、どういうものか 第2回 伝統的なバイオテクノロジー：発酵食品 第3回 遺伝子組換え技術の基礎 1 どうやって遺伝子を変えるのか 第4回 遺伝子組換え技術の基礎 2 遺伝子の解析とそのインパクト 第5回 食卓に上る遺伝子改変作物 食べても安全なのか 第6回 発生学の基礎～受精卵からどうやって体が作られるか 第7回 クローン技術の基礎とバイオエシックスから見た問題点 第8回 医療技術とバイオエシックス～コロナウイルスワクチン、iPS 細胞 第9回 生物多様性を理解する 1 ～生物多様性とは何か 第10回 生物多様性を理解する 2 ～身近な自然と外来生物問題 第11回 身近な生物の世界-野外観察(天候等により変更の場合あり) 第12回 環境破壊と生物多様性 1～プラスチックゴミとリサイクル 第13回 環境破壊と生物多様性 2～地球温暖化と生態系への影響 第14回 環境破壊と生物多様性 3～SDG's 第15回 環境問題やバイオエシックスに関連する総合討論 定期試験に代えてレポートを提出する			
＜準備学習等の指示＞ これまでの教育課程で生物学を学んでいない人、及び、前期の生命の理解とバイオエシックス a を履修していない人は、高校教科書レベルの生物学の教科書などで事前学習をすると、理解の助けになる。			
＜テキスト＞ 授業と関連する印刷物を配布し、テキストとする。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業内容に合わせて参考となる書籍を紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業内での積極的貢献(30%)、授業内での小テスト(20% 到達目標の 1 に対応)、及び、最終レポート(50% 到達目標の 2,3 に対応)で、総合的に評価する。評価にあたっては、共通評価指標 (1) の①②④⑤の内容を重視する。			

学際基礎科目・自然科学系		
化学入門 a	角田 誠	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 通年（a, b）の登録が望ましい。
教職課程における要件・区分等	該当せず	
＜授業のテーマ＞ 現代社会が抱える課題を背景にして化学の基礎を学ぶ。		
＜到達目標＞ 現代社会が直面する課題を通して、科学的なものの見方を身につけるとともに化学の基礎を理解する。		
＜授業の概要＞ 地球における様々な課題を化学の側面から明らかにしつつ、分子、共有結合、酸・塩基などについて講義する。		
＜履修条件＞ 特になし。		
＜授業計画＞ 第1回 概論 第2回 持続可能な未来のための化学 第3回 分子 第4回 化学変化 第5回 原子と分子 第6回 原子の構造 第7回 放射と物質 第8回 分子の形 第9回 分子とモル 第10回 石炭の化学 第11回 ガソリンの化学 第12回 水素結合 第13回 共有結合 第14回 酸・塩基 第15回 総論		
＜準備学習等の指示＞ 毎回、復習すること。		
＜テキスト＞ 授業時に資料・プリントを配布する。		
＜参考書・参考資料等＞ 改訂 実感する化学＜上巻＞ A Project of the American Chemical Society 著 エヌティーエス 2015 年		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ レポート、出席状況。評価にあたっては、共通評価指標（1）の④、⑤の内容を重視する。		

学際基礎科目・自然科学系		
化学入門 b	角田 誠	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位	＜登録条件＞通年（a, b）の登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
＜授業のテーマ＞ 現代社会が抱える課題を背景にして化学の基礎を学ぶ。		
＜到達目標＞ 現代社会が直面する課題を通して、科学的なものの見方を身につけるとともに化学の基礎を理解する。		
＜授業の概要＞ 私たちの身の回りにおける様々な課題を通して、酸化還元、有機化学などについて講義する。		
＜履修条件＞ 特になし。		
＜授業計画＞ 第1回 概論 第2回 酸化還元 第3回 電池 第4回 プラスチックとポリマー 第5回 官能基と反応特性 第6回 有機化学 第7回 薬 第8回 分子の左と右 第9回 栄養 第10回 アミノ酸 第11回 ビタミン 第12回 遺伝子とDNA 第13回 タンパク質 第14回 遺伝子工学 第15回 総論		
＜準備学習等の指示＞ 毎回、復習すること。		
＜テキスト＞ 授業時に資料・プリントを配布する。		
＜参考書・参考資料等＞ 改訂 実感する化学＜下巻＞ A Project of the American Chemical Society 著 エヌティーエス 2015年		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ レポート、出席状況。評価にあたっては、共通評価指標（1）の④、⑤の内容を重視する。		

学際基礎科目・情報科学系		
情報基礎	竹井 潔	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	
<授業のテーマ> 学生が情報社会で生きていく力として、コンピュータやネットワークの知識を理解し、ワープロソフト・表計算ソフトの基本的なスキルを習得する。		
<到達目標> 学生がインターネット社会におけるメディアリテラシーを身に着けるとともに、ワープロソフト・表計算ソフト等の基本的スキルを習得し、大学及び卒業後にパソコンが活用できるスキルを習得する。		
<授業の概要> 学生がパソコンの基本知識やワープロソフト・表計算ソフトのスキルを習得し、情報社会で必要となる基本的な情報リテラシーを身に着ける。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 ガイダンス 第2回 コンピュータの歴史と構造 第3回 インターネットの仕組みと活用 第4回 メディアコミュニケーションについて 第5回 情報セキュリティと個人情報 第6回 コンピュータウィルスとコンピュータ犯罪 第7回 知的財産権について 第8回 ワープロソフトの基本操作 第9回 ワープロソフトの活用 基本的書式設定 第10回 ワープロソフトの活用 ビジュアル要素 第11回 ワープロソフトの活用 レイアウト設定、表作成 第12回 表計算ソフトの基本操作 第13回 表計算ソフトの活用 表計算 第14回 表計算ソフトの活用 データベースの作成 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 授業中に必要に応じて指示する。パソコンに慣れていない人はタイピングの練習をしておくこと。		
<テキスト> 授業中に指示する。		
<参考書・参考資料等> 定平誠『しっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト Windows10, Office2019 対応版』技術評論社		
<学生に対する評価（方法・基準）> 平常点（50%）、期末課題（50%） 平常点及び期末課題の評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。		

神学基礎科目 A		
キリスト教通論 I	須田 拓	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 学部1年生は必修	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 神学のある教会生活について学び、神学を学ぶための土台を形成する。		
<到達目標> 教会とは何か、信仰生活でなされていることにどのような意味があるのかについて、神学的に考えることができるようになる。		
<授業の概要> 教会生活について学ぶと共に、議論することを通して、神学的に考えるとはどのようなことであるかを学ぶ。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 「新しい伝道の時代へ」（はじめに） 第3回 「教会生活の鍵」 第4回 「伝道的教会と伝道的信仰」（前半） 第5回 「伝道的教会と伝道的信仰」（後半） 第6回 「洗礼」 第7回 「聖餐」（前半） 第8回 「聖餐」（後半） 第9回 「信仰告白と信仰生活」 第10回 「信仰告白と教会形成」 第11回 「祈りの意味」 第12回 「讃美歌の意味」（前半） 第13回 「讃美歌の意味」（後半） 第14回 「献金の意味」 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> テキストの該当箇所をよく読んでおき、積極的に議論に参加すること。		
<テキスト> 近藤勝彦『教会生活の要点』（第二版、東神大パンフレット38、2010年） 学生各自で用意すること。		
<参考書・参考資料等> 特にないが、授業の中で必要に応じて指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業での発表、議論への参加状況によって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）記載項目中の①～③を特に重視する。		

神学基礎科目 A			
キリスト教通論Ⅱ		須田 拓	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 学部1年生は必修	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ キリスト教信仰の基本的内容を確認しつつ、神学をする目的と意義とを理解する。			
＜到達目標＞ 信仰の各項目について、神学的課題を理解しつつ、説明できるようになる。			
＜授業の概要＞ 使徒信条および日本基督教団信仰告白の主要項目について、信仰内容を確認しつつ、どのような神学課題が考え得るか考察する。			
＜履修条件＞ 原則としてキリスト教通論Ⅰを履修していること。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション・啓示について 第2回 聖書について 第3回 創造について 第4回 人間について 第5回 キリストについて(1) 受肉 第6回 キリストについて(2) 十字架と救済 第7回 キリストについて(3) 復活 第8回 聖霊について 第9回 教会について 第10回 終末について 第11回 三位一体について 第12回 選びについて 第13回 義認と聖化について 第14回 聖礼典について 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 授業で取り扱う信仰の項目について、聖書の該当箇所を探してよく読んでおくこと。			
＜テキスト＞ 授業において、必要に応じて指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業において、必要に応じて指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加状況およびレポートによって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）記載項目中の①～③を特に重視する。			

神学基礎科目 A			
聖書通論 1 旧約通論		矢田 洋子	＜担当形態＞ 単独
前期・2 単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 旧約聖書の基礎知識			
＜到達目標＞ 旧約聖書の概観を把握する。旧約聖書に関する基礎的な知識を身に着ける。			
＜授業の概要＞ 基礎的な知識を提供するとともに、実際に旧約聖書を読み、どこに何が書いてあるかを概観し、またテキスト間の関連を把握する。同時に、聖書を学問的に読むとはどういうことかをじっくり考える。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 聖書を学問的に読むとはどういうことか 第2回 旧約聖書とは何か 第3回 創世記 第4回 出エジプト記 第5回 レビ記、民数記、申命記 第6回 ヨシュア記、士師記、ルツ記 第7回 サムエル記上下、列王記上下 第8回 歴代誌上下、エズラ記、ネヘミヤ記、エステル記 第9回 ヨブ記、詩編 第10回 箴言、コヘレトの言葉、雅歌 第11回 イザヤ書 第12回 エレミヤ書、哀歌 第13回 エゼキエル書、ダニエル書 第14回 ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデヤ書、ヨナ書、ミカ書 第15回 ナホム書、ハバクク書、ゼファニヤ書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書			
＜準備学習等の指示＞ 授業と並行して、自分で旧約聖書を通読すること			
＜テキスト＞ 聖書（新共同訳、聖書協会共同訳）			
＜参考書・参考資料等＞ A.E.マクグラス『旧約新約聖書ガイド』本多峰子訳、教文館 C.ヴェスターマン『聖書の基礎知識―旧約篇』左近淑・大野恵正訳、日本キリスト教団出版局			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度と、期末の小レポートによって評価する。レポートの課題は夏休み前に提示する。評価にあたっては、共通評価指標（1）①、③、⑤の内容を重視する。			

神学基礎科目 A			
聖書通論 2 旧約時代史		矢田 洋子	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 旧約時代史概観			
<到達目標> 旧約聖書に反映されたイスラエルの民の歴史を概観的に学び、旧約聖書の背景となっている歴史の知識を身に着けるとともに、それを通して、旧約聖書の信仰の特質を考える。			
<授業の概要> テキストを用い、カナン定着からローマ時代に至る旧約の時代史について、受講者に発表していただく。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、旧約の歴史を学ぶということ 第2回 旧約聖書時代以前の古代オリエント世界 第3回 カナン定着以前の時代 第4回 カナン定着時代 第5回 統一王国時代（サウル、ダビデ） 第6回 統一王国時代（ソロモン、王国分裂） 第7回 北王国イスラエルの歴史（ヤロブアム～イエフ王朝） 第8回 北王国イスラエルの歴史（アモス～ホセア） 第9回 南王国ユダの歴史（イザヤ、ヨシヤ） 第10回 南王国ユダの歴史（エレミヤ、王国滅亡） 第11回 バビロン捕囚時代 第12回 ペルシア時代 第13回 ヘレニズム時代 第14回 ローマ時代 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 授業と並行して旧約聖書を通読すること。			
<テキスト> 樋口進『よくわかる旧約聖書の歴史』教団出版局			
<参考書・参考資料等> S. ヘルマン／W. クライバー『よくわかるイスラエル史ーアブラハムからバル・コクバまで』樋口進訳、教文館 月本昭男、長谷川修一『ヴィジュアル BOOK 旧約聖書の世界と時代』日本キリスト教団出版局			
<学生に対する評価（方法・基準）> 各回の発表と授業参加度、期末の筆記試験によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）①、③、⑤の内容を重視する。			

神学基礎科目 A			
聖書通論 3 新約通論・歴史		焼山 満里子	<担当形態> 単独
前期・2 単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 新約聖書を通読し、また各文書成立の背景となる時代史を学ぶ。			
<到達目標> 新約聖書 27 文書の特徴とそれぞれの成立背景を理解する。			
<授業の概要> 新約聖書を読み、テキストによって時代史を学ぶ。			
<履修条件> なし。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト 1－20 頁 およびマルコによる福音書 第3回 テキスト 20－34 頁 およびマタイによる福音書 第4回 テキスト 35－47 頁 およびルカによる福音書 第5回 テキスト 49－60 頁 およびヨハネによる福音書 第6回 テキスト 61－74 頁 テサロニケの信徒への手紙一、二 第7回 テキスト 75－108 頁 コリントの信徒への手紙一 第8回 テキスト 108－129 頁 ガラテヤの信徒への手紙 第9回 テキスト 130－143 頁 ローマの信徒への手紙 第10回 テキスト 144－151 頁 コロサイ、エフェソの信徒への手紙 第11回 テキスト 152－169 頁 ヘブライ人への手紙 第12回 テキスト 184－198 頁 テモテの手紙一、二、テトスの手紙 第13回 テキスト 199－220 頁 使徒言行録 第14回 テキスト 221－232 頁 ヨハネ黙示録 第15回 総括 期末試験			
<準備学習等の指示> 毎回授業で扱う聖書、テキストを予習した上で出席のこと。			
<テキスト> 佐藤研『聖書時代史 新約篇』岩波現代文庫、2007 年。			
<参考書・参考資料等> 適宜紹介する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の授業参加と期末試験を共通評価指標（1）にしたがって評価する。			

神学基礎科目 B			
神学通論		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 学部2年生と3年次編入生は必修	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 神学とはどのような学問であるか、どのようになされてきたのか、どのような思考を求められているのかを学ぶ。			
＜到達目標＞ ①神学と教会との関係、②神学の歴史、③神学の思考のかたちをそれぞれ理解することを通して、伝道者として神学を学ぶ姿勢を身に着ける。			
＜授業の概要＞ テーマに掲げた内容について、さらには、神学の学問領域全体の概観を講義していく。			
＜履修条件＞ 学部2年生以上であること。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 序——この授業の目的と課題 第1部 キリスト者と神学者 I. 霊的な務め・召命 第2回 II. 神学と教会奉仕の準備／III. 神学と信仰の従順 第3回 第2部 キリスト教神学 I. 「神学」という言葉の意味／II. キリスト教神学の従来の意味 第4回 III. 啓蒙主義以降の神学的思考の変化 第5回 IV. 近代神学（1）——シュライエルマッハーの神学の概要 第6回 IV. 近代神学（2）——シュライエルマッハーの神学への評価 第7回 V. 近代神学の歩み 第8回 VI. 新たな展開（1）——「近代神学」の「失敗」 第9回 VI. 新たな展開（2）——カール・バルトおよび「新しい神学」 第10回 VI. 新たな展開（3）——神の言葉の神学 第11回 VII. 神学と教会 第12回 VIII. 神学の「学問的」性格（1）——「学問的神学」とは 第13回 VIII. 神学の「学問的」性格（2）——神学と教会 第14回 IX. 神学諸科の分類 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ このクラスでは事前準備よりも復習が重要になる。また、耳慣れない言葉・概念・論理に出会うことになるので、授業中に積極的に質問すること。			
＜テキスト＞ G・プラスガー、『ハイデルベルク信仰問答との対話——信仰の宝を掘り起こす』、芳賀力訳（教文館、2019年）。			
＜参考書・参考資料等＞ 神代・川島・西原・深井・森本、『神学とキリスト教学』（キリスト新聞社、2009年）；フロマーカ、『神学入門』、平野清美訳（新教出版社、2012年）。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期中の小課題および期末のレポートの総合による。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。			

現代語科目必修		
英語ⅠA a	矢田 洋子	<担当形態> 単独
前期・1単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 英文法		
<到達目標> 基礎的英語力の向上		
<授業の概要> 基礎的な文法の知識を習得するための学びを、テキストを用いて行う。英語の聖書を読むことも同時に行う。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、to 不定詞 第2回 to なし不定詞 第3回 分詞 第4回 動名詞 第5回 動名詞と不定詞 第6回 時制 第7回 未来時の表現 第8回 進行形 第9回 完了形 第10回 態 第11回 仮定法（基礎） 第12回 仮定法（条件文その他） 第13回 比較 第14回 否定 第15回 名詞		
<準備学習等の指示> 復習（練習問題）をしっかりとやること。		
<テキスト> 友繁義典『コミュニケーション・カレッジ英文法』南雲堂		
<参考書・参考資料等> 英語の聖書（New International Version, New Revised Standard Version など）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の練習問題の達成度、授業への参加度や貢献度によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）①、③の内容を重視する。		

現代語科目必修		
英語 I A b	矢田 洋子	<担当形態> 単独
後期・1単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 英文法		
<到達目標> 基礎的英語力の向上		
<授業の概要> 基礎的な文法の知識を習得するための学びを、テキストを用いて行う。英語の聖書を読むことも同時に行う。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 代名詞（基礎） 第2回 代名詞（形式主語、慣用表現その他） 第3回 形容詞 第4回 冠詞 第5回 数量詞 第6回 副詞 第7回 動詞 第8回 法助動詞（will, shall, would, should） 第9回 法助動詞（can, may, must その他） 第10回 場所の前置詞 第11回 時間の前置詞 第12回 その他の前置詞 第13回 接続詞 第14回 関係代名詞 第15回 関係副詞		
<準備学習等の指示> 復習（練習問題）をしっかりとやること。		
<テキスト> 友繁義典『コミュニケーション・カレッジ英文法』南雲堂		
<参考書・参考資料等> 英語の聖書（New International Version, New Revised Standard Version など）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の練習問題の達成度、授業への参加度や貢献度によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）①、③の内容を重視する。		

現代語科目必修			
英語 I B a		須田 拓	<担当形態> 単独
前期・1単位		<登録条件> 特になし	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。			
<到達目標> 英語の神学用語に慣れ、初歩的な神学的文献が読めるようになること。			
<授業の概要> 英語でなされた説教を読むことで、基本的な神学用語に慣れると共に、英語の読解力を養成する。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト講読 The Resurrection and the Ascension pp.139-140 第3回 テキスト講読 The Resurrection and the Ascension pp.140-141 第4回 テキスト講読 The Resurrection and the Ascension pp.141-142 第5回 テキスト講読 The Resurrection and the Ascension pp.143-144 第6回 テキスト講読 Eternal Punishment pp.75-76 第7回 テキスト講読 Eternal Punishment pp.77-78 第8回 テキスト講読 Eternal Punishment pp.79-80 第9回 テキスト講読 Death and Readiness pp.115-116 第10回 テキスト講読 Death and Readiness pp.117-118 第11回 テキスト講読 Death and Readiness pp.119-120 第12回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.127-128 第13回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.129-130 第14回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.131-132 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。			
<テキスト> Colin E. Gunton, <i>The Theologian as Preacher</i> , London and New York: T&T Clark, 2007 テキストは担当者が用意する。			
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び小テストで評価する。 共通評価指標(1)記載項目中の①～③を重視する。			

現代語科目必修			
英語 I B b		須田 拓	<担当形態> 単独
後期・1単位		<登録条件> 特になし	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。			
<到達目標> 英語の神学用語に慣れ、初歩的な神学的文献を読むことができるようになる。			
<授業の概要> 英語の神学的文章に触れることで、神学書を読むための英語読解力を養成する。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 テキスト講読 pp.1-2 第2回 テキスト講読 pp.2-3 第3回 テキスト講読 pp.3-4 第4回 テキスト講読 pp.5-6 第5回 テキスト講読 pp.7-8 第6回 テキスト講読 pp.9-10 第7回 テキスト講読 pp.11-12 第8回 中間総括 第9回 テキスト講読 pp.13-14 第10回 テキスト講読 pp.15-16 第11回 テキスト講読 pp.17-18 第12回 テキスト講読 pp.19-20 第13回 テキスト講読 pp.21-22 第14回 テキスト講読 pp.23-24 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。			
<テキスト> Alister McGrath, <i>Lord and Saviour: Jesus of Nazareth</i> (Christian Belief for Everyone), London: SPCK, 2014 テキストは担当者が用意する。			
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び小テストで評価する。共通評価指標(1)記載項目中の①～③を重視する。			

現代語科目必修			
ドイツ語 I A a（基礎）(1, 2)		岡村 恒	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 学部1年生は必修。ドイツ語 IAb と通年で登録することが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> ドイツ語の初級文法を身につける。			
<到達目標> 初歩的なテキストを、辞書と文法書を参照しながら読めるようになる。			
<授業の概要> ドイツ語の文法を学ぶ。練習問題を通して読解力を養成する。			
<履修条件> ドイツ語未習であることが望ましい。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、アルファベット、発音 第2回 あいさつ表現、季節・月・曜日、国名 第3回 動詞の現在人称変化(1) 第4回 定動詞の位置と文の構造 第5回 名詞の性と格変化、冠詞、名詞の複数形 第6回 定冠詞類と不定冠詞類、否定、男性弱変化名詞 第7回 動詞の現在人称変化(2)、不定代名詞、数詞 第8回 人称代名詞、疑問代名詞 第9回 前置詞の格支配 第10回 話法の助動詞 第11回 未来形 第12回 形容詞の格変化 第13回 動詞の3基本形 第14回 過去人称変化 第15回 完了形 第16回 過去完了形、未来完了形、話法の助動詞の完了形 第17回 分離動詞 第18回 命令形 第19回 再帰代名詞 第20回 再帰動詞 第21回 接続詞 第22回 副文 第23回 zu 不定詞句、非人称動詞 第24回 形容詞の比較 第25回 指示代名詞、関係代名詞 第26回 受動文、分詞 第27回 接続法第1式 第28回 接続法第2式 第29回 接続法の用法 第30回 総括 定期試験			
<準備学習等の指示> 課された練習問題を必ず解いてくること。初回に指示する独和辞典と単語カードを、第2回以降持参すること。			
<テキスト> Ookawa Isamu / Tsuneki Kentarou / Ishizawa Masato, <i>Deutsche Grammatik für das Leseverständnis</i> , Ikubundo, 2013 (2500 円)。担当者を通して購入する。			
<参考書・参考資料等> 中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社、 ¹⁵ 2013 年。『クラウン独和辞典第5版』三省堂、2014 年。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と学期末の筆記試験によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③の内容を重視する。			

現代語科目必修			
ドイツ語 I A b（基礎）(1, 2)		長山 道	<担当形態> 単独
後期・2 単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 平易なテキストを読みながら、初級文法を定着させる。			
<到達目標> 神学用語に慣れ、初歩的な神学書が読めるようになる。			
<授業の概要> テキストを和訳する。初級文法を復習する。			
<履修条件> 初級文法を一とおり終えていること。			
<授業計画> 第1 回 オリエンテーション 第2 回 S. 1 第3 回 S. 2 第4 回 S. 3 第5 回 S. 4 第6 回 S. 5 第7 回 S. 6 第8 回 S. 7 第9 回 S. 8 第10 回 S. 9 第11 回 Reformationstag 第12 回 S. 10 第13 回 S. 11 第14 回 S. 12 第15 回 S. 13 第16 回 S. 14 第17 回 S. 15 第18 回 S. 16 第19 回 S. 17 第20 回 S. 18 第21 回 S. 19 第22 回 Advent, Weihnachten, Epiphanias 第23 回 ドイツ語すごろく 第24 回 S. 20 第25 回 S. 21 第26 回 S. 22 第27 回 S. 23 第28 回 S. 24 第29 回 S. 25 第30 回 総括 定期試験			
<準備学習等の指示> テキストを予め和訳してくる。文法事項を復習すること。			
<テキスト> Heinrich Schlier Über die Christliche Existenz, 同学社、1975 年（440 円）。担当者を通して購入する。			
<参考書・参考資料等> 授業内で必要に応じて指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と学期末の筆記試験によって評価する。共通評価指標（1）の①および③を重視する。			

現代語科目必修			
ドイツ語 I B a（コミュニケーション）		岡村 恒	＜担当形態＞ 単独
前期・１単位		＜登録条件＞通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 ＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 外国語コミュニケーション		
＜授業のテーマ＞ 神学生にとって有意義な、ドイツ語による「キリスト教的コミュニケーション」を学ぶ。			
＜到達目標＞ プロテスタンティズムの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語の表現を用いる力を習得する。			
＜授業の概要＞ 様々なテキスト、音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。また平易なドイツ語テキストを併せて読む。			
＜履修条件＞ 学部２年に履修。			
＜授業計画＞ 第１回 主の祈り、ニカシア信条、使徒信条 第２回 十戒その他の重要な戒め 第３回 詩編に基づく祈り 第４回 その他、聖書に基づく祈り 第５回 子供の祈り 第６回 日常生活における祈り 第７回 日曜日から土曜日までの日ごとの祈り 第８回 その他の様々な場面での祈り 第９回 ローゼンゲン(日々の聖句集)の使い方 第１０回 カテキズム(ルター小教理問答) 第１１回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、序論と第一部) 第１２回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部前半) 第１３回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部後半) 第１４回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部前半) 第１５回 カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部後半) 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい			
＜テキスト＞ ドイツ語訳聖書、ドイツ語のローゼンゲン、ドイツ語賛美歌集等。必要に応じてコピーを配布。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 十分な出席、積極的な授業参加、期末試験によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（１）の①～③の内容を重視する。			

現代語科目必修			
ドイツ語 I B b（コミュニケーション）		岡村 恒	＜担当形態＞ 単独
後期・１単位		＜登録条件＞通年(a, b)の登録が望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 ＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 外国語コミュニケーション		
＜授業のテーマ＞ 前期に引き続いて、現代も用いられる生きたドイツ語のキリスト教的な表現を出来るだけ幅広く学ぶ。			
＜到達目標＞ プロテスタンティズムの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語の表現を用いる力を習得する。			
＜授業の概要＞ 前期に引き続いて、様々なテキストや音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。			
＜履修条件＞ 学部２年に履修。			
＜授業計画＞ 第１回 礼拝の言葉 第２回 祈りの言葉(家庭で) 第３回 証しの言葉(教会で、それ以外の場所で) 第４回 賛美歌のテキストに学ぶ(アドベント) 第５回 賛美歌のテキストに学ぶ(クリスマス) 第６回 賛美歌のテキストに学ぶ(受難節) 第７回 賛美歌のテキストに学ぶ(復活祭) 第８回 賛美歌のテキストに学ぶ(昇天祭) 第９回 賛美歌のテキストに学ぶ(ペンテコステ、他) 第１０回 『はだしのゲン』（ドイツ語版）からドイツ語への翻訳の工夫を学ぶ 第１１回 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 Wir wollen uns aufmachen…から) 第１２回 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 feiert gott in eurer mitte から) 第１３回 オンラインで講演を聞く(現代の神学者から) 第１４回 オンライン礼拝説教を聞く(現代の説教者から) 第１５回 オンライン礼拝説教を聞く(現代の説教者から) 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。			
＜テキスト＞ 必要に応じて配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 十分な出席、積極的な参加、および期末試験によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（１）の①～③の内容を重視する。			

現代語科目選択			
英語基礎 a		越智 さやか	<担当形態> 単独
前期・1単位		<登録条件>課された者が通年で履修する。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ>英文法・英単語			
<到達目標>中学卒業程度の英文法・英単語の知識を習得する。			
<授業の概要>中学卒業程度の英語の知識を習得する。毎回、小テスト(文法の復習と単語)を行う。文法テキストでの学びを中心に、歌、エッセイ、スピーチも行う。			
<履修条件>特になし。			
<授業計画> 第1回 品詞、名詞、代名詞 第2回 肯定文・否定文・疑問文 第3回 文型 第4回 時制 第5回 完了 第6回 助動詞 第7回 受動態 第8回 不定詞 第9回 動名詞 第10回 分詞 第11回 関係代名詞 第12回 関係副詞 第13回 比較 第14回 接続詞 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示>毎回の復習を行い、単語を覚えて小テストに備えること。			
<テキスト>金谷憲総合監修『総合英語 One【完全準拠】Grammar Book』アルク 木村達哉『夢をかなえる英単語新ユメタン⑩』アルク 木村達哉『夢をかなえる英単語新ユメタン⑪』アルク 以上、学生各自で購入する。			
<参考書・参考資料等>特になし。			
<学生に対する評価(方法・基準)>小テスト、エッセイ、スピーチ、まとめによる。評価にあたっては、共通評価指標 (1) の②の内容を重視する。			

現代語科目選択			
英語基礎 b		越智 さやか	＜担当形態＞ 単独
後期・ 1 単位		＜登録条件＞課された者が通年で履修する。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞英文法・英単語			
＜到達目標＞高校卒業程度の英単語・文法の知識を習得する。			
＜授業の概要＞『英語基礎 a』では扱わなかった内容を扱い、高校卒業程度の英語の知識を習得する。毎回、小テスト(文法の復習と単語)を行う。文法テキストでの学びを中心に、歌、暗唱、暗写も行う。			
＜履修条件＞特になし。			
＜授業計画＞ 第1回 文の種類・文型 第2回 時制 第3回 完了 第4回 助動詞 第5回 受動態 第6回 不定詞 第7回 動名詞 第8回 分詞 第9回 分詞構文 第10回 関係代名詞 第11回 関係副詞 第12回 比較（1） 第13回 比較（2） 第14回 仮定法 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞毎回の復習を行い、単語を覚えて小テストに備えること。			
＜テキスト＞金谷憲総合監修『総合英語 One【完全準拠】Grammar Book』アルク 木村達哉『夢をかなえる英単語新ユメタン①』アルク 以上、学生各自で購入する。			
＜参考書・参考資料等＞特になし。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞小テスト、暗唱、暗写、まとめによる。評価にあたっては、共通評価指標（1）の②の内容を重視する。			

現代語科目選択			
日本語基礎 a		後藤 倫子	＜担当形態＞ 単独
前期・1単位		＜登録条件＞ 課された者が通年で履修する。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ・大学で学ぶためのことばや表現を定着させ、書く力の基礎を強化する。			
＜到達目標＞ ・アカデミック・ジャパニーズのことばや表現を使えるようになる。 ・自分のことばで文章をまとめることができるようになる。 ・話しことばと書きことばの違いを把握し、使い分けることができるようになる。			
＜授業の概要＞ ・ことばや表現は、一度見て書いて覚えてだけでは自分のものになりません。また、見て意味の分かることばはたくさんあるのに、自分がこう言いたいと思ったときに、その状況に一番合うことばが出てこないことがあります。この授業では、同じことばや表現をくり返し学習することで、「聞いて／読んで理解する」だけのことばから、「自分のことばとして話せる／書ける」ようになる表現力を高めていきます。			
＜履修条件＞ ・日本語を母語としない学生対象			
＜授業計画＞ 第1回 ことばと表現① （文法）自動詞・他動詞・受身 第2回 ことばと表現② （文型）文末表現の調整 第3回 ことばと表現③ （語彙）辞書の危険性 第4回 ことばと表現④ （意味）専門用語の選び方 第5回 ことばと表現⑤ （文章）文の長さを読みやすさ 第6回 ことばと表現⑥ （文章）指示詞による文の接続 第7回 ことばと表現⑦ レポートの基本的な書き方 意見と事実 第8回 ことばと表現⑧ レポートの基本的な書き方 複雑な内容の整理 第9回 ことばと表現⑨ 立場のある文章の書き方 第10回 ことばと表現⑩ 先生宛の Eメールの書き方 第11回 ことばと表現⑪ 思考力を育てる① 詩を描く 第12回 ことばと表現⑫ 思考力を育てる② 自分の見方を知る 第13回 ことばと表現⑬ 思考力を育てる③ 発表 第14回 ことばと表現⑭ 実践1 レポート作成 第15回 ことばと表現⑮ 実践2 レポート発表 まとめ *なお、授業のはじめに毎回漢字・語彙小テストを行う。			
＜準備学習等の指示＞ 休まないこと。毎回の積み重ねが日本語力強化につながる。復習をすること。			
＜テキスト＞ 特になし。毎回プリントを配付する。			
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期中の課題とレポート 70%、授業参加度 30% 欠席が 1/3 を超えた者は成績がつかない。 レポートは「共通評価指標（1）」によって評価する。			

現代語科目選択			
日本語基礎 b		後藤 倫子	<担当形態> 単独
後期・1単位		<登録条件> 課された者が通年で履修する。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> ・大学で学ぶためのことばや表現を定着させ、書く力の基礎を強化する。			
<到達目標> ・アカデミック・ジャパニーズのことばや表現を使えるようになる。 ・まとまりのある文章を読み、自分の知識に照らし合わせ、自分の考えをまとめることができるようになる。 ・レポートや論文にふさわしい文法・文型、語彙、文章を書くことができるようになる。			
<授業の概要> ・これまでに覚えたことばや表現を整理して、どこでどれを使えばいいのかを身につけます。ことばをたくさん知っていても、話しことば的なものと書きことば的なものを混ぜて使うと、文全体が不自然になってしまいます。どのように直せば自然な表現になるのかを、実践を通して身につけていきます。			
<履修条件> ・日本語を母語としない学生対象			
<授業計画> 第1回 単語を言い換える 第1課 書き言葉 第2回 単語を言い換える 第2課 和語と漢語 第3回 単語を言い換える 第3課 名詞化 第4回 単語を言い換える 第4課 ジャンルによる使い分け 第5回 単語を言い換える 総合問題 第6回 意味を読み取って言い換える 第1課 長い文／複数の文 第7回 意味を読み取って言い換える 第2課 上位概念 第8回 意味を読み取って言い換える 第3課 簡潔な表現 第9回 意味を読み取って言い換える 第4課 含意／解釈 第10回 意味を読み取って言い換える 総合問題 第11回 目的に応じた形式で書く 実践問題1 文献を引用する 第12回 目的に応じた形式で書く 実践問題2 発表スライドを作成する 第13回 目的に応じた形式で書く 実践問題3 インタビューの内容をレポートに書く 第14回 実践1 レポート作成 第15回 実践2 レポート発表 まとめ *なお、授業のはじめに毎回漢字・語彙小テストを行う。			
<準備学習等の指示> 休まないこと。毎回の積み重ねが日本語力強化につながる。復習をすること。			
<テキスト> 特になし。毎回プリントを配付する。			
<参考書・参考資料等> 特になし。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の課題とレポート 70%、授業参加度 30% 欠席が 1/3 を超えた者は成績がつかない。 レポートは「共通評価指標（1）」によって評価する。			

現代語科目選択			
英語Ⅱ a		高砂 民宣	<担当形態> 単独
前期・1単位		<登録条件> 学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> ヨハネ福音書に関して英文で記された講演論文を読み、内容について考察する。			
<到達目標> ①英書の論文に慣れ親しむ。②英書の読解能力を高める。③神学用語や慣用表現を習得する。			
<授業の概要> 英書の論文を読みながら、福音書の歴史的背景や神学用語等について解説をし、文学的特徴や福音書記者の意図等について考察する。			
<履修条件> おもに学部2年生が対象。			
<授業計画> 第1回 Chapter 2: Encountering History John and History pp.42-43 第2回 John and History pp.44-45 第3回 John and History pp.46-47 第4回 John and History pp.48-49 第5回 John and History p.50 第6回 Transformative Encounters pp.51-52 第7回 Transformative Encounters pp.53-54 第8回 Transformative Encounters pp.55-56 第9回 Transformative Encounters p.57 第10回 Easter Recognitions pp.58-59 第11回 Easter Recognitions p.60 第12回 Easter Recognitions p.61 第13回 The Beloved Disciple as a Guide to Encountering Jesus pp.62-63 第14回 The Beloved Disciple as a Guide to Encountering Jesus pp.64-65 第15回 The Beloved Disciple as a Guide to Encountering Jesus pp.66-67 定期試験			
<準備学習等の指示> 毎回該当する箇所を予習して出席すること。			
<テキスト> Harold W. Attridge, History, Theology, and Narrative Rhetoric in the Fourth Gospel., Marquette University Press, Milwaukee, Wisconsin, 2019.			
<参考書・参考資料等> 授業の中で教員が指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。 ※出席が2／3に満たない者は、評価の対象としない。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～⑤の内容を重視する。			

現代語科目選択			
英語Ⅱ b		高砂 民宣	<担当形態> 単独
後期・1単位		<登録条件> 学期ごとの登録可	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> ヨハネ福音書に関して英文で記された講演論文を読み、内容について考察する。			
<到達目標> ①英書の論文に慣れ親しむ。②英書の読解能力を高める。③神学用語や慣用表現を習得する。			
<授業の概要> 英書の論文を読みながら、福音書の歴史的背景や神学用語等について解説をし、文学的特徴や福音書記者の意図等について考察する。			
<履修条件> おもに学部2年生が対象。			
<授業計画> 第1回 Chapter 3: Doing Theology in the Fourth Gospel p.68 第2回 Johannine Reflection on how to know God pp.68-69 第3回 Johannine Reflection on how to know God pp.70-71 第4回 The Importance of “Vision” p.72 第5回 The Importance of “Vision” pp.73-74 第6回 The Biblical Quest to “See” God pp.74-75 第7回 The Biblical Quest to “See” God pp.76-77 第8回 The Greco-Roman Quest to see God pp.77-79 第9回 The Greco-Roman Quest to see God pp.80-82 第10回 The Johannine Version of Seeing God pp.82-83 第11回 The Johannine Version of Seeing God pp.84-86 第12回 John’s Interwoven Images pp.86-88 第13回 John’s Interwoven Images pp.89-90 第14回 Early Reactions to the Johannine Parade of Images pp.90-93 第15回 The Word’s Words Explain the Images pp.93-96 定期試験			
<準備学習等の指示> 毎回該当する箇所を予習して出席すること。			
<テキスト> Harold W. Attridge, History, Theology, and Narrative Rhetoric in the Fourth Gospel., Marquette University Press, Milwaukee, Wisconsin, 2019.			
<参考書・参考資料等> 授業の中で教員が指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。 ※出席が2／3に満たない者は、評価の対象としない。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～⑤の内容を重視する。			

現代語科目選択		
英語実践Ⅰ	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
前期・１単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 外国語コミュニケーション	
<授業のテーマ> 日常的に英語を使うこと。		
<到達目標> 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。		
<授業の概要> 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画> 英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。 第 1 回 Orientation 第 2 回 Harmony 第 3 回 Modesty 第 4 回 Reserve 第 5 回 Place, Situation 第 6 回 Lobbying 第 7 回 Form 第 8 回 Discipline 第 9 回 Craft 第 10 回 Way, Road 第 11 回 Reason 第 12 回 The Way of the Warrior 第 13 回 Training 第 14 回 Seeking the truth 第 15 回 Final Evaluation		
<準備学習等の指示> テレビ・ラジオやインターネットで英会話を聞く。できるとき英会話をする。		
<テキスト> 英和和英辞書や電子辞書。		
<参考書・参考資料等> 必要に応じて授業で指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席、ディスカッションの参加、ミニ・テスト、最終評価（Final Evaluation）。 出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。「共通評価指標（1）」によって評価する。		

現代語科目選択			
英語実践Ⅱ		ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
後期・１単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 外国語コミュニケーション		
＜授業のテーマ＞ 日常的に英語を使うこと。			
＜到達目標＞ 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。			
＜授業の概要＞ 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞ 英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。 第 1 回 Orientation 第 2 回 Feelings 第 3 回 Personal Feelings 第 4 回 Obligation, Duty 第 5 回 Social Debt 第 6 回 Inside and Outside, Social Circle 第 7 回 True Feelings and Facade 第 8 回 Loyalty 第 9 回 Hierarchy 第 10 回 Service 第 11 回 Filial Piety 第 12 回 Barriers 第 13 回 The Gods 第 14 回 Purification 第 15 回 Final Evaluation			
＜準備学習等の指示＞ テレビ・ラジオやインターネットで英会話を聞く。できるとき英会話をする。			
＜テキスト＞ 英和和英辞書や電子辞書。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて授業で指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席、ディスカッションの参加、ミニ・テスト、最終評価（Final Evaluation）。 出席が 2／3 に満たない者は評価の対象としない。「共通評価指標（1）」によって評価する。			

現代語科目選択			
ドイツ語Ⅱ a		岡村 恒	＜担当形態＞ 単独
前期・ 1 単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ドイツ語聖書、神学書の講読			
＜到達目標＞ 学生が神学的な諸概念と思考法に慣れ親しみ、自主的にドイツ語で神学書を読む力を習得する。			
＜授業の概要＞ 英語圏の神学生が使うテキストを用いて、ドイツ語聖書から始めて、マルティン・ルター、カール・バルト、ディートリッヒ・ボーンヘッフアーといったドイツの代表的な神学者の文書を原語で読む。ドイツ語並びに英語の基本的な神学用語と翻訳に触れる。前期はルター訳聖書(1912 年改訂版、1985 年改訂版)並びに現代ドイツ訳(1982 年版)を丁寧に読みながら、その都度、関係する神学用語、神学概念を学ぶ。			
＜履修条件＞ 初級文法を習得していること。			
＜授業計画＞ 第 1 回 Matthäus 3:1-17 第 2 回 Lukas 18:18-43 第 3 回 Johannes 1:1-18 第 4 回 Apostelgeschichte 9:1-25 第 5 回 Römer 5:1-21 第 6 回 2 Korinther 4:1-18 第 7 回 1 Johannes 2:1-29 第 8 回 1 Mose 1:1-31 第 9 回 1 Mose 3:1-24 第 1 0 回 Psalm 90:1-17 第 1 1 回 Psalm 103:1-22 第 1 2 回 Jesaja 54:1-17 第 1 3 回 Jeremia 1:4-19 第 1 4 回 Hesekiel 37:1-28 第 1 5 回 Daniel 6:15-29 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。			
＜テキスト＞ Modern Theological German, Helmut W. Ziefle, Grand Rapids, 1998. テキストは必要に応じて配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③及び⑤の内容を重視する。			

現代語科目選択			
ドイツ語Ⅱb		岡村 恒	＜担当形態＞ 単独
後期・1単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ドイツ語神学書の講読			
＜到達目標＞ 神学的な諸概念と思考法を習得する。			
＜授業の概要＞ ドイツ語Ⅱa(前期)を参照。後期は、ドイツの代表的な神学者らの文書を丁寧に読み進んでいく。文法理解、英語訳との比較を通して、扱われている中心的な神学概念に触れる。			
＜履修条件＞ 初級文法を習得していること。			
＜授業計画＞ 第1回 Der Glaube allein, Martin Luther 第2回 Johannes 1:29, Adolf Schlatter 第3回 Das Reich Gottes bei Hesekiel, Albert Schweitzer 第4回 Die Liebe, Karl Barth 第5回 Jesus (Röm. 3:22), Karl Barth 第6回 Unser Sinn ist in Jesus, Dietrich Bonhoeffer 第7回 Der verlorene Sohn, Helmut Thielicke 第8回 Sammlung und Durchburch(Micha 2:12,13), Hans Walter Wolff 第9回 Das Alte Testament und der Kanon, Peter Stuhlmacher and Helmut Claß 第10回 Jahwe, Deitrich Mendt 第11回 Das Friedensreich der Endzeit, Theo Sorg 第12回 Der Zweck der Schrift, die Heilsgeschichte und die Stellung des Christus, Gerhard Maier 第13回 Zusammenfassung: Chronologie und Theologie, Rainer Riesner 第14回 Zusammenfassung, Rainer Riesner 第15回 Das Gleiten zwischen den Ufern, Jörg Zink 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。			
＜テキスト＞ Modern Theological German, Helmut W. Ziefle, Grand Rapids, 1998. テキストは必要に応じて配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③及び⑤の内容を重視する。			

保健体育科目		
体育Ⅰ	岡田 光弘	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> 体育	
<授業のテーマ> 生涯にわたって、自らの日常生活における諸活動を有意義に過ごすため、各自の体力維持・向上の運動方法と、生活を豊かにする基礎的な知識、態度、技術を身につけるとともに、卒業後の活動に役立てることのできる指導方法も学びます。		
<到達目標> 1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識できる、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得します。 2. 宣教・教会活動に役立つレクリエーション活動の理論と各種活動、および指導法の習得を目指します。		
<授業の概要> 主に身体活動を中心とした実技を行います。 各自の体力に合わせたストレッチ体操、他者と楽しむニュースポーツなどのレクリエーション活動を実践し、合わせて具体的な指導方法について学びます。		
<履修条件> 各自が参加できるレベル、方法で行います。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション（クラスの進め方、体育の考え方、レクリエーションの考え方） 第2回 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際1 第3回 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際2（同上） 第4回 ソフトボール1 ＊東神大運動会に向けて（用具の知識と安全、キャッチボール・バッティングの基本） 第5回 ソフトボール2（試合へ向けての基礎技術／キャッチ&スロー、ピッチング、連係プレー） 第6回 ソフトボール3（基本ルールの理解、模擬試合） 第7回 ソフトボール4（ノック練習、試合） 第8回 ニュースポーツ1（フライングディスク／投げ方の基本、取り方の基本、ディスクゴルフの楽しみ方） 第9回 ニュースポーツ2（フライングディスク／ルール・安全管理の理解） 第10回 ニュースポーツ3（フライングディスク／ディスクゴルフ） 第11回 バドミントン1（打ち方） 第12回 バドミントン2（ルール・安全管理の理解） 第13回 バドミントン3（試合） 第14回 バドミントン3（指導法） 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 1. 運動に適した服装に着替えてください。 2. それぞれの種目に適した靴を用意してください。 3. 体調に十分留意してください。		
<テキスト> 井上俊・菊幸一（編）（新版）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房（購入の必要はありません。）		
<参考書・参考資料等> 橋本純一（編）『現代メディアスポーツ論』世界思想社（購入の必要はありません。） その他、授業でお伝えします。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 技能：60％ 時間ごとの観察により評価します。 知識：20％ 実際にゲームを進行していく知識を評価します。 態度：20％ 運動に適した服装などの用意ができていないか、授業に積極的に参加しているかを評価します。出席が2/3に満たない場合、成績評価の対象にしません。評価にあたっては「共通評価指標（1）」の内容を重視します。		

保健体育科目			
体育Ⅱ		岡田 光弘	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 体育		
<授業のテーマ> 生涯にわたって、自らの日常生活における諸活動を有意義に過ごすため、各自の体力維持・向上の運動方法と、生活を豊かにする基礎的な知識、態度、技術を身につけるとともに、卒業後の活動に役立てることのできる指導方法も学びます。			
<到達目標> 1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識できる、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得します。 2. 庭球と卓球について、練習法、ルール、試合に必要な技術について学ぶことで、その基礎を獲得します。			
<授業の概要> 庭球、卓球の試合が行えるようになるために、以下の事柄について学びます。 1. ゲームを構成するすべての技術について、その技術を習得します。 2. ゲームを構成するすべてのルールを習得します。 3. 学期が終わったあとも自己学習ができるように練習の仕方を学びます。			
<履修条件> 各自が参加できるレベル、方法で行います。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 コーディネーション・トレーニングの理論と実践 第3回 硬式テニスのルールと用具の歴史（以下、テニス） 第4回 フォアハンドボレー、バックハンドボレー 第5回 フォアハンド・ストローク（トップスピン打法の習得） 第6回 バックハンド・ストローク、ミニゲーム 第7回 サービスとレシーブ 第8回 ダブルス・ゲーム 第9回 シングルス・ゲームとテニスのまとめ 第10回 ピンポン・卓球のルールと用具の歴史（以下、卓球） 第11回 バックハンド・ショート（またはハーフボレー）（ドライブサーブとカットサーブ） 第12回 フォアハンド・ストローク（ドライブ打法の習得） 第13回 多球練習による分習法、制限付きゲームによる全習法 第14回 シングルスとダブルスの試合 第15回 シングルスとダブルスの試合			
<準備学習等の指示> 1. 運動に適した服装に着替えてください。 2. それぞれの種目に適した靴を用意してください。 3. 体調に十分留意してください。			
<テキスト> 井上俊・菊幸一（編）（改訂版）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房（購入の必要はありません。）			
<参考書・参考資料等> 橋本純一（編）『現代メディアスポーツ論』世界思想社（購入の必要はありません。） その他、授業でお伝えします。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 技能：60％ 時間ごとの観察により評価します。 知識：20％ 実際にゲームを進行していく知識を評価します。 態度：20％ 運動に適した服装などの用意ができているか、授業に積極的に参加しているかを評価します。出席が2/3に満たない場合、成績評価の対象にしません。評価にあたっては「共通評価指標（1）」の内容を重視します。			

専門教育科目必修・聖書神学関係		
旧約聖書神学Ⅰ	小友 聡	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教学）	
<授業のテーマ> 旧約緒論の総論と五書問題について考察する。		
<到達目標> 旧約聖書とは何かという根本問題に歴史的文献学的見地から取り組み、旧約聖書の全体像をつかむ。旧約聖書を学問的に考察することに慣れる。		
<授業の概要> まず旧約聖書学研究史を学び、正典としての旧約聖書の成立過程と歴史的背景、さらに本文伝承の歴史を概観する。その後、五書問題の諸問題について考察する。なお、申命記はⅡで扱う。		
<履修条件> 旧約聖書神学ⅡおよびⅢより先に受講することが望ましい。旧約聖書の通読は欠かせない。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 旧約聖書入門 第3回 近代の旧約聖書学研究史（19世紀のヴェルハウゼンまで） 第4回 近代の旧約聖書学研究史（ヴェルハウゼン～現代） 第5回 正典とは何か 第6回 旧約正典の形成史 第7回 正典と本文 第8回 本文伝承の歴史 第9回 古代語訳概観（ギリシア語訳、アラム語訳、シリア語訳など） 第10回 モーセ五書批判（総論） 第11回 モーセ五書批判（研究史の諸問題） 第12回 ヤーウィスト 第13回 エローヒスト 第14回 祭司文書 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 旧約聖書を通読していることを前提としている。教科書をよく読むこと。聖書学の学術的な議論に戸惑う人がいるかも知れないが、旧約聖書を理解したいという意欲を持って講義を聴き、わからないことは遠慮せず質問すること。		
<テキスト> 左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』教文館（増補版）を各自購入すること。		
<参考書・参考資料等> レジュメと文献表を授業前に配布する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に筆記試験を行い、それによって評価する。出席重視。共通評価指標（1）の①～③を重視する。		

専門教育科目必修・聖書神学関係			
旧約聖書神学Ⅱ		小友 聡	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） ＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 教科に関する専門的事項（宗教学）		
＜授業のテーマ＞ モーセ五書の第5の書である申命記および申命記的歴史、歴代誌的歴史、さらに知恵文学と詩文学を学問的に考察する。			
＜到達目標＞ 五書と申命記的歴史の繋がり、また申命記的歴史と歴代誌的歴史の緊張関係を理解し、さらに知恵文学と詩文学の全体像を把握する。			
＜授業の概要＞ 申命記および申命記的歴史、歴代誌的歴史、知恵文学、詩文学について、テキストに基づいて概観する。			
＜履修条件＞ 旧約聖書神学Ⅰを履修済みであることが望ましい。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 申命記的歴史の総論と研究史（M.ノート以前） 第3回 申命記的歴史の研究史（M.ノート以降） 第4回 申命記的歴史の諸文書（各論） 第5回 申命記の総論 第6回 申命記の各論 第7回 歴代誌的歴史の総論 第8回 歴代誌的歴史の各論 第9回 知恵文学の総論 第10回 ヨブ記 第11回 箴言とコヘレトの言葉 第12回 詩編の総論 第13回 詩編の各論 第14回 詩編以外の詩文学 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 教科書をよく読むこと。旧約聖書をよく理解したいという意欲を持って授業に臨むこと。			
＜テキスト＞ 左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』教文館（増補版）を用いる、なお、この中で扱われていない授業項目は、W.H.シュミット（木幡訳）『旧約聖書入門上・下』教文館が役に立つ。			
＜参考書・参考資料等＞ レジュメと文献表を授業前に配布する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期末に筆記試験をして評価する。出席重視。共通評価指標（1）の①～③を重視する。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
旧約聖書神学Ⅲ		田中 光	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（宗教学）			
<授業のテーマ>			
預言者とは何かという問いを、具体的な旧約テキストとその研究史を考察することを通して、探究する。			
<到達目標>			
預言者についての本質的な理解を深めるとともに、預言書全般についての概説的知識を獲得する。			
<授業の概要>			
最初の数回で、預言者についての総論的知識を学び、その後、書物ごとに学びを深める。書物ごとの学びでは、その預言書の最近の研究状況の紹介、鍵となる神学的テーマについての考察などがなされる。			
<履修条件>			
旧約聖書神学Ⅰ履修済み、または並行して履修中であること。			
<授業計画>			
第1回 オリエンテーション：授業目的と授業計画の確認			
第2回 旧約「預言（者）」の諸相：歴史書、預言書における「預言」通観、及び預言書についての研究史概観			
第3回 イザヤ書①：緒論			
第4回 イザヤ書②：「メシア預言」について			
第5回 イザヤ書③：「僕の歌」について			
第6回 エレミヤ書①：緒論			
第7回 エレミヤ書②：「新しい契約」について			
第8回 エゼキエル書①：緒論			
第9回 エゼキエル書②：主の神殿の幻について			
第10回 十二小預言書①：緒論①（ホセア、アモス書）			
第11回 十二小預言書②：緒論②（上記以外の12小預言書）			
第12回 十二小預言書③：「メシア預言」について			
第13回 ダニエル書①：緒論、研究史概観、主要な神学的テーマについての概説			
第14回 ダニエル書②：ダニエル書のメシアニズム（？）について			
第15回 補論的考察：現象としての預言からカノン形成及びテキスト解釈としての預言への移行について			
<準備学習等の指示>			
授業毎に、その回に関係する聖書テキストを読み、また教科書の該当部分を読んでくること。			
<テキスト>			
左近淑（大住雄一編）『旧約聖書緒論講義』教文館。			
<参考書・参考資料等>			
B. S. Childs, <i>Introduction to the Old Testament as Scripture</i> ; C. J. Sharp (ed.), <i>The Oxford Handbook of the Prophets</i> ; J. Jeremias, <i>Theologie des Alten Testaments</i> ; その他、初回授業で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
授業への貢献と、レポートによって成績をつける。評価は共通評価指標（1）に基づいて行われる。理由なく授業に三分の一以上欠席した場合は、レポートを提出できない。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
旧約聖書釈義 a		小友 聡	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教学）		
<授業のテーマ> 旧約聖書に基づく説教を目指して釈義の課題を考え、また、その思想と手法を学ぶ。			
<到達目標> 釈義の手法の概略を学ぶ。旧約釈義のレポートを書けるようになる。			
<授業の概要> 釈義に関する入門的教科書を読み、釈義の方法論と必要な情報、知見を具体的にきちんと学ぶ。			
<履修条件> 旧約聖書神学Ⅰを履修済みであることが望ましい。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 釈義とは何か 第3回 釈義について基本的な概念、用語 第4回 第1章1－7：釈義の全過程についての手引き（前半） 第5回 第1章8－11：釈義の全過程についての手引き（後半） 第6回 第2章1－4：釈義と原典本文（前半） 第7回 第2章5－12：釈義と原典本文（後半） 第8回 第3章1－4：説教のための釈義の簡潔な手引き（前半） 第9回 第3章5－7：説教のための釈義の簡潔な手引き（後半） 第10回 第4章1：釈義の参考図書（本文批評） 第11回 第4章2－3：釈義の参考図書（翻訳、文法） 第12回 第4章4－6：釈義の参考図書（語彙的な分析、様式、構造） 第13回 第4章7－8：釈義の参考図書（歴史的な文脈、文学的な分析） 第14回 第4章9－11：釈義の参考図書（聖書の文脈、神学、適用） 第15回 第4章12：釈義の参考文献（二次文献）			
<準備学習等の指示> 旧約釈義の教科書をきちんと読む。			
<テキスト> D.スチュアート（山吉訳）『旧約聖書の釈義』、教文館、2017年（3,500円）を用いる。			
<参考書・参考資料等> その都度、授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と期末のレポートで評価する。理由なく授業の三分の一以上を欠席した者は、レポートを提出することができない。レポートの課題は、夏休み前に提示する。共通評価指標（1）の①～③を重視。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
旧約聖書釈義 b		小友 聡	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
教科に関する専門的事項（宗教学）			
＜授業のテーマ＞ 旧約聖書に基づく説教を目指して、テキストにおける釈義課題を見据え、また、釈義的思考と手法を学ぶ。			
＜到達目標＞ 旧約釈義の手法を身に着ける。旧約釈義のレポートを書けるようになる。			
＜授業の概要＞ 前期で学んだ釈義の方法を、具体的な旧約テキストに適用して釈義を試みる。			
＜履修条件＞ 前期で学んだことを前提とするが、後期のみ履修も可能である。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 諸翻訳の読み比べ 第3回 イザヤ書 61 章 1－4 節のテキスト 第4回 その釈義 第5回 創世記 27 章 18－29 節のテキスト 第6回 その釈義 第7回 哀歌 3 章 16－33 節のテキスト 第8回 その釈義 第9回 エレミヤ書 23 章 18－29 節のテキスト 第10回 その釈義 第11回 ハバクク書 2 章 1－4 節のテキスト 第12回 その釈義 第13回 列王記上 19 章 1－18 節のテキスト 第14回 その釈義 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 毎回の授業に先立って、扱われるテキストをきちんと読み、どう解釈すべきかを考える。			
＜テキスト＞ 複数の日本語訳聖書。ヘブライ語聖書に基づいた説明をするが、ヘブライ語を未履修の者にも配慮する。			
＜参考書・参考資料等＞ その都度指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度と学期末に提出していただく釈義レポートで評価する。理由なく三分の一以上を欠席した者は、レポートを提出することができない。共通評価指標（1）の①～③を重視。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
新約聖書神学Ⅰ		中野 実	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 新約聖書神学Ⅱと通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
教科に関する専門的事項（宗教学）			
＜授業のテーマ＞ 新約聖書神学の諸課題について学ぶ。			
＜到達目標＞ 新約聖書がいかなる書物であるかを深く把握し、新約聖書を学問的に読むことの神学的意義を理解できるようになる。			
＜授業の概要＞ 新約聖書神学Ⅰでは、おもに講義を通して、まず序論として、聖書とは何か？聖書学、聖書神学とは何か？聖書正典とは何か、などについて学ぶ。次に各論に入り、福音書研究の基礎的事柄について学ぶ。			
＜履修条件＞ ギリシャ語Ⅰを並行して履修していること。			
＜授業計画＞			
第1回 聖書を学問的に読むとは？ 聖書とは何か？			
第2回 聖書を学問的に読むとは？ 聖書を学問の対象にするとは？			
第3回 聖書を学問的に読むとは？ 聖書学とは？聖書の批判的研究			
第4回 聖書を学問的に読むとは？ 近代、現代聖書学のルーツとその展開			
第5回 新約聖書とは何か？ 新約聖書という名称について			
第6回 新約聖書とは何か？ 旧約聖書について			
第7回 新約聖書とは何か？ 新約聖書の文学、初期キリスト教文学としての新約聖書			
第8回 新約聖書とは何か？ 正典としての新約聖書①正典とは？			
第9回 新約聖書とは何か？ 正典としての新約聖書②正典化プロセス			
第10回 新約聖書とは何か？ 新約聖書の写本について			
第11回 新約聖書とは何か？ 新約聖書の時代史について			
第12回 福音書とは何か？ 福音と福音書			
第13回 福音書文学：福音書は伝記か？			
第14回 共観福音書問題1 共観福音書とは何か？それらをめぐる諸仮説			
第15回 共観福音書問題2 マルコ優先説、二資料仮説、Q資料などについて			
＜準備学習等の指示＞ 聖書を日頃からよく読むこと。			
＜テキスト＞ 旧・新約聖書。旧約聖書も必ず持ってくること。			
＜参考書・参考資料等＞ 樋口、中野『聖書学用語辞典』日本基督教団出版局、およびタイセン『新約聖書：歴史、文学、宗教』教文館。その他、必要に応じてクラスで指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。評価は、共通評価指標（1）に基づいてなされる。期末レポートにおいては、課題やテキストを正しく理解しつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかの評価の指標となる。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
新約聖書神学Ⅱ		中野 実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
教科に関する専門的事項（宗教学）			
＜授業のテーマ＞ 新約聖書神学Ⅰと通年で履修すること。			
＜到達目標＞ 新約聖書正典に含まれる四福音書に関する学問的基礎知識を身につけることができる。			
＜授業の概要＞ 新約聖書神学Ⅰでの学びを前提にしつつ、四福音書それぞれが有している歴史的、文学的、神学的特徴について学ぶ。			
＜履修条件＞ ギリシャ語Ⅱを並行して履修していること。			
＜授業計画＞			
第1回 マルコ福音書：緒論的歴史的諸問題			
第2回 マルコ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開			
第3回 マルコ福音書：神学的諸問題			
第4回 マタイ福音書：緒論的歴史的諸問題			
第5回 マタイ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開			
第6回 マタイ福音書：神学的諸問題			
第7回 ルカ福音書：緒論的歴史的諸問題			
第8回 ルカ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開			
第9回 ルカ福音書：神学的諸問題			
第10回 ヨハネ福音書：歴史的諸問題			
第11回 ヨハネ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開			
第12回 ヨハネ福音書：神学的諸問題			
第13回 ルカ文書について			
第14回 ヨハネ文書について			
第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 新約聖書神学Ⅰの項目を参照。			
＜テキスト＞ 旧、新約聖書。ギリシャ語新約聖書も持参すること。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて、クラスで指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席が三分の二に達しない場合、原則として評価の対象にしない。評価は、共通評価指標（1）に基づいてなされる。期末レポートにおいては、課題やテキストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であることが求められる。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
新約聖書神学Ⅲ		焼山 満里子	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 教科に関する専門的事項（宗教学）		
＜授業のテーマ＞ 使徒パウロの伝道活動と神学について理解を深める。			
＜到達目標＞ パウロとコリントの信徒への手紙一について学び、他のパウロ書簡理解の基礎を築く。			
＜授業の概要＞ コリントの信徒への手紙を毎回１章ずつ検討する。			
＜履修条件＞ ギリシア語履修が終わっていること。			
＜授業計画＞ 第１回 使徒言行録によるパウロの伝道旅行 第２回 コリントー１章、１６章、全体概観 第３回 コリントー２章 第４回 コリントー３章 第５回 コリントー４章 第６回 コリントー５、６章 第７回 コリントー７章 第８回 コリントー８章 第９回 コリントー９章 第１０回 コリントー１０章 第１１回 コリントー１１章 第１２回 コリントー１２章 第１３回 コリントー１３章 第１４回 コリントー１４章 第１５回 コリントー１５章 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 各回扱う箇所を予習してから授業に出席してください。			
＜テキスト＞ R.ヘイズ『コリントの信徒への手紙一』現代聖書注解、日本基督教団出版局、2002年。			
＜参考書・参考資料等＞ 適宜案内します。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 毎回の授業参加と期末試験を共通評価指標（１）にしたがって評価する。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
新約聖書釈義 a		中野 実	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 学部4年生を中心としたクラス	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（宗教学）			
<授業のテーマ> 新約聖書に関する学問的な釈義の方法について学ぶクラス。			
<到達目標> このクラスを通して、釈義の方法論を身につけ、より主体的に新約聖書の解釈にたずさわれることができるようになる。			
<授業の概要> 前期は、概論ののち、フィー『新約聖書の釈義』を主として用いつつ、釈義の方法について学ぶ。			
<履修条件> ギリシア語初級文法をすでに履修済みであること。通年で履修すること。			
<授業計画>			
第1回 オリエンテーション：クラスの目標と課題について			
第2回 釈義とは何か？ 釈義の具体的課題について			
第3回 フィー『新約聖書の釈義』序論および第1章「釈義の全過程についての手引き」			
第4回 ステップ1 歴史的脈絡の概観			
第5回 ステップ2 章句の区切りの確認			
第6回 ステップ3 段落・ペリコーペの熟知：説明			
第7回 ステップ3 段落・ペリコーペの熟知：実践：暫定訳の作成、他の翻訳との比較など。			
第8回 ステップ4 文の構成と統語的關係の分析：説明			
第9回 ステップ4 文の構成と統語的關係の分析：実践、文の流れの図式化			
第10回 ステップ5 本文の確定：本文批評の説明			
第11回 ステップ5 本文批評の実際			
第12回 ステップ6 文法の分析：説明			
第13回 ステップ6 文法の分析：実践			
第14回 説教のための釈義とは？			
第15回 説教の準備について			
顔ぶれや進み具合などを勘案しながら、スケジュールを変更する場合もある。			
<準備学習等の指示> 釈義は、ただ講義を聴いているだけでは身に付かない。実際に自分で試みて見る事が必要。釈義は苦労して身につけるしか道はない！ギリシャ語新約聖書をコツコツ読む努力をすること、また教科書をよく読んで出席すること。			
<テキスト> ゴードン・フィー『新約聖書の釈義』教文館、1998年、および中野ほか『新約聖書解釈の手引き』日本基督教団出版局、2016年をクラスの初回までに各自で購入しておくこと。ギリシャ語の新約聖書も毎回持参すること。			
<参考書・参考資料等> 必要に応じて、クラスで指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席が三分の二に達していない場合、原則として評価の対象としない。共通評価指標（1）に基づきつつ、毎回のクラスでの姿勢、期末のレポートなどによって総合的に評価する。レポートにおいては、テキストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかの評価の指標となる。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
新約聖書釈義 b		中野 実	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 学部4年生を中心としたクラス	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教学）		
<授業のテーマ> 新約聖書の釈義の方法と実践を学ぶ。			
<到達目標> このクラスを通して、基本的な釈義の技術を身につけ、より主体的に新約聖書の解釈にたずさわることができるようになる。			
<授業の概要> 後期も引き続き、フィーの教科書を用いるが、『新約聖書解釈の手引き』などを通して、新しい方法論についても学びを進める。			
<履修条件> ギリシア語初級文法をすでに履修済みであること。通年で履修すること。			
<授業計画>			
第1回 フィーの教科書の続き、ステップ7 語の分析：その説明			
第2回 ステップ7 語の分析：その実践			
第3回 ステップ8 歴史的文化的背景の探求：その説明と文献紹介			
第4回 ステップ8 歴史的文化的背景の探求：具体例			
第5回 書簡の釈義、ステップ9 書簡文学の特徴と形式について			
第6回 書簡の釈義、ステップ9 書簡文学の修辭的分析について			
第7回 書簡の釈義、ステップ10 小区分、読者、キーワードなどの分析			
第8回 書簡の釈義、ステップ11 文学的コンテキストの確定			
第9回 福音書の釈義、福音書テキストの性質、福音書をめぐる諸仮説			
第10回 福音書の釈義、ステップ9 福音書の文学類型			
第11回 福音書の釈義、ステップ9 福音書の文学的様式、伝承			
第12回 福音書の釈義、ステップ10 共観表の用い方			
第13回 福音書の釈義、ステップ11 史的イエス研究			
第14回 歴史批評学的方法論の限界、それを乗り越える方法論			
第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 新約釈義 a の同項目を参照。			
<テキスト> 新約釈義 a の同項目を参照。			
<参考書・参考資料等> 必要に応じて、クラスで指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席が三分の二に達していない場合、原則として評価の対象としない。共通評価指標（1）に基づきつつ、毎回のクラスでの姿勢、期末のレポートなどによって総合的に評価する。レポートにおいては、テキストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかの評価の指標となる。			

専門教育科目必修・聖書神学関係			
ギリシャ語Ⅰ（1・2）		中野 実	＜担当形態＞ 単独
前期・4単位		＜登録条件＞ ギリシャ語Ⅱと通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 新約聖書のギリシャ語文法の基礎的理解を身につけ、その基本的読解力を養う。			
＜到達目標＞ 新約聖書ギリシャ語の基本文法を理解し、ギリシャ語新約聖書を正確に読む力を身につけることができる。			
＜授業の概要＞ 前期においては、まず基本文法の習得に努める。クラスでは、大貫隆「新約聖書ギリシア語入門」（岩波書店）を教科書として用いながら学びを進めていく。目標は、ギリシャ語新約聖書の読解にある。それ故、基本文法を学びながらも、ギリシャ語新約聖書テキストに慣れ親しむことにも注意を向けたい。			
＜履修条件＞ ギリシャ語Ⅱと通年で履修していること。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 新約聖書を原典で読むとは？ 第2回 文字と発音 第3回 単語：音節、アクセント、句読点など。 第4回 動詞の活用について 第5回 動詞活用 直接法能動現在 第6回 名詞の変化 第1変化名詞 第7回 格と用法、第2変化名詞 第8回 定冠詞、第1、第2変化形容詞 第9回 第2変化の女性名詞、第1変化の男性名詞 第10回 第3変化名詞、第3変化形容詞 第11回 第3変化名詞続き、前置詞とその用法 第12回 人称代名詞、後接辞と前接辞 第13回 指示代名詞、強意代名詞 第14回 中・受動相現在、能動相欠如動詞など 第15回 本時称と副時称、能動相未完了過去 第16回 中・受動相未完了過去、接続詞、否定詞、否定疑問文 第17回 再帰代名詞、相互代名詞、所有代名詞 第18回 能動相未来、中動相未来 第19回 形容詞と副詞の比較、格の特殊用法 第20回 能動相第1アオリスト 第21回 中動相第1アオリスト 第22回 能動相現在完了 第23回 中・受動相現在完了 第24回 過去完了 第25回 受動相アオリスト 第26回 受動相未来 第27回 能動相現在分詞、中・受動相現在分詞 第28回 能動相未来分詞、中動相未来分詞 第29回 能動相アオリスト分詞、中動相アオリスト分詞 第30回 受動相アオリスト分詞、受動相未来分詞			
＜準備学習等の指示＞ 暗記して身につけるべき課題の多い教科なので、予習、復習の時間をしっかり確保する。各自、学習グループを作るなどして、工夫することも大切。			
＜テキスト＞ 大貫隆『新約聖書ギリシア語入門』岩波書店。学生が各自クラス開始までに用意すること。			
＜参考書・参考資料等＞ Nestle-Aland, <i>Novum Testamentum Graece</i> , または UBS 版 <i>Greek New Testament</i> を各自用意する。その他コンコルダンス、辞典については、クラスで適宜指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席が三分の二に達しない場合、原則として評価の対象にしない。共通評価指標（1）に基づきながら、出席などの基本点に加え、クラス内で行われる練習問題、試験などを通して、総合的に評価する。			

専門教育科目必修・聖書神学関係		
ギリシャ語Ⅱ	中野 実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位	＜登録条件＞ ギリシャ語Ⅰと通年で履修する。	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
＜授業のテーマ＞ 新約聖書のギリシャ語文法の基礎的理解を身につけ、その基本的読解力を養う。		
＜到達目標＞ 前期から学んでいる基礎文法に基づいて、少しずつ実際にギリシャ語新約聖書テキストを読解できるようになる。		
＜授業の概要＞ 前期から始まっている基礎文法の学びを終わらせ、いよいよギリシャ語新約聖書テキストを読解するために必要な知識、方法を身につけることに注意を向けていく。		
＜履修条件＞ ギリシャ語Ⅰを履修済みのこと。		
＜授業計画＞ 第1回 能動相現在完了分詞、中・受動相現在完了分詞 第2回 分詞の述語的用法、独立属格構文 第3回 母音融合動詞、流音幹動詞 第4回 不規則変化形容詞、接続詞とその用法 第5回 希求法 第6回 条件文 第7回 疑問代名詞、不定代名詞 第8回 関係代名詞、不定関係代名詞 第9回 不定詞 第10回 命令法 第11回 μι 動詞 第12回 数詞 第13回 固有名詞、小辞 第14回 読解へ向けて コンコルダンス、辞典について 第15回 まとめ		
＜準備学習等の指示＞ 暗記して身につけるべき課題の多い教科なので、予習、復習の時間をしっかり確保する。各自、学習グループを作るなどして、工夫をすることも大切。		
＜テキスト＞ 大貫隆『新約聖書ギリシア語入門』岩波書店。		
＜参考書・参考資料等＞ Nestle-Aland, <i>Novum Testamentum Graece</i> , または UBS 版 <i>Greek New Testament</i> を各自用意する。その他コンコルダンス、辞典については、クラスで適宜指示する。		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席が三分の二に達しない場合、原則として評価の対象にしない。共通評価指標（1）に基づきながら、出席などの基本点に加え、クラス内で行われる練習問題、試験などを通して、総合的に評価する。		

専門教育科目必修・組織神学関係		
組織神学 I a	須田 拓	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 原則として組織神学 Ib と通年で履修する	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）	
<授業のテーマ> 組織神学の中の教義学について扱う。		
<到達目標> 教義学の基礎的な知識を身に付け、私たちが何を信じ伝えるのかを神学的に考えることができるようになる。		
<授業の概要> 私たちが聖書全体から何をどのように信じているのかを論理的に説明する学問としての教義学について講義する。前期は、序論（プロレゴメナ）から創造論までを扱う。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 教義学とは何か 第3回 啓示論(1) 神をどのようにして知るのか 第4回 啓示論(2) 啓示について 第5回 啓示論(3) 聖書とは何か 第6回 啓示論(4) 聖書の正典性 第7回 神論(1) 三位一体の神 第8回 神論(2) 三位一体論の論点と三位一体論的神学について 第9回 神論(3) 神の本質と属性 第10回 中間総括 第11回 創造論(1) 創造について 第12回 創造論(2) 人間とその罪について 第13回 創造論(3) 創造のその他のテーマについて 第14回 創造論(4) 悪の問題と神義論 第15回 まとめ 定期試験		
<準備学習等の指示> その教理に関係する聖書箇所をよく読んでくる。		
<テキスト> 特になし。		
<参考書・参考資料等> 必要に応じて授業の中で指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況と定期試験によって評価する。授業の進み方によっては、中間レポートを課す場合がある。評価にあたっては、共通評価指標(1)記載項目中の①～④を重視する。		

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学 I b		須田 拓	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 原則として組織神学 Ia と通年で履修する	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）		
<授業のテーマ> 組織神学の中の教義学について扱う。			
<到達目標> 教義学の基礎的な知識を身に付け、私たちが何を信じ伝えるのかを神学的に考えることができるようになる。			
<授業の概要> 私たちが聖書全体から何をどのように信じているのかを論理的に説明する学問としての教義学について講義する。 後期は、キリスト論から終末論までを扱う。			
<履修条件> 特になし。			
<授業計画>			
第1回 オリエンテーション			
第2回 キリスト論(1) キリストの人格について			
第3回 キリスト論(2) キリスト論の方法と課題について			
第4回 贖罪論(1) 贖罪とその諸類型			
第5回 贖罪論(2) 三位一体論的贖罪論			
第6回 救済論(1) 選び、義認			
第7回 救済論(2) 聖霊の働きと再生・聖化			
第8回 中間総括			
第9回 伝道論 人間の応答と伝道			
第10回 教会論(1) 教会の本質と働き			
第11回 教会論(2) 聖礼典について			
第12回 終末論(1) 終末の表象			
第13回 終末論(2) 現在的終末論と将来的終末論			
第14回 終末論(3) 個人的終末論と社会的終末論			
第15回 まとめ			
定期試験			
<準備学習等の指示> その教理に関係する聖書箇所をよく読んでくる。			
<テキスト> 特になし。			
<参考書・参考資料等> 必要に応じて授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況と中間レポート及び定期試験によって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標(1)記載項目中の①～④を重視する。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅱ a		芳賀 力	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）			
<授業のテーマ>			
福音に基づいて、キリスト者の行動規範となる倫理学を取り扱う。			
<到達目標>			
キリスト教倫理の成立根拠を正しく理解し、更に現代の具体的諸問題に対処する道筋を理解する。			
<授業の概要> 現代の倫理的状況を把握した上で、キリスト教的倫理学の特質を顧みる。その上で、身体と生命をめぐる諸問題とその対処法を考察する。			
<履修条件>			
組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。			
<授業計画>			
第1回 現代の状況（1）：自由至上主義 vs 共同体主義論争			
第2回 現代の状況（2）：道徳の断片化と情緒主義（A・マッキンタイアの問題提起）、功利主義的个人主義（R・ベラーの問題提起）			
第3回 現代の状況（3）：個と共同体、ニーバー、マクマリー、リースマン、情報化という新しい要素			
第4回 自然法と良心：自然法、良心（ルター）、道徳律（カント）			
第5回 良心と律法：自然神学論争：ブルンナーvs バルト、一般恩恵、特殊恩恵			
第6回 律法と福音：ルター派モデル、改革派モデル、バルト、エラート、アルトハウス			
第7回 義認と聖化：性格形成の倫理：ハワーワス、聖化の共同性（カルヴァン）、聖書のナラティブによる内的訓練			
第8回 召命と委託：創造秩序、保持秩序（キュネート）、委託の領域と召命（ボンヘッフアー）			
第9回 終末論と中間倫理：神の国の希望、神の国とキリスト者、神の国と教会			
第10回 身体と生命（1）：キリスト教的人間理解、SOLと QOL、生命の始期を巡る諸問題			
第11回 身体と生命（2）：生命の中期を巡る諸問題			
第12回 身体と生命（3）：生命の末期を巡る諸問題			
第13回 身体と生命（4）：キリスト教的自然理解、環境倫理、技術倫理			
第14回 身体と生命（5）：生への畏敬			
第15回 総括			
<準備学習等の指示>			
レジュメや補遺資料を渡すので、前もって目を通しておくこと。また授業内容を復習し、次に備えること。			
<テキスト>			
拙著『使徒的共同体』教文館、2004年。			
<参考書・参考資料等>			
授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
共通評価指標（1）に基づいて評価する。学期末にレポートを提出する。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅱ b		芳賀 力	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）			
<授業のテーマ>			
福音に基づいて、キリスト者の行動規範となる倫理学を取り扱う。			
<到達目標>			
キリスト教倫理の成立根拠を正しく理解し、更に現代の具体的諸問題に対処する道筋を理解する。			
<授業の概要> 現代の倫理的状況を把握した上で、キリスト教的倫理学の特質を顧みる。その上で、労働と文化、結婚と家庭、国家と政治をめぐる諸問題とその対処法を考察する。			
<履修条件>			
組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。			
<授業計画>			
第1回 労働と文化（1）：古代ギリシアの労働観、聖書の労働観、中世の労働観			
第2回 労働と文化（2）：プロテスタンティズムの労働倫理、良き労働への問いと社会的エコロジー、技術時代の倫理			
第3回 労働と文化（3）：制約における自由、神への応答としての労働、正しい仕事			
第4回 労働と文化（4）：余暇と文化、観想の伝統と安息日の意義、良き文化の形成			
第5回 結婚と家庭（1）：男と女、愛についての誤解、聖書における愛の思想			
第6回 結婚と家庭（2）：召命と形成としての結婚、結婚的人格、ポストブライダル・ストーリー			
第7回 結婚と家庭（3）：結婚の危機、危機における牧会、結婚の教會的意義			
第8回 結婚と家庭（4）：親と子、家庭の崩壊と再建の課題、家族形成におけるディシプリン、信仰の教育			
第9回 国家と政治（1）：家族から市民社会へ、中間集団の意義、キリスト教的共同体と市民共同体、近い者と遠い者（民族問題）			
第10回 国家と政治（2）：教権と王権、ルター派的二王国説、改革派的キリストの王権			
第11回 国家と政治（3）：教会と国家の類比的関連、教会と国家の目的論的関連、バルメン宣言の意義			
第12回 国家と政治（4）：国家論の諸系譜、力・正義・愛、人権思想の基本理念			
第13回 教会と礼拝（1）：教会への召命とその形成			
第14回 教会と礼拝（2）：教会の使命とその活動、共同体的教会			
第15回 総括			
<準備学習等の指示>			
レジュメや補遺資料を渡すので、前もって目を通しておくこと。また授業内容を復習し、次に備えること。			
<テキスト>			
拙著『大いなる物語の始まり』教文館、2001年。			
<参考書・参考資料等>			
授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>			
共通評価指標（1）に基づいて評価する。学期末にレポートを提出する。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅲ a		神代 真砂実	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 組織神学Ⅲ b（後期）と通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）			
<授業のテーマ> 弁証学、つまり、キリスト教信仰の真理性を理性的に論証することで、キリスト教信仰に対する批判に応えることを課題とする組織神学の（第三の）分野についての総合的な学びをする。			
<到達目標> ①弁証学という分野についての基礎知識を得る。②弁証学的な考えや発想を身に着ける。③現代日本における弁証学の構想を自分なりに考え始められるようになる。			
<授業の概要> Benno van den Toren の <i>Christian Apologetics as Cross-Cultural Dialogue</i> (London: T&T Clark, 2011)に準拠して講義を行なう。並行して H・リチャード・ニーバーの『キリストと文化』（日本キリスト教団出版局、オンデマンド）の講読を行なう。			
<履修条件> 組織神学Ⅰを履修済みであること。また、弁証学は組織神学の応用編とも言えるので、履修者の主体的な思索が求められる。内容はやさしくないので、積極的に質問すること。			
<授業計画>			
第1回 I. 弁証学に対する二つの問題提起——1. 二つの問題提起／2. ポストモダン			
第2回 同——3. 弁証学の必要性①信仰と神学			
第3回 同——3. 弁証学の必要性②福音の普遍性			
第4回 同——4. 弁証学の定義／5. 概要			
第5回 II. 近代西洋の弁証学への批判——1. 基礎づけ主義の問題			
第6回 同——2. 言語の問題／3. 個人主義と集団主義の問題			
第7回 同——4. 総括			
第8回 III. 近代西洋の弁証学についての神学的評価——1. 近代批判の意義			
第9回 同——2. 近代以降の人間論			
第10回 同——3. 啓蒙主義と啓示の問題			
第11回 同——4. 実在からの疎外			
第12回 IV. キリスト教的人間論——1. 神の目的／2. 神のかたち（被造物の管理）／3. 神のかたち①（関係における存在）			
第13回 同——4. 神のかたち②（神との交わりにおける存在）			
第14回 同——5. 神のかたち③（信仰者でない者の場合）			
第15回 前期のまとめ			
<準備学習等の指示> 授業では、よくノートを取り、復習すること。テキストをよく読むこと。			
<テキスト> H・リチャード・ニーバー、『キリストと文化』、赤城泰訳（日本キリスト教団出版局、オンデマンド）。			
<参考書・参考資料等> 主題に応じ、教員が適宜、授業中に指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> テキスト（ニーバー）に関する課題のプリントを提出する（複数回）。テキストの理解度（共通評価指標（1）の③）が重視される。			

専門教育科目必修・組織神学関係			
組織神学Ⅲ b		神代 真砂実	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 前期と同じ。組織神学Ⅲ a（前期）と通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（「教理学、哲学」）			
<授業のテーマ> 前期と同じ。			
<到達目標> 前期と同じ。			
<授業の概要> 前期と同じ。			
<履修条件> 前期と同じ。			
<授業計画>			
第1回 V. 実在——1. 実在との接触			
第2回 同——2. キリスト教的な知の理論			
第3回 同——3. 神と救済についての知識			
第4回 同——4. 啓示の証言としての弁証学			
VI. 文脈の問題——1. 異文化の問題			
第5回 同——2. 人間本性の探求			
第6回 同——3. 異文化コミュニケーション			
第7回 VII. 文化の壁を超える——1. 壁			
第8回 同——2. キリストの光			
第9回 同——3. 橋頭堡			
第10回 同——4. 二律背反の意味			
第11回 同——5. 教会			
第12回 同——6. 総括			
第13回 VIII. 心情の理由——1. 欲求・意志・理性			
第14回 同——2. キリストの十字架			
第15回 後期のまとめ			
<準備学習等の指示> 前期と同じ。			
<テキスト> 前期と同じ。			
<参考書・参考資料等> 主題に応じ、教員が適宜、授業中に指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> テキスト（ニーバー）に関する課題のプリントを提出する（複数回）。テキストの理解度（共通評価指標の③）が重視される。期末には 1500～3000 字程度のレポートを課す。共通評価指標（1）の③と④を重視して評価する。			

専門教育科目必修・歴史神学関係		
教会史Ⅰ	本城 仰太	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 古代教会（教会のはじまりからアウグスティヌスの時代まで）の歴史と諸問題を学ぶ。		
<到達目標> ①古代教会史の知識を身に着けるだけでなく、古代教会の歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。		
<授業の概要> 古代教会史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画>		
第1回 ガイダンス、教会のはじまりと地中海世界		
第2回 教会と国家：教会への迫害		
第3回 使徒教父たち		
第4回 弁証家たち		
第5回 正統と異端①：エイレナイオス		
第6回 正統と異端②：テルトゥリアヌスとキプリアヌス		
第7回 アレクサンドリア学派：クレメンスとオリゲネス		
第8回 コンスタンティヌス帝とキリスト教公認		
第9回 修道院運動		
第10回 キリスト論論争①：アレイオス主義とニカイア信条		
第11回 キリスト論論争②：アタナシオスとニカイア・コンスタンティノポリス信条		
第12回 カップドキア三教父		
第13回 4～5世紀の教会①：アンブロシウス、クリュソストモス、ヒエロニモス		
第14回 4～5世紀の教会②：アウグスティヌスとその神学		
第15回 総括		
期末試験		
<準備学習等の指示> ノートを取り、講義内容を<参考書>などによって補いながら、自分で整理していくこと。		
<テキスト> 特に定めない。毎回プリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> 1. J. ゴンザレス『キリスト教史（上巻）』（新教出版社） 2. W. ウォーカー『キリスト教史①古代教会』（ヨルダン社） 3. ブロックス『古代教会史』（教文館）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②レポートによって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。		

専門教育科目必修・歴史神学関係		
教会史Ⅱ	本城 仰太	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
教科に関する専門的事項（宗教史）		
<授業のテーマ> 中世（アウグスティヌス後から宗教改革前まで）の教会の歴史と諸問題を学ぶ。		
<到達目標> ①中世の教会史の知識を身に着けるだけでなく、歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。		
<授業の概要> 中世の教会史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画>		
第1回 ガイダンス、古代から中世へ		
第2回 中世初期の教会と伝道		
第3回 教会と国家①：神聖ローマ帝国の成立		
第4回 教会と国家②：西方教会と東方教会		
第5回 教会と国家③：叙任権闘争		
第6回 修道院運動①：修道院運動の展開		
第7回 修道院運動②：修道院の刷新運動		
第8回 十字軍		
第9回 修道院運動③：托鉢修道会		
第10回 教会と国家④：教皇権の絶頂		
第11回 スコラ神学①：初期（アンセルムスとアベラルドゥス）		
第12回 スコラ神学②：盛期（トマス・アクィナスとボナヴェントゥーラ）		
第13回 教会と国家⑤：教皇庁の衰退		
第14回 中世から宗教改革時代へ		
第15回 総括		
期末試験		
<準備学習等の指示> ノートを取り、講義内容を<参考書>などによって補いながら、自分で整理していくこと。		
<テキスト> 特に定めない。毎回プリントを配布する。		
<参考書・参考資料等> 1. 出村彰『中世キリスト教の歴史』（教団出版局） 2. J. ゴンザレス『キリスト教史（上巻）』（新教出版社）		
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②レポートによって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。		

専門教育科目必修・歴史神学関係			
教会史Ⅲ		本城 仰太	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
教科に関する専門的事項（宗教史）			
＜授業のテーマ＞ 宗教改革期（改革前史、ルターの改革から各地の宗教改革まで）の歴史と諸問題を学ぶ。			
＜到達目標＞ ①宗教改革史の知識を身に着けるだけでなく、宗教改革の歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。			
＜授業の概要＞ 宗教改革史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞			
第1回 宗教改革前史①：教会改革の必要性			
第2回 宗教改革前史②：エラスムスと人文主義			
第3回 ドイツの改革①：改革者ルター			
第4回 ドイツの改革②：ルターの神学			
第5回 ドイツの改革③：ルター派教会の形成			
第6回 スイスの改革①：ツヴィングリ			
第7回 再洗礼派			
第8回 スイスの改革②：カルヴァン			
第9回 カルヴァンの神学と改革派教会の形成			
第10回 改革者たちの神学：聖餐論、洗礼論、教会論			
第11回 イングランドの改革			
第12回 スコットランドの改革			
第13回 諸信条・信仰告白・問答			
第14回 カトリック教会の改革			
第15回 総括			
期末試験			
＜準備学習等の指示＞ ノートを取り、講義内容を＜参考書＞などによって補いながら、自分で整理していくこと。			
＜テキスト＞ 特に定めない。毎回プリントを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 1. J. ゴンザレス『キリスト教史（下巻）』（新教出版社） 2. 出村彰『総説 キリスト教史2 宗教改革篇』（日本キリスト教団出版局）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②レポートによって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。			

専門教育科目必修・歴史神学関係			
教会史Ⅳ		佐野 正子	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
教科に関する専門的事項（宗教史）			
＜授業のテーマ＞ 近・現代の教会史の動向と諸問題			
＜到達目標＞ 近・現代の教会史に関わる資料を読みこなし、基礎的な知識を習得し、教会史に関する諸問題を概観できる能力を養う。			
＜授業の概要＞ 近・現代の教会史を、史料にあたりながら、地域別、テーマごとに講義する。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞			
第1回 ガイダンス、教会史概観			
第2回 宗教改革から近・現代の教会へ			
第3回 17・18世紀のヨーロッパのキリスト教-ルター派教会、改革派教会、カトリック教会			
第4回 17・18世紀のイギリスのキリスト教-英国国教会とピューリタニズム、スコットランド教会			
第5回 17・18世紀のアメリカのキリスト教-アメリカの植民地時代の教会			
第6回 17・18世紀のヨーロッパのキリスト教-敬虔主義と啓蒙主義			
第7回 17・18世紀のイギリスのキリスト教-メソジスト運動、オックスフォード運動			
第8回 17・18世紀のアメリカのキリスト教-信仰復興運動と海外伝道			
第9回 19世紀のプロテスタント教会			
第10回 19世紀のカトリック教会			
第11回 近代の東方正教会			
第12回 現代世界の教会-エキュメニカル運動			
第13回 現代世界の教会-第2次世界大戦終結まで			
第14回 現代世界の教会-第2次世界大戦以後と21世紀の課題			
第15回 総括			
＜準備学習等の指示＞ 講義内容を＜参考書＞などによって補いながら、自分で整理して復習すること。			
＜テキスト＞ プリントを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ A.E. マクグラス『キリスト教神学資料集』、J. ゴンザレス『キリスト教史（下巻）』、棚村重行『現代人のための教理史ガイド』、栗林輝夫他『総説 キリスト教史3 近・現代』、W. ウォーカー『キリスト教史④ 近・現代のキリスト教』、菊地榮三他『キリスト教史』			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 毎週のコメントシートおよび期末レポートによって総合的に評価する。出席を2/3以上満たした者を評価の対象とする。評価にあたっては、共通評価指標（1）の1～5の内容を重視する。			

専門教育科目必修・歴史神学関係			
教会史Ⅴ		小室 尚子	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目>		
	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教科に関する専門的事項（宗教史）			
<授業のテーマ> 日本におけるキリスト教宣教開始（16世紀）以来の、教会形成の歴史を学ぶ。			
<到達目標> 異教社会での多くの試練を越えて、教会がどのように形成、展開されて来たのかを学ぶことによって、現代において宣教に遣わされる者が、歴史的視点に立って、何を受け継ぎ、どのように伝えて行くのかの指針を見出すことを目標とする。			
<授業の概要> キリシタンの時代から現代までの教会史／教会と日本の伝統的思想との緊張関係／現代日本において教会が抱える問題と課題（日本基督教団の問題と課題を中心に）と3つのテーマによって講義を進める。			
<履修条件>			
<授業計画> 第1回 序論：教会史を学ぶ意義 第2回 キリスト教伝来前史 第3回 キリシタンの歴史（1549～1873） 第4回 キリシタンの教会形成 第5回 プロテスタント・キリスト教の移入と展開 第6回 教会の形成期（1859～1912） 第7回 （1）日本基督公会時代とその後 第8回 （2）福音主義の理解 第9回 （3）教育史における貢献と弾圧 第10回 聖書の翻訳 第11回 教会の発展期（1912～1926） 第12回 教会の試練と解放（1926～現代） 第13回 （1）戦時下、日本基督教団の成立 第14回 （2）戦後から現代へ：日本基督教団が抱えた問題 第15回 （3）日本の教会の課題			
<準備学習等の指示> テキストや配布史料をよく読み込むこと。			
<テキスト> 鶴沼裕子『史料による日本キリスト教史』聖学院大学出版会 『日本キリスト教史年表[改訂版]』日本キリスト教歴史大事典編集委員会編 教文館（絶版のため、授業時にコピーを配付する。）			
<参考書・参考資料等> 初回授業時に文献表とともに紹介する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート（60%）と、授業への参加意識(40%)によって評価する。レポートは、「共通評価指標（1）」によって評価する。			

専門教育科目必修・歴史神学関係			
宗教史Ⅰ		上村 敏文	<担当形態> 単独
後期・２単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教史）		
<授業のテーマ>世界の宗教全般を広く学ぶ。歴史神学としての世界の宗教の基本的研究法、理論を学ぶと同時に、特にキリスト教との関連においての視座と、それぞれの宗教の立場の相違に着目する。			
<到達目標>学生は①世界の宗教の基本的教義を学ぶ。②その上でどのような歴史的背景と必然性により、その宗教が生じたのかに着目する。③キリスト教伝道において、宗教史を学ぶことにより、その応用としての伝道論を各自が理解できるようにする。			
<授業の概要>指定されたテキストを中心に講義を進めていく。適宜、配布資料、レジュメなどにより、発展的にテキストを理解、そしてそれぞれがキリスト教の立場からどのように了解するかに留意していく。			
<履修条件>世界の宗教を学んだ上で、さらに発展的に日本の宗教についての理解を深めていくことが望ましい。			
<授業計画>			
第１回 オリエンテーション 宗教史総説			
第２回 先史・未開の宗教について			
第３回 古代宗教とその定義			
第４回 ギリシャ・ローマの宗教			
第５回 ユダヤ人の宗教（１） その歴史的位置と特質			
第６回 ユダヤ人の宗教（２） ディアスポラ以降			
第７回 キリスト教 西方教会			
第８回 キリスト教と東方教会			
第９回 イスラーム（１） 教義と歴史概観			
第１０回 イスラーム（２）ヘジラ以降の変遷と現代			
第１１回 インド人の宗教 自然、社会、文化			
第１２回 仏教（１） 原始仏教 部派仏教			
第１３回 仏教（２） 北伝と南伝仏教 密教について			
第１４回 中国人の宗教 儒教と道教を中心として			
第１５回 日本人の宗教 神道について			
定期試験			
<準備学習等の指示> 事前に指摘テキストの該当箇所を読んでおくこと。			
<テキスト>岸本英夫 『世界の宗教』（原書房、2008）			
<参考書・参考資料等> 門脇佳吉『日本の宗教とキリストの道』（岩波書店、1997）			
<学生に対する評価（方法・基準）>①期末試験による考查。②授業への積極的取り組み（事前学習等）を重視する。評価にあたっては、共通評価指標（１）の①～⑤の内容を重視する。			

専門教育科目必修・実践神学関係			
実践神学概論 a		小泉 健	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 通年（a、b）の登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。			
<到達目標> 神学の全体構造の中に実践神学を正しく位置づけられるようになること。実践神学の主要なテーマについて、基本的な考え方を身につけること。			
<授業の概要> 前期は実践神学全体を概観した上で、実践神学基礎論としての教会論と説教学を扱う。			
<履修条件> 学部最終学年において履修のこと。			
<授業計画> 第1回 神学とは何かを改めて考え、その中での実践神学の位置づけを学ぶ。 第2回 実践神学とは何か（その1）実践神学の歴史を学ぶ。 第3回 実践神学とは何か（その2）「実践」と「神学」との関係を学ぶ。 第4回 実践神学とは何か（その3）現代のさまざまな実践神学の立場を知る。 第5回 実践神学とは何か（その4）まとめとして、実践神学を伝道論として捉えることを学ぶ。 第6回 教会建設論（その1）信仰と救済にとってなぜ教会が必要かを考える。 第7回 教会建設論（その2）さまざまな教会建設論の考え方を考える。 第8回 教会建設論（その3）実践神学基礎論としての教会論を整理する。 第9回 教会建設論（その4）日本において伝道する教会を建設する際の課題を考える。 第10回 説教学（その1）説教とは何か 説教の神学 第11回 説教学（その2）誰が説教するのか 説教者論 第12回 説教学（その3）誰に説教するのか 聴衆論 第13回 説教学（その4）どこで説教するのか 説教と礼拝 第14回 説教学（その5）何を説教するのか 説教と聖書 第15回 説教学（その6）いかに説教するのか 説教と修辞学			
<準備学習等の指示> 教室で配布される資料をていねいに読むこと。			
<テキスト> レジュメを用いるほか、必要に応じて教室でプリントを配布する。			
<参考書・参考資料等> 加藤常昭『教会とは何か』東神大パンフレット2 山口隆康『アブラハムと実践神学』東神大パンフレット27 R. ボーレン『神が美しくなられるために』教文館 R. リチャー『説教の神学——キリストのいのちを伝える』教文館 その他については授業中に文献表を配布する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席態度とレポートによって評価する。共通評価指標（1）の②～④を重視する。			

専門教育科目必修・実践神学関係			
実践神学概論 b		小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 通年（a、b）の登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。			
<到達目標> 教会で実践され、経験的に知っている行為に対して、神学的に把握し反省するための実践神学的な考え方を身につけること。			
<授業の概要> 実践神学諸科から、とくに礼拝学と牧会学の基礎を扱う。			
<履修条件> 学部最終学年において履修のこと。			
<授業計画> 第1回 礼拝学（その1）「礼拝」の広がり、と、礼拝を礼拝にするものを考える。 第2回 礼拝学（その2）新約聖書における礼拝と1、2世紀の教会の礼拝から学ぶ。 第3回 礼拝学（その3）3、4世紀の教会の礼拝についての重要文献を読む。 第4回 礼拝学（その4）宗教改革における礼拝改革を学ぶ。 第5回 礼拝学（その5）宗教改革以後の教会の礼拝の変遷を学ぶ。 第6回 礼拝学（その6）以上の学びを踏まえて、わたしたちの礼拝を再考する。 第7回 礼拝学（その7）個別のテーマとして、聖礼典の理解と礼拝堂の問題を取り上げる。 第8回 礼拝学（その8）個別のテーマとして、教会暦と主日聖書日課、さらに讃美歌学を取り上げる。 第9回 牧会学（その1）「牧会」とは何かを、聖書と教会の歴史から考える。 第10回 牧会学（その2）20世紀以降の牧会学におけるさまざまな牧会の理解を学ぶ。 第11回 牧会学（その3）牧会の課題について整理する。 第12回 牧会学（その4）特別な牧会の場面（結婚、病、死別）について考察する。 第13回 牧会学（その5）牧会の方法（祈り、指導、訪問、手紙）を考える。 第14回 牧会学（その6）個別のテーマとして、告解と相互牧会を取り上げる。 第15回 牧会学（その7）教会法と戒規を牧会の問題として理解する。			
<準備学習等の指示> 教室で配布される資料をていねいに読むこと。			
<テキスト> レジュメを用いるほか、必要に応じて教室でプリントを配布する。			
<参考書・参考資料等> J. F. ホワイト『キリスト教の礼拝』日本基督教団出版局 加藤常昭『慰めのコイノーニア——牧師と信徒が共に学ぶ牧会学』日本キリスト教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席態度とレポートによって評価する。共通評価指標（1）の②～④を重視する。			

専門教育科目必修・実践神学関係		
キリスト教教育概論 a	朴 憲郁	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件> できるだけ通年で履修すること。	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 世界キリスト教の教育史と教育思想		
<到達目標> キリスト教教育の歴史、特色、理論を学ぶ。		
<授業の概要> 二千年のキリスト教史における種々の教育形態の機能と意義を考察しながら、キリスト教教育の本質と特色と目的を明らかにし、それを今日の教育的業に資するものとしたい。		
<履修条件> 特にない		
<授業計画> 第1回 キリスト教教育とは何か？ 一般教育との関連と相違 第2回 キリスト教教育と神学 第3回 聖書における「教育」の理解 パウロ神学の場合。神学的人間理解に基づくキリスト教教育 第4回 原始キリスト教時代-1.使徒時代 第5回 原始キリスト教時代-2.使徒後時代 第6回 古カトリック教会時代 第7回 中世の学校：修道院（または僧院）学校（monastic school）、他 第8回 中世の教育の特徴としての象徴主義ーその意義と問題 第9回 近世社会の諸特徴 2)教育史上の特徴:ルネサンスと宗教改革 第10回 ルターとカルヴァンの教育思想と実践 4)カトリック教会の教育改革 第11回 プロテスタンティズムの教育運動 6)近世後期ヨーロッパのキリスト教 第12回 東北アジアのキリスト教教育 第13回 現代 第14回 現代的人間の特性とキリスト教教育 第15回 伝道とキリスト教教育 定期試験		
<準備学習等の指示> 随時、必要に応じて課題を課す。授業時に紹介した参考書を随時手にして自習することも大切である。		
<テキスト> 特に指定はせず、その都度プリント配布する。		
<参考書・参考資料等> 朴憲郁、『現代キリスト教教育学研究ー神学と教育の間でー』、日本キリスト教団出版局、2020 年 John L.Elis, A History of Christian Education, Florida, 2002 その他、随時、紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 定期試験の結果で評価する。 出席を2／3以上満たした者を評価の対象とする。共通評価指標（1）の①～⑤を重視する。		

専門教育科目必修・実践神学関係		
キリスト教教育概論 b	長山 道	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 特になし。	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> キリスト教教育の理論、歴史、諸問題について学ぶ。		
<到達目標> キリスト教教育の特徴、キリスト教教育学の基本的な用語とその意味、キリスト教教育の歴史を理解する。		
<授業の概要> キリスト教教育に関する基礎的な理論および歴史について講義し、現代の教会やキリスト教学校との関連についてディスカッションをしながら考察を深める。		
<履修条件> 特になし。		
<授業計画> 第1回 キリスト教教育の特質 第2回 信仰を教えることは可能か 第3回 カテキズム教育 第4回 近代の教育学に見る「キリスト教的」人間観とその諸問題 第5回 創造と聖化 第6回 教会学校の歴史と意義 第7回 幼児洗礼 第8回 キリスト教幼児教育 第9回 キリスト教学校 第10回 青少年期のキリスト教教育 第11回 成人のキリスト教教育 第12回 高齢者のキリスト教教育 第13回 人格形成とキリスト教教育 第14回 礼拝と教育 第15回 家庭におけるキリスト教教育		
<準備学習等の指示> 講義中に指示する。		
<テキスト> レジュメを配布する。		
<参考書・参考資料等> 講義中に紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを課す。共通評価指標（1）①、②および⑤を重視する。		

専門教育科目選択必修・学部演習			
旧約聖書学部演習 a		田中 光	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞a, b 両方とも登録することが望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 旧約聖書学の論文の執筆			
＜到達目標＞ 旧約聖書を批評的に読む力をつけ、学部卒業論文を執筆すること。			
＜授業の概要＞ 前期の授業の前半で、詩編（主に王の詩編）をとりあげて講読し、旧約聖書を批評的に読む訓練をする。その後、前期の後半で論文執筆に向けた形式的レクチャーをする。後期は全体を通して、学生による発表（執筆している論文の内容について）となる。			
＜履修条件＞ ヒブル語の知識があることが望ましいが、無い方も歓迎する（但し、少なくとも本授業と並行してヒブル語の授業を受講していなければならない）。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション&イントロダクション 第2回 詩編解釈の基礎知識と解釈の歴史① 詩編の基礎知識、新約聖書～古代教父の時代までの解釈 第3回 詩編解釈の基礎知識と解釈の歴史② 宗教改革～現代までの解釈 第4回 詩編2編の講読 第5回 詩編20編の講読 第6回 詩編21編の講読 第7回 詩編72編の講読 第8回 詩編110編の講読 第9回 詩編132編の講読 第10回 詩編144編の講読 第11回 聖書学の論文の書き方① 論文を書く際の心得 第12回 聖書学の論文の書き方② 文献の収集と文献の読み方について（図書館ツアー） 第13回 聖書学の論文の書き方③ 本文批評、聖書学の方法論について 第14回 論文執筆演習① 問題の見つけ方 第15回 論文執筆演習② 論文への展開の仕方			
＜準備学習等の指示＞ 前半では演習形式で授業を行うので、学生は事前に指示された準備（聖書翻訳の読み比べ、注解書を読むなど）をきちんとしてくること。			
＜テキスト＞ 前半の演習については特にテキストは定めない。後半の論文執筆のための授業のためには、澤田昭夫『論文のレトリック』講談社学術文庫を購入しておくこと。			
＜参考書・参考資料等＞ 初回授業にて指示するが、詩編解釈の学問的トピックについて知るための基礎的文献として、次のものを挙げておく。W. P. Brown (ed.), <i>The Oxford Handbook of the Psalms</i> , Oxford University Press(2014)			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への貢献度と、期末のレポート（論文の方向性についての報告）によって評価する。評価は共通評価指標（2）に基づいて行う。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
旧約聖書学部演習 b		田中 光	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>a, b 両方とも登録することが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 旧約聖書学の論文の執筆			
<到達目標> 旧約聖書を批評的に読む力をつけ、学部卒業論文を執筆すること。			
<授業の概要> 学生による執筆中の論文内容の発表と、それに対する担当教員の批評・アドバイス。			
<履修条件> ヒブル語を履修していること。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション&イントロダクション 第2回 学生による発表① 論文の方向性（thesis proposal）の発表① 第一グループ 第3回 学生による発表② 論文の方向性（thesis proposal）の発表② 第二グループ 第4回 学生による発表③ 序文の内容の発表① 第一グループ 第5回 学生による発表④ 序文の内容の発表② 第二グループ 第6回 学生による発表⑤ 本論の内容の発表① 第一グループ 第7回 学生による発表⑥ 本論の内容の発表② 第二グループ 第8回 学生による発表⑦ 本論の内容の発表③ 第一グループ 第9回 学生による発表⑧ 本論の内容の発表④ 第二グループ 第10回 学生による発表⑨ 本論の内容の発表⑤ 第一グループ 第11回 学生による発表⑩ 本論の内容の発表⑥ 第二グループ 第12回 学生による発表⑪ 本論の内容の発表⑦ 第一グループ 第13回 学生による発表⑫ 本論の内容の発表⑧ 第二グループ 第14回 学生による発表⑬ 本論の内容の発表⑨ 第一グループ 第15回 学生による発表⑭ 本論の内容の発表⑩ 第二グループ			
<準備学習等の指示> 自分の担当回に向けて、発表の準備を十分にしてくることが求められる。			
<テキスト> 特に定めない。			
<参考書・参考資料等> 特に定めない。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表の内容と、学部卒業論文によって評価する。評価は共通評価指標（2）に基づいて行う。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
新約聖書学部演習 a		焼山 満里子	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 新約聖書学の方法に親しみ、新約聖書学の分野で論文を書く準備をする。			
<到達目標> 学部論文を執筆する準備をする。			
<授業の概要> パウロの黙示思想に関して新約聖書学の論文を読み、釈義論文を書く。			
<履修条件> 卒業を予定する学部4年生で新約専攻希望者。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テサロニケの信徒への手紙一 1:2-10 釈義ステップ 1-4 第3回 テキスト 『パウロの中心思想』序説 第4回 テキスト 『パウロの中心思想』1章 第5回 テキスト 『パウロの中心思想』2章 第6回 テキスト 『パウロの中心思想』3章 第7回 テキスト 『パウロの中心思想』4章 第8回 テキスト 『パウロの中心思想』5章 第9回 テキスト 『パウロの中心思想』6章 第10回 テキスト 『終末論の系譜』8章 238頁まで 第11回 テキスト 『終末論の系譜』8章 238頁から 第12回 テキスト 『終末論の系譜』1章 第13回 テキスト 『終末論の系譜』2章 第14回 テキスト 『終末論の系譜』3章 66頁まで 第15回 テキスト 『終末論の系譜』3章 66頁から			
<準備学習等の指示> 毎回指定されている聖書、テキストの講読箇所を予習して授業に参加のこと。			
<テキスト> 門脇佳吉『パウロの中心思想』教文館、2011年。大貫隆『終末論の系譜』筑摩書房、2019年。			
<参考書・参考資料等> 適宜案内する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の授業参加と期末レポートを共通評価指標（2）にしたがって評価する。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
新約聖書学部演習 b		中野 実	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 学部4年生	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 学部論文として釈義レポートを準備するためのクラス。			
<到達目標> このクラスを通して、論文の書き方や釈義の方法、手続きを身につけることができる。			
<授業の概要> 論文の書き方を学びつつ、釈義を進めていく。一つの聖書テキストを共同で釈義し、それぞれが論文にまとめていく。			
<履修条件>			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 一般的論文、レポートの書き方 第3回 釈義レポートの書き方 第4回 問題発見、問題設定 第5回 自らの問題意識を学問的に表現してみる 第6回 先行研究の発見 第7回 先行研究から学ぶ 第8回 釈義の手続き 第9回 注解書を読む 第10回 研究書を読む 第11回 テキストの選定 第12回 テキストの釈義 第13回 自らのテーゼを発見 第14回 見直し 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> とにかくコツコツ聖書テキストや研究書と取り組ながら、自分自身の議論を組み立てることに努める。			
<テキスト> 中野ほか『新約聖書解釈の手引き』（日本基督教団出版局、2016年）			
<参考書・参考資料等> 適宜紹介する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 共通評価指標（2）に基づきつつ、クラスへの参加度、努力、その実りとしての釈義レポートを通して総合的に評価する。出席が三分の二に達しない場合は、評価の対象としない。レポートにおいては、適切な方法論に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であることが求められる。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
組織神学学部演習 a		須田 拓	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞組織神学学部演習 b と通年で履修・登録することを原則とする	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 卒業論文の作成に向けて、組織神学的に考え叙述する技法を学ぶ。			
＜到達目標＞ 組織神学的に考えることができるようになる。			
＜授業の概要＞ 後期における卒業論文作成の準備			
＜履修条件＞ 学部4年生で卒業を予定している者			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 卒業論文の主題について 第3回 論文の書き方(1) 論文とは何か 第4回 論文の書き方(2) 論文の構成と書き方 第5回 組織神学の考え方(1) 文章の読解 第6回 組織神学の考え方(2) 内容の検討 第7回 組織神学の考え方(3) 批評とその書き方 第8回 中間総括 第9回 卒業論文の主題と文献について 第10回 組織神学の論じ方(1) 神学的文章の読解 第11回 組織神学の論じ方(2) 神学的文章の検討 第12回 組織神学の論じ方(3) 神学的文章の批評 第13回 卒業論文主題の検討 第14回 卒業論文主題の最終決定 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 与えられた課題を準備してくること。			
＜テキスト＞ 特になし			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で、必要に応じて指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加状況と学期中の課題によって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）に基づいて評価する。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
組織神学学部演習 b		須田 拓	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞組織神学学部演習 a と通年で履修・登録することを原則とする	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 学部卒業論文を作成する。			
＜到達目標＞ 学部卒業論文を作成する。			
＜授業の概要＞ 受講者を3つのグループに分け、順に中間発表を重ねながら、卒業論文を作成する。			
＜履修条件＞ 前期と同じ			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 文献表・主要文献の内容概観の発表（第1グループ・第2グループ前半） 第3回 文献表・主要文献の内容概観の発表（第2グループ後半・第3グループ） ＜第1サイクル＞（1,000字程度を執筆してくる） 第4回 第1グループのメンバー各自の発表 第5回 第2グループのメンバー各自の発表 第6回 第3グループのメンバー各自の発表 ＜第2サイクル＞（2,000字程度を執筆してくる） 第7回 第1グループのメンバー各自の発表 第8回 第2グループのメンバー各自の発表 第9回 第3グループのメンバー各自の発表 ＜第3サイクル＞（3,000字程度を執筆してくる） 第10回 第1グループのメンバー各自の発表 第11回 第2グループのメンバー各自の発表 第12回 第3グループのメンバー各自の発表 ＜第4サイクル＞（4,000字程度を執筆してくる） 第13回 第1グループのメンバー各自の発表 第14回 第2グループのメンバー各自の発表 第15回 第3グループのメンバー各自の発表			
＜準備学習等の指示＞ 論文作成に積極的に取り組むこと。			
＜テキスト＞ 特になし			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で、必要に応じて指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 最終的に提出された卒業論文によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（2）に基づいて評価する。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
歴史神学学部演習 a		本城 仰太	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 歴史神学の学習方法の習得と学部論文作成の手順を学ぶ。			
＜到達目標＞ ①歴史史料の扱い方、読み方を身につける ②歴史神学の方法論（特に史料を用いての論文の書き方）を身につける			
＜授業の概要＞ 歴史神学の学問研究のために必要な基礎概念、史料の扱い方、論文作成の方法等を学ぶ。テキストを割り当てて発表して内容をつかんでいく。また、その過程で自分のテーマを設定し、史料を集め、史料を読み、学部論文作成のための素材を整えていく。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 ガイダンス、歴史神学と歴史記述 第2回 テキスト1章「テーマ設定」 第3回 テキスト2章「一次史料」と「二次史料」 第4回 テキスト3章「史料の探し方」 第5回 「テーマ」の発表 第6回 テキスト4章「史料のまとめ方」 第7回 テキスト5章「史料の批判」 第8回 「一次史料」の発表① 第9回 「二次史料」の発表① 第10回 「二次史料」の発表② 第11回 テキスト6章「アウトライン」 第12回 「アウトライン」の発表 第13回 テキスト7章「書く」 第14回 テキスト8章「注と参考文献」 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 学部論文作成のための素材を整えていくことが目的であるため、授業で指示されたことをこなしていくこと。			
＜テキスト＞ 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫153）。このテキストは、各自購入しておくこと。			
＜参考書・参考資料等＞ J.H.アーノルド『歴史』（新広記訳、岩波書店）、N.F.Cantor, R.I.Schneider, <i>How to Study History</i> . 他			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表とクラスでの討議の貢献度、レポート等によって、共通評価指標（2）に基づいて総合的に評価する。			

専門教育科目選択必修・学部演習			
歴史神学学部演習 b		本城 仰太	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 歴史神学の学部論文作成と、各個教会史を批判的に読み解く訓練をする。			
＜到達目標＞ ①歴史神学の方法論（特に史料を用いての論文の書き方）を身につける ②各個教会史などの歴史史料を批判的に評価できるようにする			
＜授業の概要＞ 前期で行った内容（テーマ設定、一次史料読解、二次史料読解、アウトライン作成）を踏まえ、実際に学部論文を作成していく。また、将来牧師として教会史を執筆することを踏まえ、各個教会史を読み、論評することを行う。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 ガイダンス、学部論文と教会史について 第2回 批評の仕方 第3回 学部論文の中間発表① 第4回 学部論文の中間発表② 第5回 学部論文の中間発表③ 第6回 教会史作成のための史料 第7回 教会史と記念誌の論評 第8回 教会史・記念誌の発表① 第9回 教会史・記念誌の発表② 第10回 教会史・記念誌の発表③ 第11回 学部論文の発表① 第12回 学部論文の発表② 第13回 学部論文の発表③ 第14回 ディスカッション 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 学部論文作成が目的であるため、授業で指示されたことをこなしていくこと。			
＜テキスト＞ 澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫153）。このテキストは、各自購入しておくこと。			
＜参考書・参考資料等＞ 土肥昭夫『各個教会史をどう書くか』（教文館）、他			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表とクラスでの討議の貢献度、学部論文等によって、共通評価指標（2）に基づいて総合的に評価する。			

専門教育科目選択必修・神学書講読		
英語神学書講読・聖書Ⅰ	焼山 満里子	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 新約聖書学の研究書を講読し英語講読の力を養うこと。		
<到達目標> 新約聖書学の用語や議論の仕方になじみ、研究書を読めるようになること。		
<授業の概要> テキスト講読を進める。各自授業で扱う箇所を予習し、授業ではその訳を検討しあう。		
<履修条件> 英語Ⅱ履修すみのこと。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション（英語辞書持参のこと） 第2回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.1 第3回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.2 第4回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.3 小テスト 第5回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.4 第6回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.5 第7回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.6 小テスト 第8回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.7 第9回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.8 第10回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.9 中間試験 第11回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.10 第12回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.11 第13回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.12 小テスト 第14回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.13 第15回 テキスト 第一章 Paul and the Corinthians, p.14 定期試験		
<準備学習等の指示> 辞書、文法書を用いて予習。		
<テキスト> 担当者が準備する。		
<参考書・参考資料等> 辞書、文法書を準備のこと。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の予習と授業参加、適宜小テスト、中間、期末試験を共通評価指標（1）にしたがって評価する。		

専門教育科目選択必修・神学書講読			
英語神学書講読・組織Ⅰ		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 特になし（学期毎で履修可）。	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 英語による組織神学関係の文書を講読することを通して、英語の専門書をひもといていくための能力を高める。併せて当該文書が扱う主題についての理解を深める。Ⅰでは、比較的平易なものを読む。			
＜到達目標＞ ①一般的な英語力の向上、②組織神学にかかわる英語の語彙の習得、③テキストの内容について自分の言葉で説明出来るようになること。			
＜授業の概要＞ アメリカの組織神学者であるR・ジェンソンの晩年の講演に基づく組織神学概説を読む。1 センテンスずつあてて、訳してもらう。適宜、内容について解説していく。今回は人間論。			
＜履修条件＞ 英語Ⅱを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。			
＜授業計画＞ Robert W. Jenson, <i>A Theology in Outline</i> (New York: Oxford University Press, 2016)から、第6章（“The Image of God”）を読む。 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト、p. 63. 第3回 同、pp. 63-64. 第4回 同、pp. 64-65. 第5回 同、p. 65. 第6回 同、pp. 66-67. 第7回 同、p. 67. 第8回 同、p. 68. 第9回 同、pp. 68-69. 第10回 同、p. 69. 第11回 同、pp. 69-70. 第12回 同、pp. 70-71. 第13回 同、p. 71. 第14回 文法面についてのまとめ。 第15回 内容面についてのまとめ。			
＜準備学習等の指示＞ 予習してくること。（英和辞典は紙ベースの中辞典を使うことを強く勧める。）			
＜テキスト＞ 担当者が用意するプリント。			
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業中の和訳の出来と小テストによる。共通評価指標（1）の①～③も考慮に入れられる。			

専門教育科目選択必修・神学書講読		
英語神学書講読・組織Ⅱ	神代 真砂実	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 特になし（学期毎で履修可）。	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 英語による組織神学関係の文書を講読することを通して、英語の専門書をひもといていくための能力を高める。併せて当該文書が扱う主題についての理解を深める。Ⅱでは、Ⅰよりも高度なものを読む。		
<到達目標> ①一般的な英語力の向上、②組織神学にかかわる英語の語彙の習得、③（より高度な）テキストの内容について自分の言葉で説明出来るようになること。		
<授業の概要> 組織神学の概説書から、三位一体についての議論を読む。1 センテンスずつあてて、訳してもらう。適宜、内容について解説していく。		
<履修条件> 英語Ⅱを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。		
<授業計画> Fred Sanders, “The Trinity,” in <i>The Oxford Handbook of Systematic Theology</i>, eds. John Webster, Kathryn Tanner, and Iain Torrance (Oxford: Oxford University Press, 2007), pp. 35-53 を読む。 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト、pp. 35-36. 第3回 同、pp. 36-37. 第4回 同、pp. 37-38. 第5回 同、pp. 38-39. 第6回 同、pp. 39-41. 第7回 同、pp. 41-42. 第8回 同、pp. 42-43. 第9回 同、pp. 43-45. 第10回 同、pp. 45-46. 第11回 同、pp. 46-47. 第12回 同、pp. 47-48. 第13回 同、pp. 48-49. 第14回 同、pp. 49-50. 第15回 同、pp. 50-51. および、まとめ。		
<準備学習等の指示> 予習してくること。（英和辞典は紙ベースの中辞典を使うことを強く勧める。）		
<テキスト> 担当者が用意するプリント。		
<参考書・参考資料等> 特になし。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業中の和訳の出来と小テストによる。共通評価指標（1）の①～③も考慮に入れられる。		

専門教育科目選択必修・神学書講読			
独語神学書講読・組織Ⅰ		芳賀 力	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> H. -J. Kraus のテキストを読み、聖霊論の枠組みの中でなされた教会論を考察する。			
<到達目標> 辞書を頼りにドイツ語の神学書を読みこなす力を身につける。			
<授業の概要> テキストを音読し、順番に訳していく。			
<履修条件> ドイツ語の基本文法を一応終えていること。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキストの SS.80-81 第3回 テキストの SS.82-83 第4回 テキストの SS.84-85 第5回 テキストの SS.86-87 第6回 テキストの SS.88-89 第7回 テキストの SS.90-91 第8回 テキストの SS.92-93 第9回 テキストの SS.94-95 第10回 テキストの SS.96-97 第11回 テキストの SS.98-99 第12回 テキストの SS.100-101 第13回 テキストの SS.102-103 第14回 テキストの SS.104-105 第15回 テキストの SS.106-107			
<準備学習等の指示> 前もって辞書を小まめによく引き、不明な単語がないようにしておくこと。			
<テキスト> Hans-Joachim Kraus, Heiliger Geist. Gottes befreiende Gegenwart, Kösel-Verlag München 1986. 担当者が用意する。			
<参考書・参考資料等> 授業の中で指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 共通評価指標（1）のうち、特に①と②を重視する。			

専門教育科目選択必修・神学書講読			
独語神学書講読・組織Ⅱ		芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ H. -J. Kraus のテキストの続きを読み、信仰と祈りと聖化の面からキリスト者の生活を考察する。			
＜到達目標＞ 辞書を頼りにドイツ語の神学書を読みこなす力を身につける。			
＜授業の概要＞ テキストを音読し、順番に訳していく。			
＜履修条件＞ ドイツ語の基本文法を一応終えていること。			
＜授業計画＞ 第1回 テキストの SS.108-109 第2回 テキストの SS.110-111 第3回 テキストの SS.112-113 第4回 テキストの SS.114-115 第5回 テキストの SS.116-117 第6回 テキストの SS.118-119 第7回 テキストの SS.120-121 第8回 テキストの SS.122-123 第9回 テキストの SS.124-125 第10回 テキストの SS.126-127 第11回 テキストの SS.128-129 第12回 テキストの SS.130-131 第13回 テキストの SS.132-133 第14回 テキストの S.134 第15回 総括			
＜準備学習等の指示＞ 前もって辞書を小まめによく引き、不明な単語がないようにしておくこと。			
＜テキスト＞ Hans-Joachim Kraus, Heiliger Geist. Gottes befreiende Gegenwart, Kösel-Verlag München 1986. 担当者が用意する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 共通評価指標（1）のうち、特に①と②を重視する。			

専門教育科目選択必修・神学書講読			
英語神学書講読・組織歴史Ⅰ		本城 仰太	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 英語の神学書を読んでいくための基本的な力を養う。合わせて当該文献の内容についての理解を深める。			
<到達目標> 英語の神学書を神学的に読むことができるようにする。それに付随する神学的な用語・人物・書名等を調べることができるようにする。			
<授業の概要> 基本信条（使徒信条、ニカイア信条、アタナシウス信条）の成立史と神学的理解を深める。1 センテンスずつ訳してもらいながら、必要事項は適宜、解説しながらゆっくり読んでいく。			
<履修条件> 英語Ⅱ履修済みか、それと同程度の英語力を有していること。			
<授業計画> 第1回 信条成立史の概要説明、テキストの説明（C.P.Arand, J.A.Nestingen, R.Kolb, <i>The Lutheran confessions : history and theology of The book of Concord</i>, Minneapolis : Fortress Press , 2012 の Chapter 2 (The Theological Contributions of the Ancient Creeds) の pp.41-58) 第2回 テキスト pp.41f 第3回 テキスト pp.42-44 第4回 テキスト pp.44f 第5回 テキスト pp.45f 第6回 テキスト pp.46-48 第7回 テキスト pp.48f 第8回 テキスト pp.49f 第9回 テキスト pp.50f 第10回 テキスト pp.51-53 第11回 テキスト pp.53f 第12回 テキスト pp.54f 第13回 テキスト pp.55-57 第14回 テキスト pp.57f 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> 予習をしていくこと。			
<テキスト> 担当者が用意するプリント。			
<参考書・参考資料等> 特になし。必要ならば英和辞典、文法解説書を準備すること。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提とし、授業での訳、授業への参加態度、期末レポート（テキストの要約）によって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。			

専門教育科目選択必修・神学書講読		
英語神学書講読・組織歴史Ⅱ	本城 仰太	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 英語の神学書を読んでいくための基本的な力を養う。合わせて当該文献の内容についての理解を深める。		
<到達目標> 英語の神学書を神学的に読むことができるようにする。それに付随する神学的な用語・人物・書名等を調べることができるようにする。		
<授業の概要> ルフィヌス『信条講解』を読んで信条成立史と神学的理解を深める。1 センテンスずつ訳してもらいながら、必要事項は適宜、解説しながらゆっくり読んでいく。		
<履修条件> 英語Ⅱ履修済みか、それと同程度の英語力を有していること。		
<授業計画> 第1回 信条成立史の概要説明、テキストの説明（Rufinus, <i>A Commentary on the Apostles' Creed (Ancient Christian Writers)</i>, Translated and Annotated by J.N.D.Kelly, 1995, London : Longmans の Text の部分（pp.28ff）） 第2回 テキスト pp.28f 第3回 テキスト pp.29-31 第4回 テキスト pp.31-33 第5回 テキスト pp.33f 第6回 テキスト pp.34-36 第7回 テキスト pp.36f 第8回 テキスト pp.37f 第9回 テキスト pp.38-40 第10回 テキスト pp.40-42 第11回 テキスト pp.42f 第12回 テキスト pp.43-45 第13回 テキスト pp.45-47 第14回 テキスト pp.47f 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 予習をしてくること。		
<テキスト> 担当者が用意するプリント。		
<参考書・参考資料等> 特になし。必要ならば英和辞典、文法解説書を準備すること。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提とし、授業での訳、授業への参加態度、期末レポート（テキストの要約）によって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。		

専門教育科目選択・聖書神学関係			
旧約聖書神学Ⅳ		左近 豊	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 旧約聖書に見出される神学思想の現代的意義について考察する。			
<到達目標> 東日本大震災や COVID-19 による共同体の危機において、特に旧約聖書の「嘆き」に注目し、学生が将来、教会の礼拝、牧会、祈り、霊的生活において旧約聖書神学的視座に立って思索できるようになる。			
<授業の概要> パンデミックを含めた災害や危難に直面した地域に建てられている教会の「とりなし祈り」の務めについて、旧約聖書の詩人たちの祈りに学ぶ。危機の時代に発せられた言葉として旧約詩編、エレミヤ書、哀歌等を取り上げ、参照すべき文献を精読し、また聖書テキストを文芸学的手法を用いて分析し、その様式や語り口の特徴を理解し、現代の危機に向けて教会が語るべき言葉、神に訴えるべき「嘆き」の言葉について探求する。			
<履修条件>			
<授業計画> 第1回 序 課題の設定：現代の教会に仕える私たちが、旧約聖書に問い、また逆に問われている問題、特に「嘆き」に注目し、授業全体の課題を設定する 第2回 旧約聖書と現代（1）：現代を旧約聖書神学的視点から考察する 第3回 旧約聖書と現代（2）：現代日本を旧約聖書神学的視点から考察する 第4回 証言としての旧約聖書：旧約聖書の証言性に注目し、「嘆き」を通して証しされる神、信仰共同体、歴史について考察する 第5回 聖書における嘆きの神学的考察の可能性を探る 第6回 聖書における崩壊期の思想について 第7回 日本の霊的生活における悲哀の思想について 第8回 旧約聖書 嘆きの詩編（1）：その様式と内容について考察する 第9回 旧約聖書 嘆きの詩編（2）：「嘆きの詩編」の神学的主題について考察する 第10回 旧約聖書 エレミヤ書：「エレミヤ書」の嘆きの様式と内容について考察する 第11回 旧約聖書 哀歌（1）：「哀歌」の様式と内容について考察する 第12回 旧約聖書 哀歌（2）：「哀歌」の神学的主題について考察する 第13回 信仰共同体の歴史における嘆き：影響史的視点から哀歌解釈について考察する 第14回 キリストの受難における嘆き：嘆きの礼拝学的意味を考察する 第15回 現代の嘆きの詩：現代における旧約詩編の展開例として数名の信仰詩人の詩を取り上げて考察する			
<準備学習等の指示> 各授業で挙げられる参考文献に事前に目を通しておくこと			
<テキスト> ・聖書 ・『3・11以降の世界と聖書』（日本基督教団出版局、2016年） ・『現代聖書注解 哀歌』（日本基督教団出版局、2013年） その他授業の中で指示する。			
<参考書・参考資料等> テキストに加えて授業において随時提示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業参加（発題・コメントシート） 60％ 期末レポート 40％ 評価にあたっては共通評価指標（1）の①～⑤の内容を重視する。			

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係																																																																																																																															
ヒブル語Ⅰ（1,2）		宮 岸 薫	＜担当形態＞ 単独																																																																																																																												
前期・4単位		＜登録条件＞ 通年の登録が望ましい。																																																																																																																													
教職課程における要件・区分等	該当せず																																																																																																																														
＜授業のテーマ＞ 聖書ヒブル語の基礎的な文法を学ぶ。																																																																																																																															
＜到達目標＞ ヒブル語の読み書きができる。平易な聖書ヒブル語の文章が理解できる。																																																																																																																															
＜授業の概要＞ テキストによる基礎文法の説明、練習問題、小テスト。																																																																																																																															
＜履修条件＞ 単位取得者は継続して後期（ヒブル語Ⅱ）も履修すること。旧約専攻者は必須。																																																																																																																															
＜授業計画＞ <table><tr><td>第1回</td><td>序 論</td><td>ヒブル語とは</td><td>文字（Alphabet）</td></tr><tr><td>第2回</td><td>1 読み方</td><td>第1課</td><td>字母 写字練習</td></tr><tr><td>第3回</td><td></td><td>第2課</td><td>母音記号</td></tr><tr><td>第4回</td><td></td><td>第3課</td><td>音節と Shewa</td></tr><tr><td>第5回</td><td></td><td>第4課</td><td>母音文字と Mappiq</td></tr><tr><td>第6回</td><td></td><td>第5課・第6課</td><td>Dagesh と Rafe、母音の分類と変化</td></tr><tr><td>第7回</td><td></td><td>第7課</td><td>喉音</td></tr><tr><td>第8回</td><td></td><td>第8課</td><td>アクセント等諸記号、Ketib・Qere</td></tr><tr><td>第9回</td><td>2 品 詞</td><td>第9課</td><td>定冠詞、形容詞（1）</td></tr><tr><td>第10回</td><td></td><td>第9課</td><td>接続詞</td></tr><tr><td>第11回</td><td></td><td>第10課</td><td>代名詞、関係代名詞（1）、疑問詞</td></tr><tr><td>第12回</td><td></td><td>第11課</td><td>前置詞、目的辞</td></tr><tr><td>第13回</td><td></td><td>第11課</td><td>人称代名詞語尾（1）</td></tr><tr><td>第14回</td><td>3 動 詞（Ⅰ）</td><td>--強動詞 Qal--</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>第12課</td><td>動詞：完了態</td></tr><tr><td>第15回</td><td></td><td>第13課</td><td>動詞：未完了態</td></tr><tr><td>第16回</td><td></td><td>第14課</td><td>願望形</td></tr><tr><td>第17回</td><td></td><td>第14課</td><td>継続 Waw および従属 Waw</td></tr><tr><td>第18回</td><td></td><td>第15課</td><td>命令法、不定詞</td></tr><tr><td>第19回</td><td></td><td>第15課</td><td>分詞</td></tr><tr><td>第20回</td><td></td><td>第16課</td><td>状態動詞</td></tr><tr><td>第21回</td><td>4 名詞の変化</td><td>第17課</td><td>語形変化、分類、独立形</td></tr><tr><td>第22回</td><td></td><td>第17課</td><td>合成形、形容詞（2）</td></tr><tr><td>第23回</td><td></td><td>第18課</td><td>名詞の変化（第一類）</td></tr><tr><td>第24回</td><td></td><td>第18課</td><td>不規則変化名詞</td></tr><tr><td>第25回</td><td></td><td>第19課</td><td>名詞の変化（第二類）、副詞と形成接辞、所有</td></tr><tr><td>第26回</td><td></td><td>第20課</td><td>名詞の変化（第三、第四、第五類）、名詞形成と接辞</td></tr><tr><td>第27回</td><td>5 代名詞語尾</td><td>第21課</td><td>人称代名詞語尾（2）Ⅰ：名詞の人称代名詞語尾</td></tr><tr><td>第28回</td><td></td><td>第21課</td><td>Ⅱ：動詞の人称代名詞語尾</td></tr><tr><td>第29回</td><td>全体復習</td><td></td><td></td></tr><tr><td>第30回</td><td>総まとめ</td><td></td><td></td></tr></table> 定期試験				第1回	序 論	ヒブル語とは	文字（Alphabet）	第2回	1 読み方	第1課	字母 写字練習	第3回		第2課	母音記号	第4回		第3課	音節と Shewa	第5回		第4課	母音文字と Mappiq	第6回		第5課・第6課	Dagesh と Rafe、母音の分類と変化	第7回		第7課	喉音	第8回		第8課	アクセント等諸記号、Ketib・Qere	第9回	2 品 詞	第9課	定冠詞、形容詞（1）	第10回		第9課	接続詞	第11回		第10課	代名詞、関係代名詞（1）、疑問詞	第12回		第11課	前置詞、目的辞	第13回		第11課	人称代名詞語尾（1）	第14回	3 動 詞（Ⅰ）	--強動詞 Qal--				第12課	動詞：完了態	第15回		第13課	動詞：未完了態	第16回		第14課	願望形	第17回		第14課	継続 Waw および従属 Waw	第18回		第15課	命令法、不定詞	第19回		第15課	分詞	第20回		第16課	状態動詞	第21回	4 名詞の変化	第17課	語形変化、分類、独立形	第22回		第17課	合成形、形容詞（2）	第23回		第18課	名詞の変化（第一類）	第24回		第18課	不規則変化名詞	第25回		第19課	名詞の変化（第二類）、副詞と形成接辞、所有	第26回		第20課	名詞の変化（第三、第四、第五類）、名詞形成と接辞	第27回	5 代名詞語尾	第21課	人称代名詞語尾（2）Ⅰ：名詞の人称代名詞語尾	第28回		第21課	Ⅱ：動詞の人称代名詞語尾	第29回	全体復習			第30回	総まとめ		
第1回	序 論	ヒブル語とは	文字（Alphabet）																																																																																																																												
第2回	1 読み方	第1課	字母 写字練習																																																																																																																												
第3回		第2課	母音記号																																																																																																																												
第4回		第3課	音節と Shewa																																																																																																																												
第5回		第4課	母音文字と Mappiq																																																																																																																												
第6回		第5課・第6課	Dagesh と Rafe、母音の分類と変化																																																																																																																												
第7回		第7課	喉音																																																																																																																												
第8回		第8課	アクセント等諸記号、Ketib・Qere																																																																																																																												
第9回	2 品 詞	第9課	定冠詞、形容詞（1）																																																																																																																												
第10回		第9課	接続詞																																																																																																																												
第11回		第10課	代名詞、関係代名詞（1）、疑問詞																																																																																																																												
第12回		第11課	前置詞、目的辞																																																																																																																												
第13回		第11課	人称代名詞語尾（1）																																																																																																																												
第14回	3 動 詞（Ⅰ）	--強動詞 Qal--																																																																																																																													
		第12課	動詞：完了態																																																																																																																												
第15回		第13課	動詞：未完了態																																																																																																																												
第16回		第14課	願望形																																																																																																																												
第17回		第14課	継続 Waw および従属 Waw																																																																																																																												
第18回		第15課	命令法、不定詞																																																																																																																												
第19回		第15課	分詞																																																																																																																												
第20回		第16課	状態動詞																																																																																																																												
第21回	4 名詞の変化	第17課	語形変化、分類、独立形																																																																																																																												
第22回		第17課	合成形、形容詞（2）																																																																																																																												
第23回		第18課	名詞の変化（第一類）																																																																																																																												
第24回		第18課	不規則変化名詞																																																																																																																												
第25回		第19課	名詞の変化（第二類）、副詞と形成接辞、所有																																																																																																																												
第26回		第20課	名詞の変化（第三、第四、第五類）、名詞形成と接辞																																																																																																																												
第27回	5 代名詞語尾	第21課	人称代名詞語尾（2）Ⅰ：名詞の人称代名詞語尾																																																																																																																												
第28回		第21課	Ⅱ：動詞の人称代名詞語尾																																																																																																																												
第29回	全体復習																																																																																																																														
第30回	総まとめ																																																																																																																														
＜準備学習等の指示＞ 予習・復習を欠かさない。練習問題をこなすこと。																																																																																																																															
＜テキスト＞ 「ヒブル語入門」〔改訂増補版〕左近義慈／本間敏雄																																																																																																																															
＜参考書・参考資料等＞ J. Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford)																																																																																																																															
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業参加度、小テスト、期末試験によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③の内容を重視する。																																																																																																																															

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係		
ヒブル語Ⅱ	宮 寄 薫	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位	＜登録条件＞ 通年の登録が望ましい。 後期登録は、前期単位取得者とする。	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
＜授業のテーマ＞ 聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。		
＜到達目標＞ ヒブル語の単語を分析し、文章が理解できる。		
＜授業の概要＞ テキストによる基礎文法の説明、練習問題、小テスト。		
＜履修条件＞ 前期から継続して履修すること。旧約専攻者は必須。		
＜授業計画＞ 前期より継続 第1回 6 動 詞（Ⅱ）第22課 動詞の語幹、基本語幹：Qal、Nifal 第2回 第23課 強意語幹：Piel 第3回 第23課 強意語幹：Pual、Hithpael 第4回 第24課 使役語幹：Hifil 第5回 第24課 使役語幹：Hofal 第6回 7 動 詞（Ⅲ）第25課 不規則動詞：Pe 喉音動詞 第7回 第26課 Ayin 喉音、Pe 喉音動詞、関係代名詞（2） 第8回 第27課 二重 Ayin 動詞、二根字動詞 第9回 8 数 詞 第28課 基数と序数、年齢表記 第10回 9 動 詞（Ⅳ）第29課 弱 Pe 動詞（1）：Pe Alef 動詞 第11回 第29課 " : Pe Nun 動詞 第12回 第30課 弱 Pe 動詞（2）：Pe Waw、Pe Yod 動詞 第13回 第31課 弱 Lamed 動詞：Lamed Alef、Lamed He 動詞 第14回 第32課 二重弱動詞 第15回 10 構 文 第33課 構文論 定期試験		
＜準備学習等の指示＞ 予習・復習を欠かさない。練習問題をこなすこと。		
＜テキスト＞ 「ヒブル語入門」[改訂増補版] 左近義慈／本間敏雄		
＜参考書・参考資料等＞ J. Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford)		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業参加度、小テスト、期末試験によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③の内容を重視する。		

専門教育科目選択・聖書神学関係		
イスラエル古代史	田中 光	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 特になし	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 旧約聖書に反映されたイスラエルの民の歴史の探究		
<到達目標> 上記の歴史を概観的に学ぶことで、旧約聖書の背景となっている歴史を知識として身につけること。		
<授業の概要> 担当教員が作成したレジュメに基づいて授業を行う。		
<履修条件> 日本基督教団の補教師試験を受験する者で、聖書通論2旧約時代史を履修していない者は履修すること。		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 聖書時代以前の古代オリエント世界とパレスチナ地方の地理 第3回 カナン定着以前の時代：族長時代 第4回 出エジプト 第5回 カナン定着 第6回 統一王国の成立と分裂 第7回 北王国の歴史：イエフ王朝まで 第8回 北王国の滅亡と南ユダ王国の歴史① 第9回 南ユダ王国の歴史② 第10回 バビロン捕囚とペルシャ時代① 第11回 バビロン捕囚とペルシャ時代②：預言者から見た捕囚 第12回 ヘレニズム時代 第13回 ローマ時代 第14回 死海写本について 第15回 知識の確認 定期試験		
<準備学習等の指示> 学生はテキスト（以下参照）を事前に読んだ上で授業に臨むこと。		
<テキスト> 基本的には、樋口進『よくわかる旧約聖書の歴史』教団出版局、を定めるが、より詳細で広範な学びを志す学生には、以下の二冊をお勧めする。マルティン・メツガー（山我哲雄訳）『古代イスラエル史』新地書房、P.K.マッカーター・ジュニア他（池田裕、有馬七郎訳）『最新・古代イスラエル史』ミルトス。		
<参考書・参考資料等> テキストの他に参考にすべき書物は適宜レジュメの中で指示する。ここでは、旧約の歴史を学ぶ際に手元にあると役に立つバイブル・アトラスのみ、幾つかのものを紹介しておく。バリー・J・バイツェル（船本弘毅監修、山崎正浩他訳）『地図と聖書で読む聖書大百科』。他に、地図を用いた発表のために以下の書物を用いても良い。Adrian Curtis, <i>Oxford Bible Atlas</i> , Oxford University Press; Paul H. Wright, <i>Rose Then and Now Bible Atlas</i> , Rose Publishing.		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業に対する貢献、定期試験によって評価を行う。尚、評価は共通評価指標（1）に基づく。		

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係			
新約原典講読Ⅰ		三永 旨従	<担当形態> 単独
前期・２単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 「マルコ」「マタイ」「ルカ」各福音書独自の神学的メッセージをギリシャ語原文に則して明らかにしていきます。			
<到達目標> ギリシャ語Ⅰ、Ⅱで学んだポイントを復習しつつ、原典で聖書を読む重要性を理解します。			
<授業の概要> 編集史批判の実例と重要性を明らかにして文献を読んだ後、各福音書の特徴的用語、用例を重視しつつ、各福音書理解のポイントとなる箇所をていねいに読んでいきます。			
<履修条件> ギリシャ語１、２を修得済みの者。（聴講生も歓迎します。）			
<授業計画> 第１回 辞書、コンコーダンスの用法について 第２回 "The Stilling of The Storm in Matthew" 講読 P.52-57 第３回 「嵐を鎮める」読解（マルコ） 第４回 「嵐を鎮める」読解（マタイ） 第５回 「嵐を鎮める」読解（ルカ） 第６回 ゲッセマネの祈り（マルコ） 第７回 ゲッセマネの祈り（マタイ） 第８回 ゲッセマネの祈り（ルカ） 第９回 「バルテマイの癒し」読解 第１０回 「バルテマイの癒し」読解とマルコの歴史的状況 第１１回 「バルテマイの癒し」読解とマルコの神学 第１２回 「十字架」読解（マルコ） 第１３回 「十字架」読解（マタイ） 第１４回 「十字架」読解（ルカ） 第１５回 「ガリラヤ宣教」読解（ルカ）			
<準備学習等の指示> 翻訳に依存することなく、予習として各箇所の重要な用語について辞書、コンコーダンス等を用い、原文の持つ意味を正確に読んでおいてください。			
<テキスト> ・"The Stilling of The Storm in Matthew" G. Bornkamn in Tradition & Interpretation in Matthew, G. Bornkamn, G. Barth, H.J. Held (1960) ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27版）に基づいた対観福音書（授業にて紹介します。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧めます。）			
<参考書・参考資料等> 原典・新共同訳、辞書・コンコーダンス以外に用いるものは、基本的にありません。			
<学生に対する評価（方法・基準）> テキストを正確に読むための手続きを身に付け又、その重要性を理解しているかが、評価の対象となります。評価にあたっては「共通評価指標（１）」によって評価します。			

専門教育科目選択・聖書神学関係			
新約原典講読Ⅱ		三永 旨従	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 前期に引き続き、「マルコ」「マタイ」「ルカ」各福音書独自の神学的メッセージをギリシャ語原文に則して明らかにしていきます。			
＜到達目標＞ ギリシャ語Ⅰ、Ⅱで学んだポイントを復習しつつ、原典で聖書を読む重要性を確認します。			
＜授業の概要＞ 編集史批判の実例と重要性を明らかにして文献を読んだ後、各福音書の特徴的用語、用例を重視しつつ、各福音書理解のポイントとなる箇所をていねいに読んでいきます。			
＜履修条件＞ ギリシャ語Ⅰ、Ⅱを修得済みの者。（聴講生も歓迎します。）			
＜授業計画＞ 第1回 「盲人の癒し」読解（マルコ） 第2回 「盲人の癒し」読解（マタイ） 第3回 「盲人の癒し」読解（ルカ） 第4回 「悪霊追放」読解（マルコ） 第5回 「悪霊追放」読解（マタイ） 第6回 「悪霊追放」読解（ルカ） 第7回 「山上の変貌」読解（マルコ） 第8回 「山上の変貌」読解（マタイ） 第9回 「山上の変貌」読解（ルカ） 第10回 「エルサレム入城」読解（マルコ） 第11回 「エルサレム入城」読解（マタイ） 第12回 「エルサレム入城」読解（ルカ） 第13回 「復活の言及箇所」読解（マルコ） 第14回 「復活顕現」読解（マタイ） 第15回 「復活顕現」読解（ルカ）			
＜準備学習等の指示＞ 翻訳に依存することなく、予習として各箇所の重要な用語について辞書、コンコーダンス等を用い、原文の持つ意味を正確に読んでおいてください。			
＜テキスト＞ ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27版）に基づいた対観福音書（授業にて紹介します。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧めます。）			
＜参考書・参考資料等＞ 原典・新共同訳、辞書・コンコーダンス以外に用いるものは、基本的にありません。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ テキストを正確に読むための手続きを身に付け又、その重要性を理解しているかが、評価の対象となります。評価にあたっては「共通評価指標（Ⅰ）」によって評価します。			

専門教育科目選択・歴史神学関係		
宗教史Ⅱ	小室 尚子	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教） <施行規則に定める科目区分又は事項等> 教科に関する専門的事項（宗教史）	
<授業のテーマ> 日本人の世界観を形成する諸宗教について学ぶことにより、日本における福音宣教の課題を探る。		
<到達目標> ①日本における諸宗教の歴史、内容、日本的展開について知る。②日本という異教社会の中で福音を伝える方法を考える。		
<授業の概要> 日本における諸宗教の歴史的・日本的展開、およびその内容・形態の概説と、キリスト教伝来後の、キリスト教とそれらの宗教との関係を学ぶ。また歴史的に培われた日本人の伝統的思想に基づいた現代日本人の宗教観を分析・考察し、福音宣教における諸問題の克服への緒を探る。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 序論：キリスト教受容における（日本人の）問題点 第2回 宗教と世界観の関係／キリスト教の世界観 第3回 日本人の世界観 第4回 日本における宗教史概説 第5回 日本人のカミ観念の形成 第6回 仏教伝来と「神道」 第7回 「習合」という形態 第8回 日本仏教の形成とその特質 第9回 中国の宗教の日本的展開 第10回 民衆の宗教と「日本宗教」 第11回 日本におけるキリスト教史概説 第12回 日本人の精神的伝統とキリスト教 第13回 日本におけるキリスト教土着化の問題：宣教における諸問題（1）丸山正男、武田清子の分析から 第14回 日本におけるキリスト教土着化の問題：宣教における諸問題（2）三つの問題点（「神」理解、「贖罪」理解、「教会」理解） 第15回 まとめ：日本の教会の課題と使命		
<準備学習等の指示> 提示した参考文献や配布資料は事前に目を通しておくこと。		
<テキスト> 担当者がプリント教材・資料を用意する。		
<参考書・参考資料等> 初回授業において参考文献表を配布する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート（60%）と、授業への参加意識（40%）によって評価する。レポートは、「共通評価指標（1）」によって評価する。		

専門教育科目選択・歴史神学関係			
教理史Ⅰ		本城 仰太	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 特になし	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ 教会史Ⅰ～Ⅳで十分に触れられなかった事柄を中心に、教理史の観点から学ぶ。			
＜到達目標＞ 教理史にかかわる主要な主題を把握し、神学的に論じられるようになる。			
＜授業の概要＞ 教理史の各主題を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義し、ディスカッションを行う。			
＜履修条件＞ 教会史ⅠとⅡを履修済、ⅢとⅣを履修済もしくは履修中であることが望ましい。			
＜授業計画＞ 第1回 教理とは？ 第2回 聖書と伝統 第3回 使徒信条 第4回 キリスト論論争とニカイア信条 第5回 三位一体論 第6回 ドナティスト論争 第7回 ペラギウス論争 第8回 キリスト論論争とカルケドン信条 第9回 中世のサクラメント論と贖罪論 第10回 ルターの十字架の神学と信仰義認論 第11回 改革者たちのサクラメント論 第12回 改革者たちの教会論 第13回 改革者たちの政治神学 第14回 アルミニウス論争 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 講義内容を＜参考書＞などの史料によって補いながら、自分で整理していくこと。			
＜テキスト＞ 特に定めない。毎回プリントを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ マクグラス『キリスト教思想史入門－歴史神学概説』（キリスト新聞社）、棚村重行『現代人のための教理史ガイド』（教文館）、など。（その他のものは授業で紹介する）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 講義の出席を前提とし、授業への参加態度、レポートによって、共通評価指標（1）に基づいて総合的に評価する。			

専門教育科目選択・実践神学関係		
教会実習Ⅰ	ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位	＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
＜授業のテーマ＞ セミオティクスとパストラル・ケア		
＜到達目標＞ 象徴学；記号論を通して、学生は自らのアイデンティティをより理解し、又、シンボルを理解することによって、キリスト者を牧会的に助けることができるように成長する。		
＜授業の概要＞ 宗教改革以前、キリスト者は宗教的シンボルを理解し、そのシンボルを通して神との関係や、教会との関係を知ろうとした。しかし、500年前から、プロテスタントの信者は偶像礼拝を避けるため、シンボルから離れてきた。対照的に、正教会とカトリック教会はシンボルを持っているために、自らの信仰との関係がより理解されている側面がある。牧会的な立場から考えると、プロテスタントの信者は神を、愛してくださる親として理解することが難しく、又、イエスを友として理解することも難しくなっていると言える。愛に基づく神や教会との関係は学問的、神学的説明に捉えられる傾向がある。シンボルの健全な理解により、神を父として、又、教会を母として理解することが可能になり、又、堅固な神学的土台の上に、セミオティクス（象徴学；記号論）を通して自らの信仰を理解しようとするキリスト者に魂の牧会ケアを与えることを学びとする。		
＜履修条件＞ 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性がある。		
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 現代的シンボル 第3回 世俗的シンボル 第4回 プロテスタントのシンボル 第5回 ユダヤ教のシンボル 第6回 正教会のアイコン 第7回 カトリックのシンボル 第8回 動物のシンボルの役割 第9回 キリスト者のファッション 第10回 キリスト者の生活 第11回 学生プレゼンテーション 第12回 学生プレゼンテーション 第13回 学生プレゼンテーション 第14回 学生プレゼンテーション 第15回 最終評価		
＜準備学習等の指示＞ 周りの環境のシンボルを熟考する。		
＜テキスト＞ 講義をしながら、様々な参考書やインターネットからの参考資料を紹介する。		
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて授業で紹介する。		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提として、ディスカッションの参加、プレゼンテーション、最終評価 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。「共通評価指標（1）」によって評価する。		

専門教育科目選択・実践神学関係			
教会実習Ⅱ		ウェイン・ジャンセン	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ セミオティクスとパストラル・ケア			
＜到達目標＞ 象徴学；記号論を通して、学生は自らのアイデンティティをより理解し、又、シンボルを理解することによって、キリスト者を牧会的に助けることができるように成長する。			
＜授業の概要＞ 宗教改革以前、キリスト者は宗教的シンボルを理解し、そのシンボルを通して神との関係や、教会との関係を知ろうとした。しかし、500年前から、プロテスタントの信者は偶像礼拝を避けるため、シンボルから離れてきた。対照的に、正教会とカトリック教会はシンボルを持っているために、自らの信仰との関係がより理解されている側面がある。牧会的な立場から考えると、プロテスタントの信者は神を、愛してくださる親として理解することが難しく、又、イエスを友として理解することも難しくなっていると言える。愛に基づく神や教会との関係は学問的、神学的説明に捉えられる傾向がある。シンボルの健全な理解により、神を父として、又、教会を母として理解することが可能になり、又、堅固な神学的土台の上に、セミオティクス（象徴学；記号論）を通して自らの信仰を理解しようとするキリスト者に魂の牧会ケアを与えることを学びとする。			
＜履修条件＞ 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性がある。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教建築 第3回 教会の調度品 第4回 聖職者の礼服、法衣、祭服 第5回 聖書翻訳 第6回 教会音楽と讃美歌 第7回 バプテスマ（洗礼）の儀式 第8回 ユーカリスト（聖餐）の儀式 第9回 教派 第10回 諸宗教のシンボルの比較 第11回 学生プレゼンテーション 第12回 学生プレゼンテーション 第13回 学生プレゼンテーション 第14回 学生プレゼンテーション 第15回 最終評価			
＜準備学習等の指示＞ 周りの環境のシンボルを熟考する。			
＜テキスト＞ 講義をしながら、様々な参考書やインターネットからの参考資料を紹介する。			
＜参考書・参考資料等＞ 必要に応じて授業で紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提として、ディスカッションの参加、プレゼンテーション、最終評価 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。「共通評価指標（1）」によって評価する。			

専門教育科目選択・実践神学関係		
牧会心理学 a	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 牧会における心理学的課題を学ぶこと。牧会者としてのアイデンティティを養成すること。		
<到達目標> 牧会で直面する様々なケースに正しく対応できるようになる。		
<授業の概要> 牧会的／心理学的課題について講義をし、逐語記録やケース・スタディーで実践的に学ぶ。		
<履修条件> 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性がある。		
<授業計画> 第1回 牧会カウンセリングの歴史と定義 第2回 宗教と魂 第3回 人格関係の重要性 第4回 傾聴について 第5回 癒し 第6回 認識と洞察 第7回 受容 第8回 結婚と家庭におけるカウンセリング 第9回 逐語記録グループ・スタディー 第10回 逐語記録グループ・スタディー 第11回 逐語記録グループ・スタディー 第12回 ケース・スタディー 第13回 ケース・スタディー 第14回 ケース・スタディー 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> インターネットでカウンセリングに関するビデオを見る。		
<テキスト> ハワード・ストーム『臨死—そして与えられた二度目の人生』 リーハイバレー・ジャパニーズ・ミニストリーズ (2015) 出版社から直接インターネットで購入すること。		
<参考書・参考資料等> “I am a Church Member”, <i>Thom S. Rainer</i> , (B&H Books, 2013).		
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提として、書評、ディスカッションへの参加 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。「共通評価指標（1）」によって評価する。		

専門教育科目選択・実践神学関係			
牧会心理学b		ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 牧会における心理学的課題を学ぶこと。牧会者としてのアイデンティティを養成すること。			
<到達目標> ロールプレーを通して、クライアントや牧師の様々な立場から考えることができるようになる。			
<授業の概要> 牧会的／心理学的課題について講義をし、ロールプレーで実践的に学ぶ。			
<履修条件> 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性がある。			
<授業計画>			
学習テーマ			
第1回	オリエンテーション		
第2回	ロールプレー	(一人対一人)	恋愛
第3回	ロールプレー	(一人対一人)	DV
第4回	ロールプレー	(一人対一人)	ひきこもり問題
第5回	ロールプレー	(一人対一人)	自らを赦す事
第6回	ロールプレー	(一人対一人)	相手を赦す事
第7回	ロールプレー	(一人対一人)	職場でのトラブル
第8回	ロールプレー	(一人対一人)	病名告知
第9回	ロールプレー	(一人対一人)	経済的悩み
第10回	ロールプレー	(一人対一人)	自殺
第11回	ロールプレー	(一人対一人)	霊的に乾いている
第12回	ロールプレー	(一人対二人)	結婚相談
第13回	ロールプレー	(一人対二人)	非行少年[少女]問題
第14回	ロールプレー	(一人対二人)	共に暮らしている親との人間関係
第15回	まとめ		
<準備学習等の指示> カウンセリングを受ける事の様子を考える。			
<テキスト> ハワード・ストーム『臨死—そして与えられた二度目の人生』リーハイバレー・ジャパニーズ・ミニストリーズ(2015) 出版社から直接インターネットで購入すること。			
<参考書・参考資料等> “I am a Church Member”, Thom S. Rainer, (B&H Books, 2013).			
<学生に対する評価(方法・基準)> 出席を前提として、ロールプレーへの参加。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。「共通評価指標(1)」によって評価する。			

専門教育科目選択・実践神学関係		
臨床牧会教育 a	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。		
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にすること。		
<授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、实际的にカウンセリングを学ぶ。		
<履修条件> 講義は登録者2人以上から6人未満で成立する。		
<授業計画> ＊オリエンテーション ＊院長による精神病理の講義。病院見学。 ＊病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 ＊面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 ＊各学生によるケース提出とディスカッションを行う。 <		

専門教育科目選択・実践神学関係		
臨床牧会教育 b	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。		
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にすること。		
<授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、实际的にカウンセリングを学ぶ。		
<履修条件> 臨床牧会教育 a を終えていること。 講義は登録者 2 人以上から 6 人未満で成立する。		
<授業計画> * 各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。 * 面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。 * 各自のケース・リポートをし、ケース・スタディをする。 第 1 回から第 15 回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。		
<準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。		
<テキスト> 必要に応じて配る。		
<参考書・参考資料等> 聖書		
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末面談によって評価する。「共通評価指標（1）」によって評価する。		

専門教育科目選択・実践神学関係			
説教学入門 a		小泉 健	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 聖書から聞くこと、聞いたことを語ることを、体験的に学ぶ。			
<到達目標> 自分で説教を準備するための土台を身につけること。			
<授業の概要> 説教準備の各段階を意識しつつ、学生各自が発表・実演を行い、それを素材として討論を重ねながら学ぶ。			
<履修条件> ギリシア語初級履修済み、もしくは履修中であること。			
<授業計画> 第1回 「説教とは何か」を考え始める 第2回 「わたし」について語る 第3回 「わたしがいちばん伝えたいこと」 第4回 「わたし」と「聖書」と「福音」 第5回 「わたし」と「あなた」と「主イエス」 第6回 聖書を読む、朗読する 第7回 聖書朗読と説教 第8回 聖書に聞く、黙想する 第9回 聖書を読む、釈義する 第10回 聖書を語り直す 第11回 さらに黙想する（その1）説教と教義学 第12回 さらに黙想する（その2）説教と牧会 第13回 説教は何をしているか 第14回 説教を読む 第15回 言葉が語る、言語以外のものが語る			
<準備学習等の指示> 説教学を学ぶ者として、また将来の説教者としての「日々聖書を読む生活」を身に着ける。 説教準備の過程をたどっていくので、自分で実際に一つずつ行っていく。			
<テキスト> 聖書を持参すること。その他は、必要に応じて教室でプリントを配布する。			
<参考書・参考資料等> 加藤常昭『説教への道——牧師と信徒のための説教学』日本キリスト教団出版局 平野克己『説教を知るキーワード』日本キリスト教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業での発表、発言とレポート（説教または説教批評）によって評価する。共通評価指標（1）の②、③、⑤を重視する。			

専門教育科目選択・専攻間共同			
アジア伝道論演習 a		朴 憲郁	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 東北・東南アジア・キリスト教伝道の歴史と現実			
<到達目標> 東北・東南アジア諸国におけるキリスト教の意義と役割を基本的に理解することを目指す。			
<授業の概要> 伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、一国に絞らず、むしろテキストに沿って、東北および東南のアジア諸国におけるキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に、前・後期に亘って概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方を自覚・反省する素材となることを願う。			
<履修条件> 特にない			
<授業計画> 1. 伝道論（宣教学）とは何か（講義） 2. 伝道論の歴史的経緯、ニュービギンの宣教学（講義） （以下、3から14まで発表と討議、コメント） 3. 景教の東方伝道、韓国のキリスト教（初期カトリック史） 4. 韓国のキリスト教（プロテスタント史） 5. 中国のキリスト教（初期カトリック史） 6. 中国のキリスト教（プロテスタント史） 7. 台湾のキリスト教（16世紀～18世紀） 8. 台湾のキリスト教（19世紀～現代） 9. 香港のキリスト教 10. フィリピンのキリスト教 11. タイのキリスト教 12. マレーシアのキリスト教 13. ミャンマー、カンボジアのキリスト教 14. ベトナム、ラオスのキリスト教 15. 総括			
<準備学習等の指示> 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。			
<テキスト> 『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991年。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。			
<参考書・参考資料等> 1. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989三版、2. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985年初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、学期末レポート（4000字以上）などによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。共通評価指標（1）の①～⑤を重視する。			

専門教育科目選択・専攻間共同			
アジア伝道論演習 b		朴 憲郁	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> 南方アジア・キリスト教伝道の歴史と現実			
<到達目標> 南方アジア諸国におけるキリスト教の意義と役割を基本的に理解することを目指す。			
<授業の概要> アジアのキリスト教について解説し、その特質を把握した後、前期に続いて南方広域アジア諸国のキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方をも自覚的に反省する素材となることを願う。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 1. アジアのキリスト教の特色と課題 2. アジアのキリスト教における伝道論 (以下、3～14まで発表と討議、コメント) 3. シンガポールのキリスト教 4. インドネシアのキリスト教（歴史と文化、カトリック宣教） 5. インドネシアのキリスト教（プロテスタント宣教） 6. インドのキリスト教（歴史と文化、カトリック宣教） 7. インドのキリスト教（プロテスタント宣教） 8. スリンランカのキリスト教 9. バングラディシュのキリスト教 10. パキスタン・アフガニスタンのキリスト教 11. ブータン・ネパールのキリスト教 12. チベット・シッキムのキリスト教 13. オーストラリアのキリスト教 14. ニュージーランドのキリスト教 15. 東南アジアのキリスト教を回顧して（講義）			
<準備学習等の指示> 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。			
<テキスト> 『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991年。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。			
<参考書・参考資料等> 1. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989 三版、2. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985 年 初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、学期末レポート（4000 字以上）などによって評価する。 出席が 2 / 3 に満たない者は評価の対象としない。共通評価指標（1）の①～⑤を重視する。			

専門教育科目選択・古典語			
ラテン語Ⅰ		高村 敏浩	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
<授業のテーマ> ラテン語の基礎を習得する。			
<到達目標> ラテン語文法の基礎を学び、教会や神学で用いるラテン語を辞書などを用いながら読めるようになる。			
<授業の概要> Robert Schoenstene 著『Reading Church Latin』（Hillenbrand Books）をテキストに、毎回1章ずつを基本に進めて行く。授業のためには予習と復習が必須。			
<履修条件> インターネット環境があること。それ以外は、特になし。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション：予習・復習の進め方についての説明など、1章の学び 第2回 1章の学び 第3回 2章の学び 第4回 3章の学び 第5回 4章の学び 第6回 5章の学び 第7回 6章の学び 第8回 7章の学び 第9回 8章の学び 第10回 9章の学び 第11回 10章の学び 第12回 11章の学び 第13回 12章の学び 第14回 13章の学び 第15回 前期のまとめ 定期試験			
<準備学習等の指示> 授業ごとに、その授業で取り上げる文法内容の予習と演習問題を含む学んだことの復習、その他の宿題を行うこと。			
<テキスト> Robert Schoenstene 著『Reading Church Latin: Techniques and Commentary for Comprehension』（Hillenbrand Books）（図書館にリザーブブックとする予定。購入する必要はないが、購入してもよい）			
<参考書・参考資料等> 1)、2) は購入の必要はない。 1) 中山恒夫著『古典ラテン語文典』（白水社） 2) Caroli Francisci Lhomond 著『Epitome Historiae Sacrae: Brevi Christi Vitae Narratione Addita (Lingua Latina)』（Focus、2009年） ＊辞書は「羅和辞典」もあるが、比較的高価なので、「羅英辞典」をアマゾンなどで購入してもよい。また、ホアン・カトレット編『教会の羅和辞典』（新世社）も可。「羅英辞典」は、ペーパーバックでは1000円程度からある。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 試験（50％）および予習と復習および授業への取り組み（50％）。 評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～③、⑤の内容を重視する。			

専門教育科目選択・古典語			
ラテン語Ⅱ		高村 敏浩	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	該当せず		
＜授業のテーマ＞ ラテン語の基礎を習得する。			
＜到達目標＞ ラテン語文法の基礎を学び、教会や神学で用いるラテン語を辞書などを用いながら読めるようになる。			
＜授業の概要＞ Robert Schoenstene 著『Reading Church Latin』（Hillenbrand Books）をテキストに、毎回１章ずつを基本に進めて行く。後半では、Epitome Historiae Sacrae からの抜粋を読む。授業のためには予習と復習が必須。			
＜履修条件＞ インターネット環境があること。ラテン語Ⅰを受講していること。			
＜授業計画＞ 第１回 14 章の学び 第２回 15 章の学び 第３回 16 章の学び 第４回 17 章の学び 第５回 18 章の学び 第６回 19 章の学び 第７回 20 章の学び 第８回 21 章の学び 第９回 22 章の学び 第１０回 23 章の学び 第１１回 24 章の学び 第１２回 25 章の学び 第１３回 Epitome Historiae Sacrae からの抜粋を読む 第１４回 Epitome Historiae Sacrae からの抜粋を読む 第１５回 後期のまとめ 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 授業ごとに、その授業で取り上げる文法内容の予習と演習問題を含む学んだことの復習、その他の宿題を行うこと。			
＜テキスト＞ Robert Schoenstene 著『Reading Church Latin: Techniques and Commentary for Comprehension』（Hillenbrand Books）（図書館にリザーブブックとする予定。購入する必要はないが、購入してもよい。）			
＜参考書・参考資料等＞ 1)、2) は購入の必要はない。 1) 中山恒夫著『古典ラテン語文典』（白水社） 2) Caroli Francisci Lhomond 著『Epitome Historiae Sacrae: Brevi Christi Vitae Narratione Addita (Lingua Latina)』（Focus、2009 年） ＊辞書は「羅和辞典」もあるが、比較的高価なので、「羅英辞典」をアマゾンなどで購入してもよい。また、ホアン・カトレット編『教会の羅和辞典』（新世社）も可。「羅英辞典」は、ペーパーバックでは 1000 円程度からある。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 試験（50％）および予習と復習および授業への取り組み（50％）。 評価にあたっては、共通評価指標（１）の①～③、⑤の内容を重視する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
宗教科教授法 A a		高橋 貞二郎	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 通年で登録すること	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）、選択科目（高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
＜授業のテーマ＞ 日本のキリスト教学校の歴史と現状を学び、宗教科（聖書科）の役割を知る。また、指導方法を学ぶ。			
＜到達目標＞ 日本のキリスト教学校の歴史と現状の全体像を把握できるようになること。それによって宗教科の役割と意義を理解する。さらに授業を展開できるよう指導案を作成できるようになる。			
＜授業の概要＞ 宗教科（聖書科）教師となるための準備及び宗教科免許取得のためにこの授業が設けられている。そこで日本におけるキリスト教学校の歴史と現状を学ぶと共に、学校の教育理念の責任ある担い手として、指導的役割を果たす宗教科教師の役割と意義とを学ぶ。また、カリキュラムや指導案の作成についても学ぶ。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 1. オリエンテーション 2. プロテスタントの海外伝道 3. 幕末における学校教育事情 4. 宣教師来日とキリスト教学校の誕生 5. キリスト教学校教育の基礎理念 6. キリスト教学校教育理念の実践 7. 近代化に対するキリスト教の貢献 8. 明治以降の政府の宗教政策とキリスト教 9. キリスト教学校教育の意義 10. キリスト教学校教育の現実 11. 聖書科の授業が目指すもの 12. 聖書科のカリキュラム 13. 聖書科指導案の作成と授業の展開 14. 聖書科授業の総合的反省 15. 聖書科授業の展望。評価			
＜準備学習等の指示＞ 授業の中で随時指示する。			
＜テキスト＞ 特に指定はしない。			
＜参考書・参考資料等＞ 『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳』文部科学省、最新版。 『キリスト教学校の教育 中・高教師のために』、キリスト教学校教育同盟、1991 年。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ レポート、小課題、授業時の参加姿勢などで評価する。出席 2／3 を満たすこと。 レポートは「共通評価指標(1)」によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（1）①～⑤の内容を重視する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
宗教科教授法 A b		高橋 貞二郎	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 通年で登録すること	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）、選択科目（高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
＜授業のテーマ＞ 宗教科（聖書科）カリキュラムや指導案を作成し、模擬授業によって授業の展開力を養うことを目指す。			
＜到達目標＞ 宗教科（聖書科）の指導案を子どもの認識、思考、学力の実態を視野に入れて作成し、授業を展開することができるようになる。			
＜授業の概要＞ 教案の作り方や教材研究、聖書の用い方などについて講義をした後、指定テキストと聖書に基づいて学生自らが模擬授業をする。その後、共同討論をしつつ、その模擬授業を評価する。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 1. 聖書科授業の課題 2. 聖書科授業の教材研究 3. 学生による模擬授業とその共同反省(1) 礼拝とは 4. 学生による模擬授業とその共同反省(2) 祈りとは 5. 学生による模擬授業とその共同反省(3) 「主の祈り」と呼びかけについて 6. 学生による模擬授業とその共同反省(4) 「主の祈り」の第一、第二、第三の祈り 7. 学生による模擬授業とその共同反省(5) 「主の祈り」の第四、第五、第六、賛美の祈り 8. 学生による模擬授業とその共同反省(6) 賛美歌とは 9. 学生による模擬授業とその共同反省(7) 聖書とは 10. 学生による模擬授業とその共同反省(8) 旧約聖書について 11. 学生による模擬授業とその共同反省(9) 新約聖書について 12. 学生による模擬授業とその共同反省(10) 教会とは 13. 学生による模擬授業とその共同反省(11) 教会の祝日について ― クリスマス ― 14. 学生による模擬授業とその共同反省(12) 教会の祝日について ― イースター ― 15. 聖書科授業の総合的考察。評価 模擬授業においては、毎回一名の学生が 50 分の授業を行う。 その後、行われた授業を素材として、全体で意見を交換し反省を行う。			
＜準備学習等の指示＞ 指示された各自の担当箇所の指導教案を作成し、授業展開の準備を前もってする。			
＜テキスト＞ 模擬授業に使用する教材を予め紹介する。			
＜参考書・参考資料等＞ 『キリスト教入門 キリストへの招き』、キリスト教学校教育同盟編、1993 年			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業中の模擬授業発表および授業への参加で評価する。（受講者が多くて発表できない場合は、授業の展開例のレポートで評価する。）出席が2／3以上であること。模擬授業発表は「共通評価指標(1)」によって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標（1）①～⑤の内容を重視する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教育基礎論		大川 洋	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育の基礎的理解に関する科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
＜授業のテーマ＞ 教育の理念、教育に関する歴史、思想について理解し、基礎的な知識を身につける。			
＜到達目標＞ 教育学の基本的概念を身につける。教育の歴史を理解する。教育思想史を理解する。現代における教育課題を理解する。			
＜授業の概要＞ 「学ぶとは何か」という問いから教育の本質と目的を考察し、戦後日本における学校教育の歴史と学力観の変遷を概観する。その後、西洋の教育思想史をたどり、世界の教育改革の動向と教育課題を考察する。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション「学ぶとは何か」 第2回 学校教育の歴史と学力観の変遷 第3回 古代ギリシャの教育 第4回 古代ローマと中世ヨーロッパの教育 第5回 ルネサンス・宗教改革と教育 第6回 コメニウスの教育論 第7回 ルソーの教育論 第8回 ペスタロッチの教育論 第9回 フレーベルの教育論 第10回 フランスにおける近代公教育制度と教育論 第11回 イギリスにおける近代公教育制度と教育論 第12回 アメリカにおける教育の歴史とブッシュネルの『キリスト教養育』 第13回 新教育運動と教育思想 第14回 20世紀アメリカの教育改革 第15回 世界の教育改革の動向と教育課題 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 授業中に指示する。			
＜テキスト＞ レジュメを配付する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業中に紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 小テストと学期末のレポートにより評価する。レポートは、「共通評価指標（1）」によって評価する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教職概論		朴 憲郁	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞ 特になし	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教育の基礎的理解に関する科目 ＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
＜授業のテーマ＞ 教職の役割と意義			
＜到達目標＞ 現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する			
＜授業の概要＞ 今日の学校教育の課題の一つは、教師の資質と像をめぐる問題であろう。どういう教育理念と教師像を目指すべきかという基本的な主題を問いつつ、教師に関する理解の歴史的変遷、組織、見識、教育課題などに分類して考察していく。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第１回 日本における教員養成と採用 第２回 教師の仕事－授業をつくる 第３回 学級づくりの教師 第４回 学校の管理・運営を担う教師－組織・カリキュラムのマネジメント 第５回 教員の資質能力 第６回 諸外国の教員養成 第７回 教育課程の編成と学習指導要領 第８回 道德教育の意義と指導 第９回 特別活動の意義と役割 第１０回 社会性の指導 第１１回 教員研修および職務遂行のための生涯学習 第１２回 教員の職務上の義務と身分保障の認識 第１３回 教職の専門性とキリスト教学校の教師像 第１４回 「チームとしての私立学校」と家庭、地域との関係 第１５回 教職員の指導体制の充実（専門能力スタッフの参画、地域との連携など）			
＜準備学習等の指示＞ 毎回の授業において、前半は指定テキストの分担箇所の学生発表と意見交換がなされ、後半は担当講師の講義をする。次週に扱うテキスト箇所を各自あらかじめ読んで理解しておき、意見を交し合う。			
＜テキスト＞ 南本長徳編著、『新しい教職概論』、ミネルヴァ書房、2016年。各自で入手すること			
＜参考書・参考資料等＞ １．佐藤学、『教師というアポリア＝反省的実践』、世織書房、1996年 ２．山崎・西村編著、『求められる教師像と教員養成』、ミネルヴァ書房、2005年 ３．日本教師教育学会 編、『教師とは』、学文社、2002年			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業時の発表、参加度、期末レポートなどによって評価する。 出席を２／３以上満たした者を評価の対象とする。共通評価指標（１）の①～⑤を重視する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教育制度論		長山 道	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校） <科目> 教育の基礎的理解に関する科目 <施行規則に定める科目区分又は事項等> 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 （学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<授業のテーマ> 教育に関する社会的、制度的、経営的事項について理解し、基礎的な知識を身につける。地域との連携、学校安全について、具体的な事例を踏まえて理解する。			
<到達目標> 教育社会学、教育制度、教育に関する経営的事項についての基本的概念を身につける。学校と地域の連携の意義やその方法を理解する。学校安全への対応の目的や方法を理解する。			
<授業の概要> 学校社会学的に見た教育、社会における教育、教育制度の原理と基盤、および学校経営をめぐる基本問題について解説する。			
<履修条件> 特になし。			
<授業計画> 第1回 学校と社会 第2回 子どもの生活と指導上の課題 第3回 教育政策 第4回 諸外国の教育事情1 ヨーロッパ、アメリカ 第5回 諸外国の教育事情2 アジア 第6回 公教育 第7回 教育法 第8回 教育行政 第9回 教育制度をめぐる課題 第10回 学校経営とは 第11回 学校における教育活動 第12回 学級経営 第13回 組織としての学校 第14回 学校と地域社会 第15回 学校の安全			
<準備学習等の指示> 講義中に指示する。			
<テキスト> レジュメを配布する。			
<参考書・参考資料等> 講義中に紹介する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と学期末のレポートにより評価する。共通評価指標（1）の①および④を重視する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
心理発達と教育		森 真弓	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	教育の基礎的理解に関する科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
＜授業のテーマ＞			
人生をライフステージごとに見つめ、教育者として把握しておきたい青年期までの発達課題と学習について学ぶ。教育者になるための心理的レジネスや自己対応スキルにつながることをも目的としている。			
＜到達目標＞			
学生は、人の発達段階における課題を整理し、教育現場における不適応・問題行動の背景にある心理を発達心理学・臨床心理学の視点から理解する力を身につける。学生は、学習に関する基礎的知識を身につけ、発達段階に応じた学習を支える指導についても基礎的な考え方を理解する。			
＜授業の概要＞			
心理発達基礎理論では、心理社会的発達や認知的発達について学ぶ。乳児期では精神病理にもふれる。幼児期については母子関係における分離個体化理論で幼児の心がどのように発達していくかを学び、土居健郎の甘え理論にもふれる。児童期の発達課題を学んだあとに、学習心理学関連の理論について学ぶ。第8回・第9回で学習についての代表的理論をおさえ、第10回以降は、思春期・青年期の発達課題を学びつつ、同時に、悩み多き怒涛の時代にいかにして主体的学習を確立していけばよいか、または若者の学習をどのようにリードしていけばよいかをライフイベントとからめながら学生と一緒に考えていく。			
学生からの質問を含む「レスポンスペーパー」や随時設定する「ディスカッション」等を通じて学習を進めていく。また、教育者自身の自己理解を深めるため、査定・ワークを2回に分けて実施する。			
＜履修条件＞			
特にない。			
＜授業計画＞			
第1回 心とは―――心を学ぶことの意義			
第2回 心理発達基礎理論(1)―――エリクソン 他			
第3回 心理発達基礎理論(2)―――フロイト、ピアジェ 他			
第4回 自分自身を知るⅠ―――投影法、その他			
第5回 乳児期―――クライン、精神病理・パーソナリティ障害 等			
第6回 幼児期―――マラー、甘え理論 等			
第7回 児童期―――児童期課題（勤勉性と劣等感 他）			
第8回 学習心理学関連Ⅰ―――記憶、動機づけ、思考と言語 等			
第9回 学習心理学関連Ⅱ―――集団づくり、社会的学習（バンデューラ）、教育評価（ブルーム）等			
第10回 思春期(1)―――乳幼児期との比較をとおして生徒を理解する			
第11回 思春期(2)―――思春期の課題			
第12回 青年期(1)―――青年期のライフイベント、現代の青年			
第13回 青年期(2)―――キリスト者の心理特性、青年ルター			
第14回 自分自身を知るⅡ―――エゴグラム、信仰と自我			
第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ プリントを読み返し、次の授業までに、レスポンスペーパーに意見・感想等を書いておく。			
＜テキスト＞ 授業中に資料を配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席を前提とし、授業への参加状況（レスポンスペーパーやディスカッション）による評価、および期末レポート（1回）により評価する。レポートの評価に当たっては、共通評価指標（1）①～⑤を重視する。また提出期限遵守のこと。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
特別支援教育概論		森 真弓	<担当形態> 単独
後期・２単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教育の基礎的理解に関する科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<授業のテーマ> 発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒について、支援に必要な知識や支援方法を学ぶ。			
<到達目標> 学生は、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、将来、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために、必要な知識や支援方法を理解する。 学生は、ASD、ADHD、LD のみならず、特別支援教育の対象である「視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等」の幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身につける。			
<授業の概要> 特別支援教育とは並びに発達障害とはという大きなテーマの学びから始まり、各障害の特性を理解し、支援方法を学んでいく。ASD、ADHD、LD については其々理解と支援に分けて学ぶ。学生による発表という形をとる。			
<履修条件> 特にない。			
<授業計画> 第１回 ガイダンス（全体の概要と発表者の決定） 第２回 発達障害とは 第３回 特別支援教育とは 第４回 通級による指導 第５回 ASD について 第６回 ASD の支援 第７回 ADHD について 第８回 ADHD の支援 第９回 LD について 第１０回 LD の支援 第１１回 知的障害と支援 第１２回 視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱と支援 第１３回 言語障害・情緒障害と支援 第１４回 母国語や貧困の問題等 第１５回 まとめ			
<準備学習等の指示> 発表の担当は十分に時間をかけてテキストを準備し、そのテーマについて自分の言葉で伝えられるようにしておく。自分の発表ではない回も、問題意識をもって各回のテーマについて考え、レスポンスペーパーに意見・感想をまとめる。			
<テキスト> 授業時に資料を配布する。			
<参考書・参考資料等> 森マミ著『大人になった発達障害の仲間たち』（いのちのことば社、2019 年）（担当者が用意する）			
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提とし、授業への参加状況、発表（１～２回）、レスポンスペーパーにより評価する。発表内容の評価については、共通評価指標（１）①～⑤を重視する。また発表時間 20～25 分を満たしているかについても評価の対象となる。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
教育課程・特別活動論	山口 博	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）	
	<科目>	
	教育の基礎的理解に関する科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	
教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） 特別活動の指導法		
<授業のテーマ>		
「特別活動指導法」及びカリキュラム・マネジメントを含めた「教育課程の意義及び編成の方法」の内容を学ぶ。 キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）における特別活動の位置を学ぶ。		
<到達目標>		
受講生が教育課程（カリキュラム）における特別活動の意義を踏まえ、赴任校において学校礼拝等の実際に当たれることを到達目標とする。		
<授業の概要>		
学習指導要領の主旨に沿った中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）の意義と編成を、現状を踏まえつつ全体的に把握したい。その上で特別活動のあり方を諸局面に即して検討し、それらの集団活動を通して、生徒の個性と人間性を育成する道筋を明らかにしていく。授業後半に学校礼拝奨励のプレゼンを課題とする。		
<履修条件>教職免許状取得希望者		
<授業計画>		
第1回	序論 キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）及び特別活動	
第2回	学習指導要領の変遷	
第3回	教育課程（カリキュラム）の意義と評価	
第4回	教育課程（カリキュラム）の編成と現状	
第5回	キリスト教学校における教育課程（カリキュラム）	
第6回	カリキュラム・マネジメントの実施と評価	
第7回	特別活動の目標	
第8回	ホーム・ルーム活動の意義と特質	
第9回	学校行事の意義と特質、現状分析	
第10回	学校礼拝の意義と特質（これ以降の授業後半において学校礼拝奨励のプレゼンを全員に課す）	
第11回	式典について	
第12回	生徒会活動とクラブ活動について	
第13回	ボランティア活動と国際交流について	
第14回	総合的な学習について	
第15回	総括	
定期試験		
<準備学習等の指示>		
学校礼拝奨励等の原稿提出準備を課す		
<テキスト>		
『中学校学習指導要領』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う。 『高等学校学習指導要領』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う。 『中学校学習指導要領解説』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う。 『高等学校学習指導要領解説』文部科学省（最新版）「特別活動編」を扱う。 文部科学省、HPよりダウンロードも可。		
<参考書・参考資料等>		
『キリスト教学校に勤めるということ』―現場の声― キリスト教学校教育同盟 監修		
<学生に対する評価（方法・基準）>		
レポート及び試験と授業への参加姿勢によって評価。評価にあたっては「共通評価指標（1）」によって評価する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目		
道徳指導法	菱刈 晃夫	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）	
	<科目>	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>	道徳の理論及び指導法
<授業のテーマ> 教職志望者にとって必要不可欠な、道徳教育に関する教育学的知識と実践的指導力の修得をテーマとする。		
<到達目標> 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。		
<授業の概要> 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等について概説し、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身につける。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回：導入・「道徳」への問い。道徳とは、道徳教育とは。道徳教育の課題(いじめ・情報モラル)について。 第2回：道徳の本質（１）「道徳」の語義について。 第3回：道徳の本質（２）近代の「道徳について」。 第4回：道徳の本質（３）現代の「道徳」について。いじめ・情報モラル等について。 第5回：道徳教育(補足して宗教教育)の歴史について。 第6回：学校教育のなかの道徳教育—学習指導要領など—（１）。 第7回：学校教育のなかの道徳教育—道徳教育の指導計画など—（２）。 第8回：中学生における道徳性の発達段階とその特徴。 第9回：道徳の授業の基本型について。 第10回：道徳授業の構想に基づく指導案の作り方について—教科書、読み物資料を用いた授業—。 第11回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（１）。中学校１年生を中心に。予備学習として指導案作成・提出。 第12回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（２）。中学校２年年を中心に。予備学習として指導案作成・提出。 第13回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（３）。中学校３年年を中心に。予備学習として指導案作成・提出。 第14回：学生による「道徳の内容」別模擬授業（４）。中学校全学年より補足。予備学習として指導案作成・提出。 第15回：道徳授業の創意工夫、そして総括。 定期試験は実施しない。		
<準備学習等の指示> 授業中に指示された箇所を予め読んでワークシートに要点を記し、授業後には振り返ってまとめておくこと。		
<テキスト> 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（最新版、文部科学省、HPよりダウンロードでも可）。 菱刈晃夫『教育にできないこと、できること—基礎・実践・探究—〔第５版〕』（成文堂、2022年）。各自で購入すること。必ず最新の〔第５版〕であること。		
<参考書・参考資料等> とくになし。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 模擬授業および指導案作成の内容(40%)。レポート試験(30%)。平常点(30%)。平常点は、毎時間ごとのワークシートの記入状況を総合して判断する。評価にあたっては、共通評価指標（１）の①～④の内容を重視する。		

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教育の方法と情報技術		竹井 潔	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
＜授業のテーマ＞			
学生が教育の方法論や教育技術、情報通信技術を理解して授業を設計し、その中で情報機器を活用した効果的な授業展開が行えるような能力を身に着ける。			
＜到達目標＞			
学生が中学、高等学校の授業において教育の方法論や教育技術、情報通信技術（ICT）を理解して情報機器や教材を適切に活用し、多角的な授業展開が行えるようにする。			
＜授業の概要＞			
教育の方法論や教育技術、情報通信技術（ICT）について理解する。学生が授業の設計を行い、パソコンでプレゼンテーションソフト等により授業の教材を作成し、実際に模擬授業を行う。学生同士の相互評価を行うことにより模擬授業の振り返りを行い、お互いに教育方法の向上を目指す。将来教員になった場合、情報通信技術（ICT）を適切に活用することにより、受講者の立場に立ったわかりやすい授業展開ができるような能力を実践的に身に着ける。			
＜履修条件＞			
パソコンを使うため、パソコンの基本操作や Microsoft Office ソフトの基本的な操作ができること。または情報基礎を履修していること。			
＜授業計画＞			
第１回 学習指導要領と教育方法			
第２回 教育方法とアクティブラーニング			
第３回 アクティブラーニングの方法			
第４回 授業における創造的なグループ討議の進め方			
第５回 プレゼンテーションの方法と進め方			
第６回 プレゼンテーションの技術、留意点			
第７回 授業の学習指導案（授業プラン、進め方・方法）作成について			
第８回 情報通信ネットワークの基本的知識の理解			
第９回 授業での効果的な情報通信技術の活用			
第１０回 情報通信技術を活用したオンライン授業の方法と進め方			
第１１回 情報活用能力の理解（情報モラル含む）			
第１２回 情報通信技術を活用した教材作成の方法			
第１３回 情報通信技術を活用した教材作成			
第１４回 情報通信技術を活用した模擬授業実施及び相互評価			
第１５回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞			
授業中に必要に応じて指示する。			
＜テキスト＞			
授業中に必要に応じて指示する。			
＜参考書・参考資料等＞			
文部科学省「中学校学習指導要領」・「中学校学習指導要領解説」総則（最新版）			
文部科学省「高等学校学習指導要領」・「高等学校学習指導要領解説」総則編（最新版）			
文部科学省「教育の情報化に関する手引」			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞			
平常点（５０％）・期末課題（５０％）			
平常点及び期末課題の評価にあたっては、共通評価指標（１）の①～⑤の内容を重視する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
生徒・進路指導論		水口 洋	＜担当形態＞ 単独
前期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
＜授業のテーマ＞ 生活指導・進路指導及びキャリア教育の学校教育における目的・内容・方法について理解を深め、より現実的で実際の指導法と生徒との関わり方を探求する。			
＜到達目標＞ 生徒指導・進路指導及びキャリア教育の目的・内容・方法を具体的に理解する。現在の学校教育の中での問題点を知る。聖書科教員としての生徒との関わり方を考察し、将来現場での実践に役立てる。			
＜授業の概要＞ 生徒指導・進路指導及びキャリア教育の目的・内容・方法を知り、具体的な事柄や現場の出来事を通して、実際にキリスト教学校の教員となった時に、その教育を担う者として心すべき生徒指導・進路指導・生徒理解のあり方を考察する。			
＜履修条件＞ 教職課程履修者			
＜授業計画＞ 第 1 回 授業内容ガイダンス～生徒指導を可能にするもの 第 2 回 生徒指導と教育課程①～授業を整える 第 3 回 生徒指導と教育課程②～特別活動を通してのキャリア教育 第 4 回 生徒指導と教育課程③～進路を見据えた総合的な学習の展開 第 5 回 生徒指導と教育課程④～道徳教育とキャリア教育 第 6 回 生徒指導と教育課程⑤～自己実現を目指しての進路指導・キャリア教育 第 7 回 生徒指導と進路指導・キャリア教育との相関関係 第 8 回 生徒指導・進路指導とホームルーム担任 第 9 回 魂に触れる指導（キリスト教学校の独自性） 第 10 回 問題行動の理解と指導①～同質性が生む問題 第 11 回 問題行動の理解と指導②～SNS の浸透と人間関係の変化 第 12 回 問題行動の理解と指導③～発達障がいもたらすもの 第 13 回 問題行動の理解と指導④～生活指導の諸問題 第 14 回 問題行動の理解と指導⑤～家族の問題 第 15 回 まとめと総括～未来へ向けての生徒指導とチーム力			
＜準備学習等の指示＞ その都度、次週の準備を指示する。			
＜テキスト＞ 文部科学省「生徒指導提要」（最新版） 文部科学省「中学校学習指導要領」（最新版） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説・総則編」（最新版） 文部科学省ホームページよりダウンロードも可			
＜参考書・参考資料等＞ 水口洋「教育を考えるあなたに」（いのちのことば社） 他は授業中に指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ レポート、発表、授業への貢献度を総合的に評価する。共通評価指標（１）①、③、④で評価する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教育相談・総合的な学習の時間の指導法		水口 洋	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞ 総合的な学習の時間の指導法 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
＜授業のテーマ＞ 思春期の発達とその課題を知り、教師としての対応やカウンセリングマインドを持って接する際の問題点を知り、総合的な学習（探究）の時間の指導法を用いて、人間理解と具体的な対応力を身につけていく。			
＜到達目標＞ ①思春期・青年期の発達の課題を理解する。 ②生徒をわかろうとする心（カウンセリングマインド）を働かす現場の必要を理解する。 ③総合的な学習（探究）の時間の指導法を学び、その手法を身につける。 ④カウンセリングの基礎理論及び知識の習得と教育相談の実際を学ぶ。			
＜授業の概要＞ 教育相談が成立するためには、教師と生徒の関係性が構築されていなければならない。教師が自分の準拠枠を外して生徒の心に寄り添うにはカウンセリングマインドを持って接することが大事とされる。生活指導とカウンセリングが車の両輪として、教師の人格の中に、学校という組織の中に矛盾なく存在するために、磨くべき知識と行動を学ぶ。学校に起こる現実問題を事例として「総合的な学習（探究）の時間」の指導法を用いて学び、生徒が主体的に学ぶための力を養成するするとともに、その指導法を身につける。			
＜履修条件＞ 教職課程履修者			
＜授業計画＞ 第 1 回 カウンセリングの基礎知識①～生徒を理解する 第 2 回 カウンセリングの基礎知識②～日本の学校教育と相談活動 第 3 回 カウンセリングの基礎知識③～生徒をどう観るのか 第 4 回 「総合的な学習の時間の指導法」の意義と原理①～役割、目標、実施 第 5 回 「総合的な学習の時間の指導法」の意義と原理②～評価の方法とその留意点 第 6 回 総合的な学習の時間を創造する①～総合的な学習の時間の内容と年間計画・単元計画の立て方 第 7 回 総合的な学習の時間を創造する②～各教科・特別活動との連携の実際 第 8 回 総合的な学習の時間を創造する③～教師の姿勢（ファシリテーターとしての役割） 第 9 回 総合的な学習の時間を創造する④～主体的・対話的な授業展開の創造（演習 1） 第 1 0 回 総合的な学習の時間を創造する⑤～主体的・対話的な授業展開の創造（演習 2） 第 1 1 回 事例を通して考える①～不登校、いじめ 第 1 2 回 事例を通して考える②～自傷、依存、摂食障害 第 1 3 回 事例を通して考える③～暴力行為、非行 第 1 4 回 事例を通して考える④～発達障害と愛着障害 第 1 5 回 まとめと総括			
＜準備学習等の指示＞ 授業ごとに次週の授業の指示を行う。			
＜テキスト＞ 文部科学省「中学校学習指導要領解説・総合的な学習の時間編」（最新版） 文部科学省「高等学校学習指導要領解説・総合的な探究の時間編」（最新版） 文部科学省ホームページよりダウンロードも可			
＜参考書・参考資料等＞ 水口 洋「人生の季節の中で」（いのちのことば社） 他は授業中に指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ レポート、発表、授業への貢献度を総合的に評価する。共通評価指標（1）①、②、④、⑤で評価する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教育実習Ⅰ		小泉 健 長山 道	<担当形態> 複数
通年・5単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校）、選択科目（高等学校）		
	<科目> 教育実践に関する科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等> 教育実習		
<授業のテーマ> 教育実習校での実習を中心として、学校教員の働きを実地に学ぶ。			
<到達目標> 聖書科授業を行うための実践的教授力、指導力を身に着ける。その他の学校教員の職務について理解する。			
<授業の概要> キリスト教学校で教育実習が行われる。学内では事前、事後の指導を行う。			
<履修条件> 前年度に教育実習予備登録を済ませ、実習校から受け入れ通知を得ていること。			
<授業計画> 1. 教育実習事前指導 4月18日（月）9時～16時 教育実習の意義と心得、内容、生徒理解等について講義を行う。 2. 実習校での教育実習 3. 教育実習事後指導 12月5日（月）9時～16時 全員が教育実習の振り返りの報告をし、それに基づいて討論する。 報告すべき内容については、あらかじめ通知する。 事前指導と事後指導を含む全体で本学の授業としての「教育実習」が構成されている。事前指導、事後指導を欠席すると、教育実習の単位そのものを取得できない。必ず出席すること。			
<準備学習等の指示> 実習校での実習にあたっては、事前指導に基づいて適切に準備すること。 事後指導では報告の発表を求めるので、準備した上で授業に臨むこと。			
<テキスト> 必要に応じてプリントを配布する。			
<参考書・参考資料等> 『キリスト教学校に勤めるということ——現場からの声』キリスト教学校教育同盟 『キリスト教学校の教職員をこそろさず人たちへ——志望者のためのガイドブック』キリスト教学校教育同盟 いずれも担当者が用意する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習校からは「成績報告書」が送られてくる。そこでの評価を参考にしつつ、さらに事後指導での発表、討論を踏まえて総合的に評価する。 実習なので共通評価指標は必ずしも当てはまらないが、事後指導での発表については、(1)の⑤を重視する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教育実習Ⅱ		小泉 健 長山 道	<担当形態> 複数
通年・3単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択必修科目（高等学校）		
	<科目>		
	教育実践に関する科目		
	<施行規則に定める科目区分又は事項等>		
教育実習			
<授業のテーマ> 教育実習校での実習を中心として、学校教員の働きを実地に学ぶ。			
<到達目標> 聖書科授業を行うための実践的教授力、指導力を身に着ける。その他の学校教員の職務について理解する。			
<授業の概要> キリスト教学校で教育実習が行われる。学内では事前、事後の指導を行う。			
<履修条件> 前年度に教育実習予備登録を済ませ、実習校から受け入れ通知を得ていること。			
<授業計画> 1. 教育実習事前指導 4月18日（月）9時～16時 教育実習の意義と心得、内容、生徒理解等について講義を行う。 2. 実習校での教育実習 3. 教育実習事後指導 12月5日（月）9時～16時 全員が教育実習の振り返りの報告をし、それに基づいて討論する。 報告すべき内容については、あらかじめ通知する。 事前指導と事後指導を含む全体で本学の授業としての「教育実習」が構成されている。事前指導、事後指導を欠席すると、教育実習の単位そのものを取得できない。必ず出席すること。			
<準備学習等の指示> 実習校での実習にあたっては、事前指導に基づいて適切に準備すること。 事後指導では報告の発表を求めるので、準備した上で授業に臨むこと。			
<テキスト> 必要に応じてプリントを配布する。			
<参考書・参考資料等> 『キリスト教学校に勤めるということ——現場からの声』キリスト教学校教育同盟 『キリスト教学校の教職員をこころざす人たちへ——志望者のためのガイドブック』キリスト教学校教育同盟 いずれも担当者が用意する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習校からは「成績報告書」が送られてくる。そこでの評価を参考にしつつ、さらに事後指導での発表、討論を踏まえて総合的に評価する。 実習なので共通評価指標は必ずしも当てはまらないが、事後指導での発表については、(1)の⑤を重視する。			

教職課程科目・教科及び教職に関する科目			
教職実践演習（中・高）		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞ 教職課程の最終段階で履修する	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための必修科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞		
	教育実践に関する科目		
	＜施行規則に定める科目区分又は事項等＞		
教職実践演習			
＜授業のテーマ＞ 教職課程全体を振り返り、不足している知識、技能を補い、教員として必要な資質能力を養う。			
＜到達目標＞ 教職に関する科目と教科に関する科目とが統合され、学校教員として必要な資質能力として結実すること。			
＜授業の概要＞ 各自が自分で補うべきテーマを発見、設定し、役割演技、事例研究、模擬授業などを行いながら、教員としての資質能力を実践的に確認する。			
＜履修条件＞ 第１回の授業に、記入済みの「履修カルテ」を持参すること。 教育実習を終えているか、もしくは本年度に教育実習を行う者であること。			
＜授業計画＞ 第１回 教職課程の振り返りと課題の発見 第２回 キリスト教学校の使命と宗教主任の役割 第３回 カリキュラムの構想、授業をする力 第４回 教師としての話し方・聞き方 第５回 聖書教育、道德教育、こころの教育 第６回 教会との協力 第７回 生徒理解 第８回 個々の子どもの特性や状況への対応、いじめや不登校への対応 第９回 学級経営 第１０回 他の教職員との協力 第１１回 保護者会、保護者への伝道 第１２回 学校礼拝の形成、学校行事での役割 第１３回 授業における ICT 活用の工夫 第１４回 ICT を活用した模擬授業 第１５回 聖書科における ICT 利用をめぐる検討			
＜準備学習等の指示＞ 毎回のテーマについて主体的に参加できるように準備する。発表の準備をていねいに行う。			
＜テキスト＞ 必要に応じて、授業時にプリントを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ これまでの教職課程の授業で用いた文献、ノート等がすべて参考資料となる。 発表に必要な参考資料については、個別に指導する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 演習における発表と参加によって評価する。共通評価指標（１）の④と⑤を重視する。			